

運がよくなる

四柱推命の使い方

天野
雲海

はじめに

二千八年は、金融工学を駆使して荒稼ぎをしてきた金融資本が壊滅し、世界的に金融不安が高まり、あつという間に実体経済にもその影響が波及しました。こういう激動の時代であるからこそ、占いに携わる人達は、明るい光を照らさなければなりません。日本とは、太陽の国という意味です。お金や経済発展を求めて戦後急激に発展してきましたが、同時に月の波動を忘れて数十年間生きてきました。月の波動とは、精神的な豊かさや安定や幸せです。これからの生き方を見直す絶好の機会（太陽と月のバランスをとる）を神様から与えられたと感謝したほうが良いのです。世界で一番お金を貯金している国が日本です。そういう恵まれた国に生まれながら、不満を言い、暗い気持ちになっている人が多いのです。こんな雰囲気になりやすい理由には義務教育の問題があります。他人と異なることがダメだと見なされる風潮は、他人がダメなら自分もダメだと思い込みやすくなります。他人がダメでも、自分だけは勝ち抜いてみせるという反骨精神が育ちにくい風土です。他人と異なることを認めるのが占いです。他人とは異なる個性を活用して幸せになるのが占いの使い方です。当たる当たらないという使い方をしても、その人が幸せになることはありません。また、欠点を指摘してそれが簡単に直ることもありません。筆者も、欠点を直そうなんて思っています。欠点を見つけるために占いを学習するのではなく、新しい自分を発見するために占いを学習するほうが幸せになります。占い産業に携わって二十年以上になりますが、人の魂に火を灯す道具として占いを使うべき時代になってきました。そういう思いがあって、「運がよくなる四柱推命の使い方」というタイトルにしました。占いスクールなどをやりたい方の参考になれば幸いです。

目次

運が良いとか悪いという前に	7
キリスト教的善と悪	7
日本神道的な善と悪	10
女は愛したい生き物 男は愛されたい生き物	13
占い流派の違い	14
阿部泰山	14
独自の道を歩んだ人達	15
流派で結局何が違うのか？	16
受講生Kさんとの会話（四柱推命全般）	17
五行からみた精神論	21
輪廻転生から見た魂	34
人の構造と四柱推命	44

人の構造	44
通変星とは価値観です	45
価値観には吉凶はありません	45
価値観は精神の欲求の相互作用から生まれます	46
通変星の位置によって解釈を変える	46
受講生Kさんとの会話（霊能者と直観）	47
目標となる人物（印星の事例）	56
目標となる人物（星の欠点を逆手にとって成功）	57
サポートすべき人物の目標	63
未来予知の考え方	65
受講生Yさんとの会話（心理学と運命学と未来予知）	67
星平会海 ^{せいへいかいかい} って難しくない	76
受講生Kさんの四柱推命	76
受講生Kさんのホロスコープ	84
受講生Kさんの紫微斗数推命の命盤	87

一夫一妻制というシステムでは誰が得をするか？	95
人生相談の事例（三十代後半の女性で困ったことがないという相談）	100
天国に行く人、地獄に行く人	108
聖書に見る日本人のルーツ（創世記）	109
聖書に見る男の仕事・女の仕事（ノア・モーセ・イサク家庭）	110
聖書に見る因縁切りの実際（ヤコブの家庭）	112
極楽への道	116
受講生からの質問	117
女性にもてないという質問	117
金持ちになりたいという質問	118
男と女の愛の質問	119
お金持ちになる人は財星がないという質問	120
父親が十六歳のときに自殺しているのですが	122
神様がいるとしたらどうして戦争が続くのですか	123

フォーチュンソフトの書籍の紹介

125

運が良いとか悪いという前に

運が良いとか悪いのを診断するのが占いだということになっています。本当でしょうか？プロの占い師の多くは相談者が来ると長所を誉め、短所を指摘して直すことをアドバイスしています。また、占いスクールに来る生徒さんも最初はそう思っています。しかし、できもしないことを言っているということに誰も気がつかないようです。筆者は、短所を他人から指摘されてそれを直せる占い師を二十一年間で一人も見ただことありません。自分・が・でき・ない・こと・を・他人・に・言・っ・て・い・る・わ・け・で・す。それでお金を取るなんておかしくありませんか？自分ができないということは、短所を直す技法を占い師自身が理解していないということです。理解していないことを言ってお金を取るのは変ではありませんか？筆者は自分ができないことを人に教える気持ちにはなれません。だから、欠点を直しなさいなんていう偉そうなアドバイスはしたことがありません。

キリスト教的善と悪

運が良いとか悪いという思考は、善なるものと悪なるものに分けて思考するという発想です。ここから先の話は巧妙に人の心理に作用している内容なので分かりにくいかもしれませんが、しかし、知らず知らずのうちに我々の心の奥底にしみこんでいる内容です。善と悪の対立を二千年間もおおってきたのがキリスト教的思考です。キリスト教の聖典は聖書です。聖書には人類の創世記の物語があります。人類の始祖から善なるものと悪なるものが分かれてしまったという内容です。人類最初の男がアダム、人類最初の女がエバです。エバがとって食べては

ならない木の実を食べて墮落してしまつたというのが聖書の物語ですね。人類の最初の人が罪を犯した、そこから生まれたすべての人類は罪を背負つて生まれているはずという物語なのです。これを原罪というのです。アダムとエバの子供は長男がカインで次男がアベルですが、カインがアベルを殺害しました。アベルは善なる存在であり、カインは悪なる存在であるとされています。ここで、善なるものと悪なるものを二分する思考が植えつけられます。キリスト教はこれをうまく利用しているのです。お前たちは生まれながらに罪を背負っているのだからどうしようもないのだと、罪を背負っていない存在に助けてもらうしかないのだ。罪を背負っていないのは、神様で百パーセント善なる存在です。神様は完全無欠の存在ですから、人間は神様に救いを求めなさい。自力での開運なんかできませんよ、と言っているのです。誰かにすがつて他力開運してもらいなさい。生まれ持った瞬間に罪が発生しているのだからあきらめなさい。こんな教えです。ところが、人間は神様と会話できないですね。見えないし、言葉も分からないし。でも、分かる存在がいる、それが救世主のメシヤです。しかしメシヤ一人では全人類を世話できないので代理店を作ろうと考えた。それが、教会です。すべての人は教会組織に頼つて罪を許してもらいなさい。大衆がこういう発想をすれば、だれが一番得をするでしょう。国を支配する支配者ですね。つまり、王様、国王です。国民を統治しやすくなるのです。こういう他力本願の発想が植えつけられていると国を転覆させようするパワーと気力のある人が育つわけはありません。自分たちを救ってくれるのが教会であり教会を支配しているのが国家の支配者なのだから、国家を転覆しようなんて人は出てこないですよ。見事な国家安泰の思想ですね。おそらく今のキリスト教は、本来のキリスト教とは全然違う教えになっています。国家統治に都合のいいように変えられてしまつているはずですよ。イエスキリストは何をやったのかと言うと、自力開運をやつたわけでしょう。十字架にはり付けになつても俺は間違つていないんだ、と言う人生を押し通したわけですよね。

他力開運などの思考はこれっぽっちもありません。イエスキリストは自力開運を目指した人生なのに、イエスキリストを信じる人達はなぜ他力開運なのでしょう。そこが変なんです。

完全無欠の神様から生まれたメシアは、やはり百パーセントじゃなきゃいけないですよ。百パーセントの存在は、百パーセントの存在からしか生まれません。でも、人間は原罪のある男と原罪のある女がセックスして生まれますよね。その人間が百パーセントになるかというところがおかしいですね。そこで、キリスト教会は困ってしまっただけです。だからイエスを処女から生まれたという作り話をでっち上げたのです。イエスキリストは、女の腹から生まれたんじゃないという、オカルト過ぎてだれも信じないので、せめて女の腹から生まれたことにしよう。しかし男とセックスして生まれたんじゃない、お父さんは誰だという話になります。そうすると、お父さんは、原罪背負って生まれているのに、なぜその子供はメシアなのか、という矛盾が発生しますね。ですから処女から生まれたとなつたわけですよ。こういう偽善がもう暴露されていますから、おそらくキリスト教会はこれから全世界的に崩壊します。

こういう偽善なるものに気がついたのでドイツの哲学者のニーチェで「アンチキリスト」という書籍を書いたんです。ヒットラーもこれに気がついたらゆえに、ユダヤ人の迫害をしたわけです。豊臣秀吉も気がついてキリスト教を迫害しました。ドイツ人と日本人が多いんですよ。そしてこういう暗い人生観を植えつけてはいけないというところで人間復興したのがイタリアですね。ルネサンスです。ルネサンス時代はミケランジェロ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエロなどの多くの天才が生まれたでしょう。暗いキリスト教的人生観、善と悪とを二分する時代を改革するのは日独伊の同盟かもしれませんね。ドイツの機械産業、日本の電子技術、イタリアのデザイン芸術、これが組んで世界を動かしていくかもしれないですよ。人情的な目で判断して、迫害した人が百パーセ

ント悪なる人だと思っていれば、もうその人はキリスト教的な二分思考の罠にはまっています。

日本神道的な善と悪

次に、日本の神様について説明しましょう。キリスト教的な人間観（生まれながらに罪人）を信じるか、それともこれから説明する日本的な人間観（生まれながらに無罪）を信じるかは読者自身が決めることです。日本の国づくりは古事記に書いてあります。イザナギとかイザナミとかです。『スピリチュアル紫微斗数推命』の書籍の最後に書いてありますが、イザナギという男神と、イザナミという女神が結婚して日本という国をつくったのですが、イザナミが子供を産んで死んでしまったのです。で、あの世に行ってしまったのです。しかし、イザナミを忘れられないイザナギがあつたのでイザナミに会いに行ってしまったのです。あの世まで行ってお迎えしたイザナミはなんて言ったかというところ、「よく来てくれました、でも私はあの世の人間です、もうあなたとは会えませんが」「いや、そんなことはない、つれて帰りたいんだ」「じゃ、少し待ってください。だけど絶対にこの部屋の戸を開けてはなりません」こう言っている部屋の中に入ってしまったんです。しかし待っても待ってもイザナミは出てこない。どうしたのかなと思つて戸を開けてしまった。そしたら蛆虫に食われたイザナミがいた。蛆虫に食われた姿を見て、これはいかに、ということに慌てて現世に帰ってきた。蛆まみれになったイザナミは、見たな、ということに追いかけて来ました。イザナギは必死に逃げ、最後に桃の実を投げてイザナミを退治してこの世に戻ってくる事ができました。そこでああ、汚れてしまったということ、禊ぎを行ったのです。禊ぎというのは、ここで初めて使われたのです。もう一度再出発して生まれたのがスサノオとか日本を作った神様なのです。キリスト教との違いは明確です。最初に女が罪を犯したというのは共通点なのですが、キリスト

教はすべての人類は罪を背負ってしまつて、これ以降みんな原罪を背負つて生まれてきますという発想です。他力開運しかありません。ところが日本の宗教は、禊ぎができます。汚れてしまつたら禊ぎをすればまたきれいになるのです。イザナギが汚れに気がつくというのは、もともとは汚れていなかったからなのです。もともとは聖なるものだから汚れたということが自覚できたわけです。もともと人間は汚れていない、もともと人間は罪がない、原罪はないという発想です。汚れてもそれをきれいにできますよという発想。つまり百パーセント自力開運なのです。どこにも他力開運という発想はないのです。罪を犯してもいいのです。汚れたら禊ぎをしてまた出直せばいいんです。いくらでも出直しがきくという発想なのです。神様さえ失敗しているんです。女が恋しい女が恋しいといつて失敗しているんだから、人間だつて失敗して当たり前じゃないですか。それを失敗を恐れてどうしようと悩むのは傲慢です。これでは開運できないんです。

失敗を恐れる心は邪心

失敗を恐れる心は邪心です。失敗を恐れる心、恐怖心、自分だけが傷つきたくないというのは悪魔の心ですが、これを巧妙に刺激するのが占い産業です。占い業界は自力開運の思考では儲からないのです。他力開運にしないと儲かりません。女性雑誌とか、占いコンテンツを分析するとよく分かるのですが、一番売れるタイトルは何かというと、「彼は私の事をどれだけ愛してくれているの？」です。このタイトルを言葉を変えると次のようになります。

あの人の心に、あなたを想う気持ちはどれくらいある？確かめたいあの人の気持ち…「本気」それとも「遊び」。好きな人がいます…この恋は成就しますか？ちょっと好きになったかも…彼の本当の気持ちを知る。気になるあ

の人、向こうはどう思っているの。あの人が今、私に伝えたいことは何。あの人の気持ち：私のこと本気で好きなの？あの人のすべてがわかる。この不安から逃れたい。どうしたら彼の気持ちをつなぎ止められる。こんな予兆が出ていたら、あの人とあなたの関係が危険な状態です。私の未来に恋焦がれていたあの人はいますか？それとも…。あなたの想いは今、あの人に通じてるのかそれともまだ？。

このようなタイトルは恐怖心に支配された女性をとりこにします。これが必ず売れるという定番タイトルなのです。このタイトルを見てどう思いますか。他力開運そのものですね。自分から何かをしようというタイトルは一切ないんです。誰かが何とかしてちょうだいというように、誰かに救いを求めているというタイトル、これが売れる秘訣なのです。悪魔的でしょう。これがわからない女の人は、やっぱり馬鹿なんです。馬鹿と言いましたがその本当の意味はあとで説明します。占いなんぞに頼らないで、彼の気持ちは本人に直接聞いてみたら。こう思ってしまうのです。本人に聞くと百パーセント正解の答えが返ってきますよね。占いだと気持ちのいいことしか書いていませんから。こういうことを占いで知りたいという欲求自体が、運を下げるのです。同じように、「来年いいことありますか？」ちようど年末にかけて、来年どうなりますか？というのが流行りますが、いいことありますか？という完全に他力本願の内容です。こういう欲求が運を下げます。運を下げるタイトルを作れば売れるんです。人の運を上げて下げて下げてまくる会社が儲かるのです。こういう構造になっているのです。上場している会社のなかには、これを知っていてやっている人もいますよ。

他力開運を薦め教会を頼りなさい、そうしたらあなたは救われますよ、というのがキリスト教の実体ですよ。占い産業も構図がまったく一緒なんです。女性はほとんどこれに引っかかりますから。自分で確認せずに、私以外に浮気していませんか？浮気される心配はありませんか？彼は私のどの部分を見て魅力と感じているのです

か？こういったタイトルを思いつければ、どこまでも儲かるのですよ。もう、こういう不安を刺激するようなビジネスはやめなさいといけません。占い産業だけではないですね。TVも新聞も週刊誌も、不安をあおるものばかりです。不安を刺激すれば本も週刊誌も売れるでしょう。不安をあおる新聞は買わない、不安をあおる本も買わない、不安をあおる週刊誌も買わない、不安をあおるTVを見ない、こういった反乱を起こせば、日本も変わります。

女は愛したい生き物 男は愛されたい生き物

男と女の問題に関する本や占いの内容は、どんな文献を読んでもスッキリしませんでした。ところが、やっとスッキリすることができました。齊藤一人さんという日本一のお金持ちの講演会で聞いた一言がスツと筆者の奥まで素直に入ってきました。それは、男は愛を受けたい生き物であり、女は愛を授けたい生き物であるということです。つまり、「彼は私の事をどれだけ愛してくれているの？」という女性の心理そのものが間違っているのです。正確に言えば、本当の心を偽っているテーマなのです。ですから、賢明な女性達はこんな占いを使うことは絶対にありません。「彼は私の事をどれだけ愛してくれているの？」という言葉に惹かれる女性は馬鹿な女性達なのです。ここで、馬鹿というのは、馬のことを鹿という人達という意味で無能という意味ではありませんよ。つまり、女性の本当の心は、「私は彼のことをどれだけ愛することができるのか？」が本当の心のはずなのです。男の本当の心は、「俺は彼女からどのくらい愛してもらえるのか？」が本当の心のはずなのです。愛においては、女性のほうがはるかに精密で丈夫で大きいのです。もつと言えば、男は女から選択される生き物なのです。男が女を選択するわけではありませんよ。女が男を選択するのです。女は男から選択されるわけではありません。

ん。男はどんな女の人からでも、愛をもらうと嬉しくなります。筆者もそうです。あなたを愛したいと言われればいちころです。でも、女の方は、好きな男以外から愛をもらっても嬉しくありません。主体的に愛したい生き物だからです。これを知っていれば、男は女のケツを追いかけようなどとはなくなりません。女から選ばれる男になることに一生懸命になるべきなのです。今の日本ではまずは経済力が男の魅力でしょう。女から見てもカッコイイ男になるうではありませんか。だから、男は金持ちにならないといけません。

占い流派の違い

阿部泰山
あべたいざん

四柱推命を学習する人は、阿部泰山（故人）という名前を知ることになるでしょう。中国大陸の数々の運命学の原書を翻訳して日本に普及させた方であり、『阿部泰山全集』を残した方です。運命家の名前に「泰」の字が入っていれば泰山流を暗示しているともいわれます。しかし、当社には自称泰山流という鑑定士から百人以上の資料が送られてきましたが、それぞれの内容が異なっていて、泰山流という名前でグループ化するのとはよくない方法だと思っています。筆者が二十年前に泰山流を教わったのは、見上槐山系列の先生でしたが、そのときからすでに見上槐山自身が阿部泰山の残した文献をかなり改良しており、さらに見上槐山の弟子であった先生もオリジナルな理論をかなり加えていました。阿部泰山の弟子には、見上槐山・関谷泰史・伊藤泰苑・今田名泰・梅川泰司などがいて、現在は緒方泰州氏がその著作の多さでは知られています。これらの人達は漢文で書かれた中国の原

書を訳して研究を進めました。しかし、この原書というのが矛盾に満ちているので、聖書と同じく解釈の仕方は本人の裁量に任せられています。聖書を聖典とする宗教もカトリックがあり、プロテスタントがあり、何千と流派があるでしょう。同じように同じ原本がありながら、解釈する人の自由に任せられる部分があるので、千人の人が読むと、千通りの解釈の仕方が生まれるということです。ただ一つの正解を捜し求めること自体が無理です。それよりも、自分に合った解釈の仕方はなんなのか、それを自分で発見したほうが幸せになります。どれが真理かを探し求めて研究しても百年かけても答えはありません。自分が開運出来る理論ってこれじゃないかな、というのを発見できればそれでいいんじゃないかと思えます。このように、基本的には完成されていない学問が四柱推命であり、これが正しいというものではなく、多くの人が自分が使いやすいように日々改善しているものが運命学だと理解したほうが現実的でしょう。

独自の道を歩んだ人達

同じ原書を基本にしながらも、武田考玄(故人)、西澤有宗(故人)らはいずれも「泰」という字がついておらず、独自の道を歩みました。独自の道を歩んだ中でも最も風変わりなのが佐藤六龍とむらでしょう。透派とむらという中国の流派の当主から直接講義を何年間にもわたって受けて、その内容を書籍にするために出版社を起業した人です。透派というのは天に透るのを重視するという発想で理論が組み立てられています。月支元命を重視すると記載されている市販の本とは随分理論体系が異なります。佐藤六龍は二千八年に、講談社から「占いを信じるな」という本を出版しました。占いを数十年も研究してきた人がこんな本を出すのです。そのぐらい今世の中に流通している

占いは役に立たないってことです。

流派で結局何が違うのか？

流派によって四柱推命の命式の五行の強さの計算方法が異なります。天干を重視するのはどの流派も共通ですが、地支が合していた場合や沖していた場合などの対応方法は流派によって異なります。四柱推命は四つの柱から構成されますがその四つの柱の解釈が微妙に異なります。伝統的には月柱は家庭運ですが仕事運と見る流派もあります。年柱を社会運・仕事運と見るのが伝統的ですが感受性とか先祖運と見る流派もあります。さらに天干と地支の定義も微妙に違います。結局、相談者からの相談内容が男女の相性だった場合、どの位置をみるかが流派によってバラバラであり、また同じ流派でも鑑定士の裁量に任されているというのが実際のところなんです。相性を見て欲しいという相談があった場合、筆者ならすぐに四通りの診断をしてどれを今回は使うかを決めるののためにカウンセリングに時間をかけます。その四通りの診断とは、十干同士の相性、十二運同士の相性、通変星同士の相性、五行のバランスの相性です。相談者が求めている相性とは何なのかによってこの四通りを使いわけます。次に、たとえば同じ位置を見たとしても、たとえば月柱の天干を見た場合でも、十干を見るのか通変星を見るのかでも異なります。日柱の地支を見た場合でも、十二支を見るのか十二運星を見るのかでも異なります。また、たとえば同じ位置で同じ星を見たとしても、その星の解釈の深さが鑑定士によって違います。たとえば、偏財という通変星を見たとしても、「商才がありますね」と言うか「指導力がありますね」と言うか「合理的ですね」と言うか「利用できるものは何でも利用するほうですね」と言うかで聞いた感じがまったく異なってきました。十二

運星の「墓」という星を説明する場合でも、「儉約タイプですな」と言うか「人を育てるのが得意ですな」と言うか「お金を使うのが下手ですな」と言うかで聞いた感じがまったく異なってきました。また筆者の場合はビジネスの相性を見る場合には、西洋占星学を使うことも多いです。たとえば経済活動は土星です。土星を支配する星座は山羊座と水瓶座です。筆者は山羊座ですから、水瓶座の人とパートナーを組むと経済活動は実際にうまくいくことを確認しています。細かい相性が面倒な相談の場合（正確なアドバイスが必要な混乱している相談者のケース）は、宿曜経を使うと簡単ですから、それを使うこともあります。西洋占星学が好きで相談者の場合は、第七ハウスの星座や星を見て結論を出すこともあります。診断するほうも、親身になって相談を聞いてアドバイスしても無駄だと判断すれば適当な理論を採用して結論を出すことも多いものです。親身になって相談内容を一緒に解決してあげないと本人の命の問題にかかわるような内容であれば占術を無視して直観を最優先することも多いです。結局、流派の違いを探しまわったり、占術の違いを探しまわったり、占い師に自分の運勢を見てもらうよりも、自分で運命学を学習して自分の天賦の個性くらいは自分流の方法で診断したほうが良いというのが筆者の結論です。

受講生Kさんとの会話（四柱推命全般）

（講師）四柱推命というのは人間を診断する学問ですね。あなたの性格はどうなの、あなたの能力はどうなの、

あなたの健康は大丈夫なの、あなたの職業の適性は何、あなたの結婚相手はどういう人がいいの、こんなことを占う学問です。そして四柱推命は天干と地支から構成されていますね。それでは人間にとって天干とは何だろう、地支とは何でしょう？

(Kさん) 天干は、表面上の見かけですか？

(講師) ちょっと、大きくずれました。「運命学大全」にしつこく書いてあるのですが、大事な部分というのはみんなほとんどの人が覚えていないんです。ですから講義の中で言いますから、後でここが大事だったんだと読み返してくればいいです。心の欲求が天干で体の欲求が地支です。四柱推命のどこを見るのかというのは、これは鑑定士の自由なんですよ。年月日時の日と地と八つの情報があるから、もともと四柱推命というのは八字というのですが、どこを見るのかは鑑定士の裁量にまかされているのです。見るところによって診断結果が全然違ってきます。お客さんの質問が一体何に対する欲求なのか、何に対する質問なのかによって、見るところを瞬時に変えないといけないです。例えばKさんの一番の欲求は何ですか？こんな風に生きたいという欲求です。

(Kさん) そうですね、まあ、今の仕事を当面は続けていますが、ゆくゆくは作家とかそういう方面にいきたいと思っています。自己表現というか、昔ミュージシャンだったこともあり、そういう方面に行きたいという気持ちがあります。今は人生経験を積みたいというふうに思っています。

(講師) 楽しいことやりたいということですね？

(Kさん) はい、四柱推命の通変星の「偏印」そのままですね。

(講師) 「偏印」が年柱と月柱に入っているわけですね。入っている星が正直に動いているんです。星が作用している、発動しているという診断になるんです。「偏印」があるからあなたは楽しいことが向いていますよと言う

ことではないんです。Kさん自身の言葉が楽しいことやりたいという欲求でしょ。それで四柱推命でいうと印星がどこかにあるかなと思っただけです。そしたら、二つもあって星がちゃんと作動している。星が動いているから正常なわけです。だからその欲求はまともですから、人生を楽しんでくださいとなるのです。欲求の内容が四柱推命のどこにも見当たりませんというように出た場合は、ちょっと注意です。欲求の内容が違うという事です。それ本当にあなたの欲求なの、勘違いしていない？となります。でも占いで決め付けない。あなたの星がこうだから、あなたはこうですと決め付けない。決め付けると失敗しますよ。だって四柱推命じゃない占いで診断したら違う答えが出るのだから。「偏印」は天干にあるわけですよ。天にあるのだから何の欲求かというところ、精神の欲求です。ところがKさんの場合は、地支にもあるわけですよ。月柱の月支元命のところも、「偏印」がありますね。合計三つですから、体の欲求も「偏印」で、心と体が合っているんです。楽しいことしたいというのは、心も身体も求めているんです。じゃあ、もうそれしかないです。いいとか悪いとかじゃなくて、そうなっているんです。素直に認めたらいいですね。楽しんで稼ぎたいんですよ、ということですよ。一日四時間働いて百万円になるなら、そのほうがいいですよ。素直にそれを認めたほうがいいですよということですよ。

(講師) 独身の男性は男女の相性に関心があると思うのですが、Kさんの女性を見る場合に、天は心、地は身体というように見ると、Kさんの欲求はどっちですか？

(Kさん) どうしても、見た目の美しさですから、地のほうですね。

(講師) 正直でよろしい。日干の地支は生殖器なんです。配偶者の位置とも言うのですが、あなたの生殖器はこういう異性がいいと言っているのです。あなたの心の欲求じゃないですよ。身体の欲求です。体の欲求が「戌」がいい、ということですよ。通変星でいうと「正官」だからいうこと聞いてくれる素直な女性がいい、と生殖器が

言っているんです。いかどうかじゃないです。ここはそうなっているということですよ。若いうちは、そうなんでしょうね。ところが年齢を経ると、そういう肉体の欲求がそろそろ満足してきて性欲を処理するだけの女性はどういうやとなると、地の作用から天の作用に変わってきます。ちなみに、紫微斗数推命でみると、素直な女性は好きではないと出ていますね。だから、やっぱり四柱推命だけで決め付けないことです。

(Kさん) 精神的には、何十年も一緒に助け合って、高めあっている人が好きですね。

(講師) 何十年もということは、感受性とか先祖から受け継いだものを示す年柱の天干のところを見るのです。ここには「壬」がありますから、壬のような人、頭のいい戦略的な女性ですね。そして「偏印」だからアイディアをたくさん持っている、そんな楽しい女性がいんじゃないのとなるんです。だから、自分の理想の配偶者は誰ですか？といわれても困るんですよ。今のあなたの欲求は肉体なのか、それとも永久に長い間付き合えるパートナーなのか、若い男性はみんな肉体（地支）ですよ。じーさん、ばーさんになると、みんな精神（天干）のほうですよ。それを同じところでみて云々というのはできないですよ。教科書的にいうと、月柱の地支の部分、これが一番重要な中心星といっていて、教科書では月支元命といいます。昔ながらの鑑定士さんはみんなここを使います。相性にしても、能力にしても、どの仕事向いてますか、というのを見ます。何で？って聞けば、中心星だからとなります。それだけ。非常にシンプルで分かりやすいですが実用的ではありません。

今、相性でこのように説明しましたが、ちよつとまとめてみますね。四柱推命というのは、時、日、月、年という四つの柱があります。それぞれ十干があつて十二支が並んでいます。基本は八つの字です。それに干と干の関係があつて、日干から他の干をみると通変星が出されます。十二運星というのは、十干と十二支の関係で、日干から見た十二支によって出していきます。情報は、八つなのですが、そこから通変星が加わり、十五になり、

十二運星が加わって、十九の星が算出されるということですね。どういうときに、どういうところをみるというのは自由裁量です。どの部位の星を見るか、人によって解釈が全然ちがうんです。だから占いの診断は占い師に依存するのではなくて、自分でやったほうがいいんですよ。しかもどれが当たるんですかじゃなくて、自分の欲求がどこにあるのかというのを探すんです。自分の欲求が命式になれば自分の欲求が違うのではないかと思えばいいし、自分の欲求がちゃんとしたところに出ていけば、その欲求は正しいというように使ったほうがいいのです。

五行からみた精神論

受講生Kさんとの会話

(講師) 占いはどこかの学校で習ったのですか？

(Kさん) いえ、独学ですが、自分では「偏印」の特徴があると思っています。

(講師) Kさんの頭の中で記憶している「偏印」というのは、どんなイメージですか？

(Kさん) 「偏印」は企画力とか発想力とか優れているけど、実利面に弱いと読みました。自分を振り返ってみてそれは当たっているなと思います。

(講師) Kさんの日干は「甲」ですね。じゃあ、「甲」の隣にどんな十干があると「偏印」になりますか？

(Kさん) 分かりません。そういう発想はしなかったです。

(講師) ちょっと基本ができていないので、説明しましょう。Kさんの場合は日干が「木」ですね。「木」を生じるのは「水」なのです。五行というのは「木火土金水」と流れており、この流れが生じる関係です。古典的にいいますと、木が燃えて火になって、火が燃えてカスになって灰になって土になって、土の中から金を掘り出して、金が冷えて水になり、水が木を育てるとというのが教科書的な五行です。教科書的な五行はあまり使い物にならないのですが、一応覚えておいてください。「偏印」というのは、生じられる関係ですから、「木」の隣には「水」が来ないといけないですね。「水」の十干は「壬、癸」です。で、「偏印」になるには甲の隣に「壬」がないといけません。Kさんは、ただ「偏印」と言うように覚えているでしょうが、今のレベルではそれでいいです。ただこれからは、どのような「偏印」なのか、この五行で覚えられるようにしたほうがいいです。さて、五行の精神論ですが、当社の本を読んで今ご自分の頭の中で記憶している範囲で順番に説明してください。

(Kさん) 「木」はプライドが高いというのを覚えています。それ以外はちょっと…。「火」は獐猛というか攻撃的で勢いよく物事を進めていく感じですか。「土」は忘れてしまいました。「金」も…。「水」は癒しとか、穏やかな感じですか。

(講師) ご自分以外に、星平会海ソフトで診断した人はいいますか？

(Kさん) はい、十人くらい友人を診断しました。

(講師) その友人の日干は覚えていますか。

(Kさん) 一人だけ覚えていて「乙」でした。あとは覚えていません。

(講師) そうですね。Kさんは日干が思考を示す「甲」ですから言葉で記憶しようとしていますがそれではダメなのです。人で覚えないとダメなのです。ですから、友人が十人いるなら、その友人全員の名式を覚えて、その星が発動しているかどうかを見るときのように習慣づけないと、いくら本を読んでも運命学は習得できないのです。私の場合ですと、だいたい二百人ぐらいは頭に入っているんです。そこから言葉をつくっているのであって、活字では一切覚えていないのです。人でしか覚えていないんです。「甲」でしたら、「甲」の人が二十人ぐらゐ頭に浮かぶんです。その人達が、ああ言った、こう言った、何やった、あれやった、ということまでセミナーしているだけで、活字は記憶していません。人で覚えないと運命学というのは身につかないのです。講義を聞くというのは非常にいいことなのですが、普段の生活でこのように身体で覚えていくという癖をつけておかないと、机に座って本を読んでも少しも上達しません。そういった習慣をつけるようにしてください。それで、日柱の天干、これを日干といいます。ここが司令塔だと普通は言うのですが、他の柱には「壬」とかあるわけですね。それでは「水」の作用は無いの？ということなのですよ。

(Kさん) 自分の命式には「水」があるので、穏やかだと言うことですか？それでしたら、かなり周りの人からは穏やかだと言われるので、そういう面を考えたら当たっていると思います。

(講師) ではどういうときに「甲」がでて、どういうときに「壬」が出るのですか？

(Kさん) 後輩とか親しい人の場合では「水」の面が出て、プライドが高いときなどは、苦手な人とか自分ひとり考え込んでしまっている時などに出てきます。

(講師) なるほど、そういった柔軟なとらえ方のほうがいいです。自分は「甲」であるはずだという発想だと、自分を縛ってしまうので、この縛りはよくない方向へ行ってしまう。自分は「水」の作用もあれば「金」の

作用もあるはずだというように、なるべく自分を束縛しないというのが大切です。自分は「甲」だからと、「甲」のところばかり読んでいるとそれに縛られてしまいます。これでは運を落とします。「壬」のところも読んで「辛」のところも読んで、全部自分にあるはずだと、可能性を広げるような姿勢で運命学というのはやっていかないと運が落ちますので気をつけてください。同じ「木」でも、どこに出でくるかで随分違ってくるのです。では年柱とは何なのか。これは色々な解釈があるのですが、古典的には年柱は社会運です。ですから古典的には、Kさんの社会運は「偏印」です。企画とかアイデアとかを出すタイプですね。しかし、これは実践で使いにくいのです。それよりも、年柱をKさんの感受性を見る、というように解釈するのです。これを脳の設計図を知るといって発表したのが工藤さんという方で、脳内ホルモンから見ると、年柱は感受性だと定義しているのです。これが使いやすいのです。ただ、限定しないでください。社会運かもしれないし、感受性かもしれないというように、理解の幅を広げていくようにしてください。自分に合うものを自分で選ぶ、それが正しいかは私はいませんから、それを選ぶのはご自分の仕事です。

(Kさん) 自分の発想で解釈していいのですか？

(講師) そうです。スピリチュアル的に解釈すると、年柱は前世でさんざんやってきたこと、これが筆者のオリジナルの定義です。ですから特にこの年柱を指さなくてもいいという考えです。Kさんの場合でしたら「壬」が年柱にありますので、「壬」をがむしゃらになつて目指さなくてもいいという解釈です。すでに前世でやってきている、やらなくてももう習得済みなので自然にできるということですよ。

(Kさん) じゃあ、つまり、前世ではさんざん穏やかさを身につけていたので、別な方向を目指しなさいということですか？

(講師) また思考が堅くなってきたようです。それを基盤としてその上に新しい物を築きなさいということです。そうかも分からないということですよ。解釈は一通りではなくて、人によって全然違ってきますし、年齢によっても違いが出てくることもありますから、決めつけないことです。「水」は、穏やかさということを先程から言われていますが、それも「水」の一面しか見ていないですね。もうすでに暗示にかかっているんです。おそらく自分の都合の良い部分だけを読んでいるという感じがします。「水」は穏やかさで無い場合が、半分以上です。思い込みの世界に入っていましたね。そうやって占いをやればやるほど、自分を思い込みで固定していくという人がほとんどなのです。独学で身につけてしまったそういった思い込みを一度破壊して、頭を柔軟にしよう一度考え直し、新しく創造していくというのが、このスクールで一番大切なことなのです。日柱の「木」というのは、視覚情報です。視覚情報に敏感。つまり、活字とか本などに感受性が動くのです。

(Kさん) 本は私大好きです。

(講師) 活字情報ですよ、人からの耳情報ではなく。それを「木」の特性だと理解してください。次に「火」です。これは味覚情報です。味に対する感受性。もし友達で味にうるさいやつがいると、四柱推命を出してみても、「火」があるかどうか調べてみるのです。そうすると「火」の意味が自分の中に入ってきますから。「土」は、触覚情報です。体感情報です。とにかく触って触れてというような感受性が中心で、私の年柱には「土」があるのですが、見ても信じない、聞いても信じない、自分で触れて始めて信じるというタイプです。運命学もそういうスタンスで、活字を信用しない、人のセミナー聞いても信用しない、自分の目で人の行動を観察してみても、確かにその部分に触れて体感してみても、それはそうだといいように納得するのです。「金」は、嗅覚情報です。臭いという具体的な酸っぱい臭い、甘い臭い、くさい臭い、といったものだけではなく、なんとなくこの人くさい臭いがす

るとか、いやな感じがするといった、ネバネバした感じがするなど、感覚でつかんでいくようなことを言うタイプです。人とかモノを犬のような嗅覚で判断するので、何故そうなの？と聞いても、言葉で説明できないような感じですよ。「水」とは、聴覚情報です。ラジオ、テレビ、人の意見、こういった耳から入ってくる情報に敏感です。これらは年柱にその五行が入ってきたときの解釈です。

(Kさん)「水」の聴覚情報といったら、音楽とかも入りますか？私、昔バンドやってました。

(講師)そうですね。音楽なども「水」の聴覚情報の分野ですね。年柱の感受性というところからかたというのはちょっと特殊です。月柱と日柱は太陽系のシステムで理解できます。四柱推命の四つの柱とは何ぞやというと、月柱は毎月一回変わりますね。これは太陽系で言うと、お月様なんです。日柱は一日一回クルッと回転するので、地球の自転です。朝が来て夜が来てまた朝が来るといふことです。それじゃ、この年というのはなんなのかっていうと、毎年毎年変わらないといけないというのは、少なくとも地球を中心とした太陽系の見方では存在しないものです。月の変化というのは、季節ですね。地球が太陽に近づくと夏になり、離れると冬になる、このように太陽系の中で説明できるのが月柱です。日柱も、午前0時から23時までという一日の変化が太陽系の惑星の運行で説明できるのです。ところが、二千八年と二千九年で、太陽系の運行がどう変わったか、何が変化しているかということ、これは説明できないでしょう。おそらく、今の天文学を基礎とした暦の作り方では、年柱は説明できないでしょう。地球の周りをお月様が回っていますね。地球とお月様は、太陽の周りをぐるぐる一年かけて回っていますね。これ全体が太陽系ですが、太陽系自体も何かを中心にしてまわっているはずなのです。これが分からないと、年柱は分からないと思います。太陽系は一体何を軸にして回っているのか。そういう意味で、年柱のとらえ方は特殊になっています。次に、年柱以外のところに「木」が入った場合の説明をします。「木」は、頭脳です。

神経、言葉、思考、です。色々考える人です。考えることが多くて、行動まではなかなかいかない。行動力が無いというよりも、考えること自体が楽しいのです。行動が楽しくないというわけではないのです。考えることでエネルギーを消費しているのです。

(Kさん) そういえば、余計な事を考えすぎて、ストレスをためてしまうこともありますね。

(講師) 「金」の人は逆に、考えてもエネルギーを消費できないのです。行動しないとダメなのです。ですから思い立ったらすぐ行動しないと、エネルギーがたまってたまってしかたがないのです。もし「金」の人で考えてばかりいて行動しない人がいると、必ず不幸です。しかし「木」の人は考えることが仕事のようなもので、考えるばかりで行動しないから悪いという発想もダメです。それでエネルギーをきちんと言華できる特性なので、それを生かさないとダメです。占いを学習するとネガティブに思い込んで運を下げる人が多いのです。考えてばかりで自分は行動力がないからダメなんだ、という発想はよくありません。

(Kさん) ああ、結構そのように自分で思い込んでしまった時期がありましたね。

(講師) 考えることでエネルギーを昇華できる体質、行動するのではなくて思考することでエネルギーを昇華できる体質だ、というようにとらえないと、「甲」であること自体が欠点になってしまふのです。「火」は精神です。この精神というのは、スピリチュアルなものではなく、軍人的な精神です。ボクシングの漫画で、明日のジョーとか知っていますか？あの中で、力石とおるというのが出てくるのですが、ああいった精神です。言葉で表現すると、静かなる虎、のような感じで、深い心の奥底でファイトを持っていて、それはあまり表面に出さないで、実際に戦う時には命を捨てて戦う、というような感じで、実際に靈感があるとか、スピリチュアル的ではないのです。目的のためにならずすべてのエネルギーを集中して命を捨ててもいい、というような軍人的な精神が、「火」

です。ですから、意外と判断は正確なのです。例えばアメリカ合衆国が、フセインが気に入らないということに勝手に戦争を始めて、どんばちやりましたが、あれは政治屋が仕掛けた戦争であって、政治屋の代表の、ネオコンのトップのチェイニー副大統領が、戦争でもうけたわけですよ。チェイニー副大統領というのは、石油の資源を掘削する機械を売っている会社なのです。イラクを占領して、イラクに自分のところの会社の機械を売って、石油を掘って儲けたので商売の相手としてイラクが欲しかったわけですよ。で、ブッシュ大統領をそのかして、戦争を始めたのですが、この戦争に大反対したのが軍人です。アメリカ合衆国の軍人は、戦争に反対したのです。イラクに対して戦争したいという軍人は誰もいなかったのです。軍人は自分とか自分の部下の命をかけて戦争に行くわけです。何千人、或いは何万人という軍人が実際に死んでいるわけです。命をかけて戦う意義があるのか、これが世界の警察官としての仕事なのかという疑問が働くのです。こういった正しい判断が、「火」の人にはできるといふことです。日本の歴史上、「火」の精神を持った人は誰かといえますと、秀吉です。「火」の人は本当の事を見抜く力があるのです。秀吉は何をやったかというところ、キリスト教の伝道活動の根本にあるものを見破ったのです。だからキリスト教を弾圧したんです。キリスト教のイエズス会の目的は日本を将来西洋の植民地にしてやろうというのが本来の目的で、その最初の舞台として宗教を使っていたのです。秀吉はそれに気づいたので、だからキリスト教を弾圧したのです。そういうことに気がつく才能やセンスというのが「火」なのです。信長から受け継いだこの日本をそんな西洋の連中の植民地にしてはいかん、弾圧しないといけないという気づきがあるのが「火」の精神なのです。「土」は、育てる人で愛情豊かな先生です。物事の判断は、美しい、醜いという醜で判断するのです。簡単に言ってしまうと、好きか嫌いかで判断するのです。正しいとか正しくないとかではなく、好き嫌いなので、案外懐は深いのです。好きな人と取引すると、たとえそれが悪い仕事だとしても、

悪い仕事を平気でやってくれる。ヤクザの親分なんかは「土」が向いているんです。気に入ったら何でもやってくれます。度量が大きいというのはこういうことなのです。ある意味、穏やかとか悠然としているというのは、そういった意味で言うと、「土」のほうが正解かもしれないです。何でも気に入ると許せるのですから。「水」はそうはいかないですよ、許せないですよ。Kさんは、好きになれば、何でも許せますか？

(Kさん) 好きになったとしても、許せないものはありますね。

(講師) 多分、知的に判断しておかしいことはおかしい、ということだと思うのですが「土」は知的に判断しても、おかしなくても平気ですから。理屈は毎日変わる感情がベースになっているので理解不能です。感情が優先します。「金」は、ドロドロした土の中から一粒の金を出してくるのです。どろどろの中から探し出して、金を精錬して売りに出す。こういう商売は何でしょう？

(Kさん) 探し当てる感じの職業ですかね。単純に考えると発掘とか考古学者などになります。

(講師) そのように頭を束縛しないで、もっと思考を開放して。

(Kさん) スカウトマンとかですか。

(講師) もっとスカウトマンを大きくすると？ 探し出すものを人間に特定しないで、これは使えるんじゃないかなというものを探し出してきて精錬して、売るんですから。

(Kさん) 育てる立場の人ですか？

(講師) 育てるのは「土」ですが、愛情で育てますね。同じ育てるでも、まったく違う観点から育てるんです。金融業なのです。本来の金融業。ベンチャー企業を探し出してきてお金をつっこむのが本来の金融業。この会社は使えるな、じゃあ、この会社に一億つっこんでみよう、大きくしてみようという、泥の中から金の入った石こ

るを探してきてお金をつき込んで精錬するという育て方です。愛情じゃないですよ、目的は利益です。あとは、技術もそうですよね。技術も色々ある中から利益を生み出すものを探し出してきて、実際に商売になるまで追求する。価値あるものを作るという意味で、技術も「金」です。何々ができるとか、コンピューターができるとか、そういうのではなくて、価値あるものを探して作るという意味での技術です。結果的に「金」には行動力がありますね。そして客観的です。「水」は、知性、闘争、もう少し深いところに入っていくと、恐怖心があります。また裸ぎの作用もあります。裸ぎというのは自浄作用です。穏やかというのは表面的に、他人からはそのように見えるということですね。私の場合、日干は「水」なのですが、第三者の評価は、人によつては穏やかですねと言われますし、人によつては、闘争心丸出しですね、と言われますし、人によつては理論的ですね、と言われるのですが、実は私の中にあるのは、実は恐怖心なのです。何に対する恐怖かという点、これからの時代、大きく変わっていくと言う恐怖心、今までの価値観が全然通用しない時代になっていきますから、それにあわせて自分も変化しないといけないというように、自分にプレッシャーをかけているのですが、変化しないとおそらく生きていけないという恐怖心があるのです。例えば、昔、明治とか大正の時代は、何が一番重要だったかという点、家柄がよければ大企業に入れて定年までサラリーマンで無事勤めあげれば、たつぷり年金をもらって生活できた時代で、家柄さえよければ何とかなつたのです。しかし今は、家柄なんか良くなったって、だめですね。最近の総理大臣を見れば分かるでしょう。その後、時代が変わってくると学歴ですね。東大を卒業しておけば何とかになりました。東大卒業して、上級官僚になつて大蔵省に入りました、通産省に入りました、あいは大手の松下、東芝とかに入りました、これで一生安泰です、という時代があったわけですよ。これももう、崩壊しているんです。上場企業に勤務していても、東大卒業しているから給料あげますなんて会社ないです。どれけ儲けたか、というだ

けでしょう。完全に実力主義の時代に変わりつつありますよね。それが、さらに変わろうとしているのです。その実力の内容が大きく変わろうとしているのです。何々ができます、何とかの資格を持っています、というのは実力とはみなされない時代なのです。おそらくこれから必要とされる実力というのは、人間力なのです。人間力とは何ぞや、というところ、変化に対応できる柔軟な脳、もうちょっと深いところに行くところ、愛情なのです。人に対する愛情。人に対する愛情とは何ぞやというと、お客さんを楽しませる能力なのです。これは相手の立場に立つて考えないといけないのです。つまり愛情がないとできないということです。セミナーに参加しても、本を読んでもこの能力は絶対に身につかないです。相手の立場になりきって、もしかしたらこんな欲求があるのではないかと、こんな風な事を考えているんじゃないか、というように推測して商品やサービスなんかを提供する能力です。商品でいうとトヨタなんかの場合、これまでは品質のいい、とにかく壊れないもの、十年間部品交換しなくても壊れない車、しかも安いという物を大量生産すればよかったのです。ところが、大量生産の時代になつてくるとみんな飽きてくるんです。例えば新型カローラが発売されたのであれば、ひとつ前の型の在庫車でいいから三十万円引きで売つてよ、というような時代ですね。ところが、日本人はお金が無いわけではないんです。みんなキャッシュ持っているんですね。だけど、そういう大量生産したものにはお金が使わなくて、これだったら価値があるな、高くても、これだったら買う価値があるものにはお金を使わなくてきています。そういうものを発明できる能力ですね。大企業はこれからのすごい苦しみ味わいます。ロボット使つてガンガン大量生産して安く売ればいだけという時代は終つてしまつて、欲しいものはだいたいみんな持つてしまつたのです。大量生産品が必要であれば、少しでも人件費の安い中国産でもいいわけですよ。中国の人件費が高くなつたらアフリカでもいいし、北朝鮮でもいいわけです。地球上に割安の賃金の国がなくなるまで企業は安い人

件費を求めて海外に出て行くでしょう。そういうものではなくて、一千万円でもいいから本当に乗りたい車を作るといったお客さんを楽しませる能力がないと生き残れないのです。そういう変化しないといけないという恐怖心が私の根底にあるのです。だから色々新しい商品を開発しているのですが、根っこにあるのは恐怖心です。四年前までは占いソフトしか作っていなかったのです。占いソフトを十五年間ずっと開発してきたのですが、お客さんから毎日多くの電話を受けていると、ちつとも運命学の基礎が分かっているいんです。ほとんどのお客さんは分かっている、ソフトの使い方というよりも、何のために占いソフトを使っているのが変なんですよ。かかってくる電話の質問の内容が間違っているんです、そういうことを質問しちやいけないですよ、となってしまう。そこから説明しないとだめなのです。もつという、占いソフトを買う動機が間違っているんです。そんな動機でソフトを買うなど言いたいのです。だから本を書こうと思ったのです。二千八年度は、本を四冊出版しました。占いは本来このように使うべきだという主張をしたのが二千八年です。しかし本を出しても、こちらの意図したことを読んでくれる人が、あまりいいのです。自分の都合のいいような読み方しかしてくれない。だったらセミナーをしないといけないということで、今スクールをやってくれるパートナーを募集していて、来年から当社の本とかソフトを教材として使って占いスクールを開校できる人を募集しています。そういうのを人から見ると戦略的、知性的、見事なビジョンとかいわれるのですが、私の根っこにあるものは恐怖心なのです。お客さんを満足させないといけないのです。ソフトだけではだめなので本を書きました。しかし、本書いてもだめなので、スクールをやらないといけないと思っています。スクールをやってもだめなら、また何かしないとなりません。どこまでもお客さんのニーズにこたえていかなければいけないというのが根底にあります。こういうのが「水」です。最後に十干と五行を整理しておきましょう。

- 甲..言葉で理解、プライド
- 乙..シミュレーション好き、和を保つ
- 丙..快感と達成感が動機、こだわり
- 丁..世話好き、自分の世界観に合うかどうか
- 戊..寛容、言いくいことを言う、感情の爆発
- 己..楽しく暮らす、享乐的、感情をためる
- 庚..行動しながら考える、計算高い
- 辛..辛抱強い、思い詰めて行動
- 壬..状況に応じた判断力と戦略、勝ちたい欲求
- 癸..知識欲と観察力、負けない欲求

	年柱(感受性)	日柱(司令塔)	月柱(潜在意識)
木	変化に敏感	正義感・正当・権威的	言葉・思考・神経と頭脳
火	味覚情報に敏感	軍人的精神・静かなる虎	自分の意志と動機が全て・集中とスピード
土	体感情報に敏感	育てる人・愛情・先生	好きか嫌いで判断・信用が大切・人間関係を良くする
金	嗅覚情報に敏感	土中から価値のあるものを発見	客観的に分析して利益を生み出していく行動力と技術力
水	聴覚情報に敏感	知・闘争・恐れ・禊ぎ	危険に敏感だが挑戦しているのが好きで勝ち負けにこだわら

輪廻転生から見た魂

受講生Kさんとの会話

(講師) Kさんは射手座に星が集中していますね。では射手座とは？

(Kさん) 「運命学大全」の射手座の部分を読んで感じたのは、知的好奇心とかを満たされるとかなり楽しくて気持ちが高揚して満たされるというのがあります。『心の深い部分で納得できる生き方を学ぶためにあなたは生まれ変わってくる必要があったのです』と書いてありますが、すごく納得です。昔から人間で何だろうとか、人生って何だろうとか、そういうことを深く考えるようなところがあったので、そういうところが出ているのかなと思います。あとは、『実は偏見に満ちていて自分よりも下の階級の人間を見下すなど気持ちの良い人間関係を築くことができなかった』と書いてあり、プライドが高い上に内面的に葛藤があるので、その辺が出ているのかなと思います。

(講師) プライドですか？

(Kさん) はい、プライドが高いのですが、逆に人を見下したくないとか、そういうプライドがついちゃったという感じです。

(講師) ちょっと混乱しているみたいですが、まあいいでしょう。じゃあ射手座の過去世は？

(Kさん) 今まで述べた部分を、過去から受け継いだというのではないのですか？

(講師) ちょっと違いますね。もう一度やってみましょう。射手座の現世での最大の特徴は何ですか？

(Kさん) 現世での最大の特徴は、直感力です。右脳の直感力があり、よく周りの人から変なインスピレーション

ンを持っていると言われることがあります。あとは、真理の追究ですね。これはかなりあります。直感的な人間だというのはかなりあります。ただ、真理の追究といっても、論理的な左脳の思考はできるけれど、コンピューターのようなフローチャートのように感情がともなわないものには弱いです。大学は、法学部だったのですが、法律も論理的思考を使うのですが、そのところは苦にならなかったですね。

(講師) またちよつと混乱してきています。射手座は感情的な思考が得意ですか？得意じゃないですか？

(Kさん) 自分の判断だと、得意なほうです。

(講師) 今はその理解でいいと思います。では、次に本を見ないで、過去世をここから出してみましょう。

(Kさん) 現世では、過去世でできなかったことをできるようにする使命が与えられていると思うので、現世では直感力なので過去ではその反対ですね。直感力の反対ということは、理論的な面が強かったのかな、理論的にいっても現在の反対なので数学的な思考があったのかなという感じがします。

(講師) さらにちよつと混乱してきていますね。言葉の遊びになつてきています。もうちよつと人の心の動きで考えないと。直感とは、自分で感じるということでしょう。だったら、その反対は自分で確認せず、周囲に同調するということです。自分で直接感じたことよりも自分以外のものを信じてしまったということでしょう。

(Kさん) 真理の追究の反対は、現実主義なので金儲け主義とかそういうところなのかなと、哲学的思考よりも、とりあえずお金儲けという過去世だったのでしょうか。

(講師) そこもちよつとずれちゃいましたね。今の世のなかで成功している人(お金持ち)は、宗教的であり、哲学的ですよ。お金持ちじゃない人ほど、貧乏であればあるほど、非哲学的で人生の目的を考えていません。その場が楽しければそれでいいという心ですね。真理を探すというのは「何故」と考える力のことでしよう。だから

ら、過去世では「何故」と考えなかったのですよ。新聞に書いてあったからそうしたというようにね。

(Kさん) もしかしたら、享楽を追求していたのかも・・・。

(講師) まあ、そのほうがまだ近いですね。Kさんの頭の中で、これとこれは反対にしないといけないという思いが強いんですよ。で、反対の言葉を作る時にもう失敗しているでしょう。この辺なんですよ。理屈は分かるんですけど言葉を出す時に人の深い心の中まで入っていない。これは癖だから直さないとね。正しいとか正しくないとかは、あまり重要じゃないですよ。自分が今直感力を重要視していて真理の追究をしたいという欲求がある。何故か？もしかしたら過去世では何も真理を考えないで、みんなが言うからそうして来たと推理するんです。そういう推理力が重要なのであって、当たったかどうかはあまり重要じゃないんです。間違っていれば神様が教えてくれますから。同じように考えますよ。紫微斗数推命で、夫妻宮に廉貞星・破軍星が入っているでしょう。何故、廉貞星・破軍星が入っているのか？何故、廉貞星・破軍星が入らないといけないなかったのか。考えてみてください。

(Kさん) 異性を獲得することに対して消極的なので、積極的になりなさいという暗示かもしれません。私はけっこう消極的なので。

(講師) これはいい発想ですね。過去世は一生独身で、寂しいまま、異性と交際もないうまま過ごしたのかもしれない。だからあえて神様は、廉貞星・破軍星というきつい星を与えたのかもしれない。だったら異性へのアプローチは、しつちやかめつちちかやってみれば、という風に推理するんです。正しいかどうかは別よ。それはやってみないと分からないから、その可能性もあるということです。じゃあ同じ発想で、四柱推命をみていきます。四柱推命は、年柱が「壬」となっていますが、「壬」というのは結構きつい星ですね。勝負とか、戦略的とかですね。

なぜでしょう。

(Kさん) 前世ではあまり計画的ではなく、その場限りで過ごしてきたんで、そういう星が入ってきたのではないかと。

(Kさん) そうですね。そんな風に共通点を発見していくということですよ。

(講師) 過去世を考えるとというのは、常に反対を考えるとという思考をすることなので、脳にそういう癖をつけておくと道を誤らないですみます。現世、過去世、というのを宗教的に考えるのではなくて、反対を考えるとという思考のほうがいいです。反対を考えるとというのが次の相性のテーマにそのまま使えるのです。つながっているんですよ。柔軟な0次元の発想ができれば全部わかっちゃう。占い脳ができれば、過去も現在も発想できるし、相性の発想もできるし、みんなつながっているんです。バラバラじゃないのです。では、十干を一言ずつ、ワンメツセージでまとめるとどうなるか、やってみましょう。

(Kさん) 「甲」は、プライドが高い。「乙」は、静かなプライド。「丙」は、気性の荒い軍人。「丁」は、冷静なる軍人。「戊」は、明るく優しい。「己」は、物静かだけど優しい。側で見守るみたいな感じ。「庚」は、エネルギーが豊富な行動派。「辛」は、水面下で走り回る探偵。「壬」は、アグレッシブな商人。「癸」は、計算高い商人。

(講師) だいぶいいですね。ここで質問です。これとまったく逆の十干はどれでしょう。

(Kさん) 「甲」の反対は、プライドが高い人の反対なので、「戊」。いや「甲」は陽なので陰干の「己」です。「乙」の反対は、陽干なので「辛」じゃないですね。「庚」です。「丙」の反対は、太陽の反対なので「癸」ですか、いやそういう言葉遊びじゃだめで、繊細な「辛」ですね。「丁」の反対は、軍人の反対なので商人の「壬」です。残りは、「戊」の反対で「癸」です。

(講師) いいですね。これらの組み合わせは干合といって、本には相性が良いと書いてあります。最高に相性が良いというけれど、性格的にはまったく正反対ですね。正・反・対・で・理・解・不・能・な・相・手・が・ベ・ス・ト・な・相・手。こんなことを言っているんですよ。相性がいいんですか、悪いんですか？という質問をしている場合は、おそらく自分の言うことはみんな理解してくれて、仲良く永遠に楽しくいられるような相手が相性がいい、と言う勝手な思い込みで、相性のいい人は誰ですか、と言う質問をするでしょ。しかし、理解不能な正反対の相手が相性が良いと言っているのです。あなたのことを分かってくれない異性、もしかしたらあなたの嫌なことばかりをやる異性、そういう人が相性が良いと言っているのです。じゃあ、Kさんの場合はどういう人が相性が良いでしょうか？

(Kさん) 時々プライドの高さが邪魔して、自分をつぶしてしまう時があるので、優しく包み込んでくれる人がいれば、心のバランスが取れると思います。方程式通りですが、そういう面で言えば、「己」が相性がいいのかな。今の職場のお世話になっている直属の上司なのですが、その人、「己」です。しつちやかめつちやかな状態なのに、怒らず優しくフォローしてくれます。結構その人、人生を悟りきつたような感じで人間ができている人なので、この人がフォローしてくれなければ、とつくに自分も終わっているなという状況がかなりありましたね。

(講師) 十千でみた相性は、だいたい分かったみたいですね。それでは通変星で見えていきますよ。この反対の性質が相性が良いという理論が通用するかどうかやってみましょう。

(Kさん) 「比肩・劫財」と正反対の通変星は、服従心のある「官星」です。「食神・傷官」と正反対の通変星は、楽しいことが好きな「印星」です。合理的な「財星」と正反対の通変星は、とにかく実行の「比肩・劫財」です。服従心のある「官星」と正反対の通変星は、自己主張の強い「食神・傷官」です。

(講師) だいぶ、理解が進んでいますね、まあ、こういう関係になっていますが、反対の性質の人が相性が良い

いという理論が、ここで通用するかどうか。ちょっと考えてみてください。

(Kさん) これは、ケースバイケースかなと思います。

(講師) そうですね、その通りです。

(Kさん) 同じ目的とか、サークルとか同じ事を楽しみたいのであれば、同じ価値観が良くて、ビジネスとかだとやはり正反対が良いかなと思います。

(講師) そうですね。私の経験でいうと結婚をする場合はなるべく同じ価値観（通変星）の人がいいです。私は財星なのでこれが全然違う印星とかになるときついですね。きつすぎる。結婚は魂の修行と言いますが、修行のレベルを超えてしまいます。十二運星の相性をも同じように考えて、ケースバイケースでいいと思います。私の経験でいうと、十二運星は、正反対の性質のほうが相性が良いという発想のほうが使いやすいです。その人の修行のレベルと精神レベルと環境とで、その場で相性の理論を作りかえるぐらいの柔軟性を持っていたほうがいいです。決して決め付けないというのが結論です。

これで相性の見方はおしまい、次はやっと本題の魂の話しに入ります。

(講師) 魂を一言で表現すると、どんな言葉になりますか？

(Kさん) 魂は、自分の前世とか過去とかの情報がつまったものかなと思います。コンピュータでいうと、ログファイルのようなものです。

(講師) そうですね、自分と言う命が生まれた数千年前〜数万年前のときからの記憶を全部知っている存在ですね。

魂といってもそのしつかり度はさまざまです。自分の天命を知って生きている人は、強いエネルギーでしつかりしています。いっぽうで、ふにやふにやしていて私どう生きようかな、何で生まれたの、何が楽しいのみたいな人の魂は、エネルギーが弱く離散してしまいそうな状況だと思うのです。ですから、魂はこうであると同じ理論で説明することはできないです。無理ですよ。万人に適用できる魂の理屈はないということです。おそらく生きる目的がなくてしつかりとしていない魂だと、ログファイルは、ぐちゃぐちゃの状態ですよ。ウイルスだらけのファイルみたいなもので解読不能です。こういう魂は、例えば現世で一応生きていて死にますよね。死んだらどうなるか。その瞬間きちつとした魂の姿になって、あの世で生活できるかという、生活できないような気がするんですよ。ずつと、ぐちゃぐちゃ生きてきて、私はだれ、何のために生きてきたの、みたいな人は死んでも魂の形が維持できずに離散してしまうような気がします。本当の意味での無に帰るわけです。宇宙のチリとなってしまうような気がします。これは私のフィクションですから本当かどうかは知りませんよ。

いっぽうで、しつかりとした魂を持っている人、例えば聖書に出てくるノア、彼なんかは山の上に船を作れという神の無茶苦茶なメッセージに従って、周囲の人から馬鹿だ、キチガイだと言われながら、百年かけて船を作ったわけですよ。山の上に、神の命令だといって百年間それを作り続けた人ですね。そして大雨が降って、助かった、魂がしつかりしている証拠ですね。このノアさんがしつかり生きて、死ぬでしょ。やっぱり魂はあの世に行っても、しつかりした魂の状態でしょう。ますます磨きがかかってしつかりして強くなっているんですね。で、何百年か養生して、もうそろそろ自分がもう一回地球に生まれ変わったほうがいいかなと思ったときに自分の意志の力で転生してくるわけです。だから、まだ地球上での仕事がない期間は、あの世での仕事をしたほうがいいと自分で判断できる人です。今から二千年前、ユダヤ人がエジプトで奴隷扱いされていましたね。このユダヤ人というのは、

神様に信仰を持つている民族で、奴隷扱いはどうもいかん。エジプトから脱出させないといかんと神様が判断した。それで、脱出させるリーダーを選んで、おぎやーと生まれさせないといけなないと考えた。しかし、霊界を見回したところあまりいい人材がないので、神様は、ノアの爺さんにお願ひした。ノアの爺さんは魂がしっかりとっているから、自分の魂の一部を分身させたわけです。その分身の人がおぎやーと生まれてきた。これが誰かと言うと、モーゼです。モーゼとノアは霊的な血統から見ると同一人物です。おぎやーと生まれた本人は分からない。過去の記憶消されて生まれまますから。じゃないと一生懸命やらんでしょ。で、モーゼはユダヤ人を率いてエジプトから脱出させてカナンの地に入りました。いわゆる現在のイスラエルの土地にユダヤ人を入れました。モーゼは天命を果たして死んで魂があゝの世に行きました。それから何百年もあゝの世で養生していました。しかしこのユダヤ人というのはあまりにも自分たちの神様だけを信じてどうも他民族に対して仲良くできない。そうじゃなくて、地球上の全人類、東洋人も西洋人もユダヤ人もみんな愛ある生活をしないといけない。これを教えないといけない。誰か良い人材がいらないのかなと思つて探しても、いない。しょうがない、ノアでありモーゼでもある成長した魂がもう一回生まれ変わる事になつて、分身がおぎやーと生まれましました。これがイエスキリスト。多分こういうことができるはずなんです。これは私のフィクションですから本当かどうかは知りませんよ。イエスでありモーゼでありノアである。こういうのが一番エネルギーがしっかりとっている魂のレベルですね。

では、普通の凡人はどうかというと、おそらく死んで魂があゝの世に行きました。まだまだ修行が足りないのので、養生する暇もなく魂がもう一回生まれ変わりました。このとき、魂のエネルギーが強くないので分身の術は使えません。新しい人生をまた歩んで、また死にました。魂があゝの世に行きました。神様は、ちよつと頑張つたけどももう少し修行してみないかといつて、養生する暇もなくまた転生しました。多分これの繰り返し。あゝの世に魂

という存在が残せないで、全部おぎゃーとして生まれ変わってくる、そうやって転生を繰り返して成長していくのが凡人の魂。魂とは何ぞや、輪廻転生とは何ぞやという宗教書を読みあさっても、どの段階の理論なのかで全然違ってくるんですよ。そういうことを本とか宗教書を読みあさって、どれが真理だと言っことを考えるよりも、パターンとしたら、考えられるのはこの三つぐらいでしょ。行ったりきたりしながらちよつとづつ成長していく人と、ある程度まで来たら自分の分身を使っていつもあの世とこの世と両方いるみたいな感じの人と、そのうち消えてなくなってしまう人です。

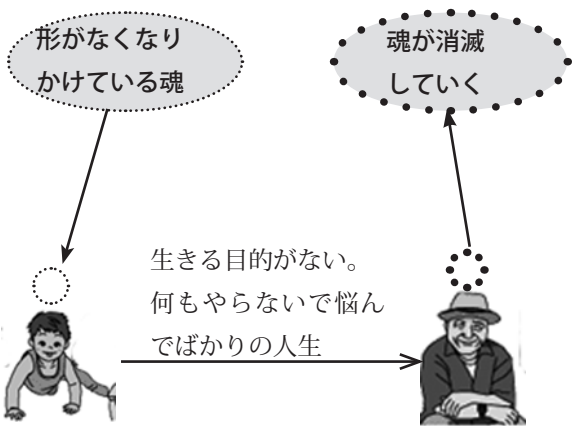
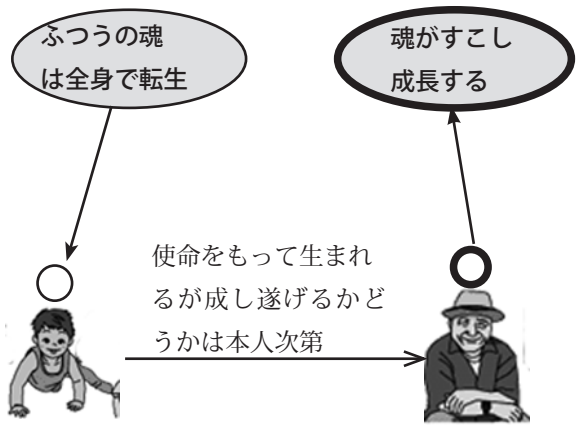
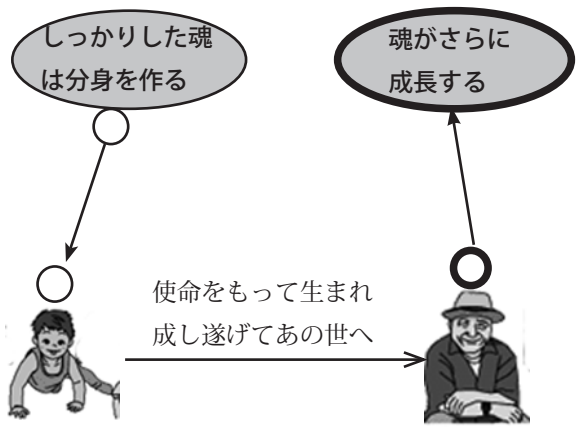
(Kさん) 魂ってレベルダウンすることってあるんですか？

(講師) その質問に答えられる人は多分地球上には誰もいないと思いますよ。わからないんだから。でも、レベルがダウンしたりすることもあると考えて生活するほうがよいと思う。でも、最後は幸せになつて生きるぞという意志の力だけだと思う。どんな過去世があつても、現世で過去世のカルマを解消するのに必要なのは、意志の力だけです。自分は生きている間にこれをしたい、そういう意思があれば魂は成長しているんですよ。これ以外に力がないの。必ず自分はこの目標を成し遂げる。何が何でもやってみせる。私であれば、占い業界は、精神分裂症の予備軍を相手にビジネスするようなへんちくりんなことになっていきますから、それを変えたいというのが一番大きな目標です。そのためにソフトを作っているし、本も書いていますし、スクールもやっていると私が私の意志の力ですね。実は、そういう古い業界の構図と宗教ビジネスの構図が似ているのです。どちらも、健全なもの、健康なもの、高い志をもつていて元気な人への嫉妬心が根底にあつて、劣等感をくすぐるビジネスです。こういうのはもうやめないといけない。

時代が自分を必要とするまで養生し、
やたらに転生しない。

頻繁に転生する必要がある。

悩んでばかりいる自己中心的な魂は、
徐々に魂の形を維持できなくなる。



歴史に残る大きな仕事をする人
(ノア・モーセ・イエスなど)

普通の大衆的な人から社会的
な成功者までほとんどの場合

精神異常者(自分のことにか
関心がない)

人の構造と四柱推命

人の構造

人の肉体は感情によって制御されます。知性でやらなければいけないと思っても感情が嫌だと思ってしまう場合は、肉体が動きません。その感情は知性で制御されます。その知性は魂によって制御されます。魂は自分がなぜ今の時代にこの国に生まれてきたのかを知っているからです。魂はスピリチュアルな世界のエネルギーによって制御されます。四柱推命の十二支は肉体を意味します。十干は精神・知性を意味します。これが、天干は気を示し、地支は質を示すと古典に記載されている意味です。余談になりますが、この考えを他の占術に応用すると、西洋占星学では星座は精神的欲求であり惑星は肉体的欲求となり、紫微斗数推命では十二宮は精神的欲求であり虚星はその欲求を実現する実行部隊というようになります。さらに、暦の作り方というと、太陽系の暦（太陽暦）は精神的欲求を示しており、月の暦（太陰暦）は肉体的な欲求を示しています。魂は光輝いてる電球のようなもので、楽しく人生を送るための知恵を知っています。しかし、肉体というフィルムがあります。肉体の知識、感情が暗くてうじうじしていると、せっかくの魂の光もフィルムを通すと暗くなってしまうって暗い人生を送ってしまいます。フィルムを透明にすると魂の光がそのまま現実になっていきます。実は、これが世の中に出回っている成功の法則なのですが、フィルムを透明にするのが、なかなか一筋縄ではいかないのが現実です。最も簡単な方法は、言霊（祈り）を使う方法です。言葉を変えれば心は変わります。心が変われば感情と行動が変化します。

通変星とは価値観です

四柱推命の通変星は価値観を示します。価値観というと「私は、何々に価値を見い出す」ということなのですが、実際の生活でどういうときにこの通変星が作用するのかが発見するのは多少の慣れが必要です。たとえば、車を買う場合のことを想定してみましよう。ある主婦は、田舎町に住んでおり一家で四台車を保有していて、買い替えのときには、まとめて購入するので割安にしてくれるものであればいいという価値観です。ある経営者は高速道路を仕事で頻繁に使用するので、とにかく雨が降っても風が強い日でも安全に早く目的地に着く走行性能を重視するという価値観です。昔ながらの城下町の道の狭いところに住んでいる女性は、道が狭いのでとにかく小回りができる車が一番という価値観です。新しいものが好きな年金暮らしで経済的に余裕のある年配の男性は、ハイブリットカーなどの最先端の技術を使った車に価値を見い出します。アウトドアを毎週楽しむある若い男性は、荷物が沢山積めて車の中で仮眠がとれる車に価値を見い出します。どれもが正しいわけです。

価値観には吉凶はありません

こんなふうに、何を見て良いと思うのかという価値観には、良いとか悪いという善悪の区別はありません。つまり、通変星には、どれが吉とか凶というのはもともとありません。どの通変星でもそれを個性としてとらえなければなりません。どの通変星でも成功します。どの通変星でも出世できます。どの通変星でもお金持ちになります。どの通変星でも結婚できます。どの通変星でも幸せになれるのです。ここをしっかりと覚えておいてください。

価値観は精神の欲求の相互作用から生まれます

通変星は、十干と十干の相互作用から生まれます。十干とは精神の欲求を示します。日干は司令塔の精神の欲求を示します。月干は職場環境や身近な目標や潜在意識の精神の欲求を示します。年干は社会環境や遠い目標や感受性の精神の欲求を示します。時干は目下との環境や社会活動意識の精神の欲求を示します。

通変星の位置によって解釈を変える

通変星は十干と十干の相互作用によって生まれます。四柱推命では日柱の天干が司令塔です。この十干と相互作用する十干は、時柱の天干、月柱の天干、年柱の天干、時柱の地支の蔵干の十干、日柱の地支の蔵干の十干、月柱の地支の蔵干の十干、年柱の地支の蔵干の十干があり、それぞれの位置によって解釈が異なります。

- ・時柱の天干の通変星は、目下との環境での精神的な価値観。
- ・月柱の天干の通変星は、職場環境での精神的な価値観。潜在意識での価値観。
- ・年柱の天干の通変星は、社会環境での精神的な価値観。感受性での価値観。
- ・時柱の地支の蔵干の通変星は、目下との環境における本能的な価値観。
- ・日柱の地支の蔵干の通変星は、配偶者との環境における本能的な価値観。
- ・月柱の地支の蔵干の通変星は、職場環境における本能的な価値観。
- ・年柱の地支の蔵干の通変星は、社会環境における本能的価値観。

となり、位置によって解釈が異なります。

受講生Kさんとの会話（霊能者と直観）

（Kさん） 人の構造というか、実際は霊能者にもものすごく関心があるのですが、霊能者をどう思いますか？

（講師） 霊能者がなぜ、霊通してしまっただのか、これが問題なのです。これが分かると、霊能者の言うことを聞いてみようか、無視しようか、ということが分かるのです。TVで有名な霊能者の一番弟子という人が当社に来たのです。だいたい一番弟子というのは一番デキが悪いのです。だからいつまでも独立できないのです。優秀な弟子はさっさと独立していくものです。自分は霊感の修行をして見えますので、見てあげましょうと言うのだけど、私は頭痛持ちなんだそうです。脅かした時点で即刻、偽善者と断定しました。実際、頭が痛くなったという記憶はないのです。そのほかにも、何十人も霊的能力のある人と接してきましたが、自分よりも人格や才能が下の人や劣等感を持っている人にだけ霊能者というのはその能力を発揮できるというのが私の感想です。たとえば、十五年前、沖繩に奥さん以外の女の人と行ったことがあるでしょうとか、いろいろ当てるわけです。でも、それでどうしたの？というふうに対応していると弱点が見つからないので霊能者もつまらなくなるみたいです。弱点を自分でもっていてそれをつかまれると怖いですよ。それでは人の構造にはいりますが、我々の肉体を作っているのは、一番荒っぽい粒子で、骨とか肉とか血液とかで目に見える物質です。その奥には、より細かい粒子（まだ顕微鏡ですらみえない）があつてそれが感情です。感情もエネルギーだから必ず粒子があるのです。何も無いことはないのです。感情の粒子も、時代が進歩すれば見えるようになるはずなのです。そしてその奥に知性があるのです。知性もやはり粒子です。本当の霊というか魂というのはこの知性のさらに奥に位置していて、こ

これから奥が本当の意味での霊界なのです。本当の意味での霊の世界ですよ。ですから、今テレビでやっているのは霊ではないのです。ちゃんとした心霊学という霊ではなくて、感情の粒子を見ているだけなのです。この感情の粒子をしつかりと覆っているのが、エーテル体なのです。エーテル体は膜であって、肉体と感情というのを区分しています。感情もエネルギーだからテレビに出てくるような霊能者は、この感情レベルの霊が見えるのです。例えばあの橋で事故があつて人が多く死んで、悔しい思いをしている霊が見えるというのは、悔しい思いをしている感情を持った感情粒子で構成された霊が見えるということなのです。感情の粒子をみているのです。しかし、感情のもとと深い部分にある精妙な魂というのは、転生を百回も千回も何万回も繰り返している存在だから自分のすべてを知っているのです。一万年前の自分はこうだったというのをすべて知っているのです、数千年間も継続しないような感情なんかの波動とは違うのです。何万回も転生してどんな風に魂の修行をしようかというのを計画している存在が魂というものなのです。人類全体の進化、これからの人類が行くべき方向にあわせて、今の自分の魂がどうすべきかということを教えているのです。感情のレベルの霊はそうじゃないですよ。江戸時代に橋を作るとなつたとします。それには生贄がいる。生贄として人を埋めて、その霊が橋にいますというのは、苦しい苦しいという霊ですね。その人が日本をああしよう、こうしようといって死んでいったわけではないですね。で、地球に住む人類がこれからこうなるから、自分が生贄になって立派な橋を作るんだ、こんな風に思ったわけではないですよ。ただ、苦しかった。そういうのはただの感情の霊すなわち浮遊霊、お化けなのです。苦しい、悲しい、くやしい、助けてくれ、というのはお化け。お化けは、感情の粒子から構成されたエネルギー体なのです。世間一般という霊です。感情の奥にある知性の霊になると、主義、思想、哲学、理想などのために死んだ人ですが、こういった人達はそれほど多くないです。地球上の人類の進化を願って命を懸けてきた人達です

から。また、普通の霊能者が見ることもできないでしょう。エーテル体がしっかりと肉体と感情の粒子を区別しているの、普通の人は肉眼では感情や知性というエネルギーは見えないのです。霊能者はこのエーテル体の膜が破損しているのです。エーテル体の破損者が霊能者です。こんなこといつているの私ぐらいで、本当かどうか分からないのですが、経験上そうしか考えられないというのが結論なのです。エーテル体に穴が開いているので、肉体の目で見えてしまう。つまり感情の粒子が見えてしまう。くだらないものしか見えない霊能者です。人間の目では、せいぜい上がって一段階上の階層の感情の粒子しか見えません。知性の粒子までは見えません。もし知性の粒子が見えるなら、霊能者は特許をいくつも発明しているでしょう。じゃあ、何故霊能者のエーテル体が傷ついているのか。幼い頃の不幸な環境が影響して、その多くは愛情が不足して、あつちの世界とつながってしまふ。幼い頃の心のトラウマがエーテル体の傷を作って、仕方なくあつちの世界と通信するようになってしまふのです。つまり心の障害者ですよ、霊能者というのは。傷を負った、まともじゃない心の障害者に自分の人生を相談したいですか？自分よりも知的レベルが低いということですよ。でも相手はあなたの心が全部見えますから怖いですよ。何を言ったらあなたの心が舞い上がると知っていますから。それを知った上で話してきますから。全部見えるのだから、あなたの行動すべてを当てられてみてください、完璧に心を握られて、お金が欲しい霊能者だったら、お金を十万とか百万と出させるようになりますよ。そうやって霊能者というのは商売しているのです。そのへんが分かっている経営者は、靈感がついてしまった人を専門職として使っているでしょう。どうやって儲かるのか、商売の道具に霊能者を使っているのです。どの馬券を買えば当たるのか、見たいな感じで霊能者を使っているのです。今ですね、ものすごい勢いで霊が降りてきているので、この肉体と感情の境目が非常にゆるくなってきました。だから、おそらく何回かそういう霊に憑依されたりする場面に出会うかもしれない

いです。ただ、そういう人であればあるほど弱虫なのです。霊能者と会ったら霊能者をカウンセリングしてあげなさい。かわいそうな人生だったのねって。どんな環境で育ったの、お父さん、お母さんはどんな人だったのって、意地悪されたの、いじめられたの、ってね。そうじゃないのとつとられますよ。まだ霊能者に関心がありま
すか？一回霊能者に会ってバトルしてみなさい。私も何回か経験して分かったのですから。自分だけが得したい、自分だけは傷つきたくない、という気持ちがあると霊能者に負けますよ。霊能者に負けないコツは、自分が先に腹を切ることです。陰腹を切る心情で議論しないと霊能者に負けますよ。向こうは自分のすべてを知っているのですから、計算ずくのロジックは通用しませんよ。こういう人の構造を理解していると、四柱推命と密接に関係していることに気がつきます。四柱推命は天干と地支に別れていて、上が十干で下が十二支ですね。占星学は同じように星座と星、どちらが天でどちらが地ででしょうか？

(Kさん) 星座が天で星が地です。

(講師) そうですね。紫微斗数推命も同じで十二の宮が天で、星が地の関係ですね。すべての占いをザクッと横断してみれば、楽になります。占星学という星座というのは、遥か遠いところからのエネルギーですので、遠ければ遠いほど人間の奥深いところにゆっくりと入ってきますので、魂に近い存在に影響すると考えてください。月、水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星という星は、かなり地球に近いので、具体的な行動に影響すると考えてください。紫微斗数推命は旧暦を使っています。旧暦というのは地球の動きと月の動きです。より肉体的なものです。宿曜経も月の運行を見えていますね。そこに座っているYさんが、「九宿」ですね。Yさんの特徴である規則やルールに反発したい欲求というのは月の作用を受けているということです。それがいいか悪いかというと、もちろんいいのですが、レベルとしては月の作用なので、まあ、感情の粒子が発動してい

るということなのです。精神的に高度かどうかというあまり高度ではないのです。早くその欲求を満たして次に行きなさいということです。十二運星を見てみますと、Yさんの場合は「建禄」という星ですね。これは完璧さを示します。完璧なものを追求したいという星です。十二運星は、十干と十二支の統合体なので、精神と肉体の統合的な欲求なのです。これも正しい欲求ですね。今は多分ここまでが発動してますね。この上に行くと自分のことはどうでも良くなつてきますから。そんなことよりも自分は社会のために何ができるか、他人が何を求めているのか、他人が喜ぶことは何なのか、そういうことしか考えなくて、それは気づいたらもうやっているのです。気づいたから自分がやるのであって、向いているとか向いていないなんて関係ないんです。向いている向いていないというところにまだ発想があるということは、レベルはまだ感情の付近なのです。感情から上に行くと感じてしまったことは才能があると理解します。たとえ嫌いでもやるしかない、嫌なことでも徹底してやると好きになるんです。徹底してやらないから、だめなんです。偉そうに言っていますが、私、若い頃は宗教や占いは大嫌いだったんです。分かるでしょ、こんな性格だから。占いか宗教というのは、弱虫がやるものだと思っていたのです。二十五歳まではそう思っていました。なんだか今はその専門家になってしまいましたがね。

(Kさん) なにかきつかけはあったのですか？

(講師) きつかけはね、うまく宗教に勧誘されたというのがありまして、最初は宗教じゃないと思っていたんです。どんな勧誘をされたかという、あなたのビジョンは、表面的なのでだめだねって言われたんです。これではやってもやってもあなたは成功しないよって言われたんです。成功するためにはじゃあどうしたらいいのかと聞いたら、もっと根本的なものを勉強しろって言われたんです。すべての根本的なものを勉強しないと成功しないよって言われたんです。目に見えない世界を学べてね。好きとか嫌いじゃなくて、神様信じなさいとかじゃなくて

ね。純粹にビジネスマンとしてあなた成功しないよって言われたんです。これは勧誘した人がうまかったんですね。勧誘した人も会社の経営者でしたので、同じような道を歩んでいたんでしょ。確かに根本的なものを勉強しないと成功しないですから。会社の経営もうまくいきませんね。日本一の金持ちの商人は斎藤一人さんでしょう。生涯納税額は松下幸之助を抜いて日本の歴史上一番になってしまいましたね。彼は大変に宗教的な考えをしていますね。ところで、Kさんは、好きな人と嫌いな人って分けがちですか？

(Kさん) どうしても好きになれない人ってやっぱりいます。

(講師) 感情で思考する場合は、必ず二分思考になります。すなわち、良いの悪いの、好きだの嫌いだの、白なのか黒なのか、という発想です。この発想がもし心の中にあるのだったら感情に支配された思考だと理解したほうがいいです。知性と感情が統合されてくると同じものを探すという思考になってきて、良いものと悪いものもごとのウラオモテに見える、好きも嫌いも同じ感情のウラオモテに見える、白も黒も同じ事象のウラオモテに見える、仏教もキリスト教も一緒に見えるという発想ですね。こういう発想で生きれば戦争が起きないので、この次元に人類がいればですね。人類の歴史で一番これに近かった文明がローマ帝国なのです。ローマ帝国はすべての宗教、思想を受け入れたのです。差別が無いのです。だから発展したんです。すべてを認めて許す。これと同じような遺伝子を持っているのが世界中でも日本だけなのです。多神教でも一神教でもいいじゃないという発想です。日本から新しい世界平和を実現する文化が出てこなければいけないのです。アメリカでは無理です。アメリカというのはテロは悪、自分は善と分けていますね。感情思考なのです。いつまでたっても善と悪というのが残るのです。善と悪との区別は永遠に繰り返されるのです。今のアメリカは、そういう魂の段階なので、これをさんさんやったほうがいいのです。我慢しちゃいけない。さんさんやって飽きるまでやっていけば進化する

のです。我慢して修行して進化するなんて無理なのです。さんざんやらないとダメなのです。疲れ果ててどうでもいいやとなると、すーと抜けていけるのです。金融工学をさんざん使って儲けてきた金融の企業が破綻したのが二千年です。これで、アメリカは一步進化できます。さんざんやらないで、ウジウジしている国よりも進化のスピードは速いはずですよ。アメリカはもうだめだなんていう経済評論家が最近は多いですが、そんなことはありません。さんざんやれば、進化するのです。前世でさんざんやって飽きた人は、転生して生まれた時からもう次の段階なのです。そういう人は次の使命がありますからね。さんざん苦勞したから今生はもう少し上からスタートします。こういう観点から自分の進化の状態が分かるのです。今は時代の流れが速いから、変化がすごく激しいでしょう。昔の百年が今の一年ですよ。時間が百分の一になっっているんです。昔一万年かかったことが今は百年でできるんです。時代の恩恵、時代の恵みです。つまり、普通は百回二百回転生しないと経験できないことが今は、一回の人生で経験できるわけです。一万年必要なことが百年でできるのですよ。

はい、質問があればどうぞ。

(Kさん) 直観というのはどういうふうに・・・

(講師) 直観(直感ではない)というのはダイレクトに見るということです。それで、直観というのは、本当の霊界、神々の世界とつながることですね。今の人類が必要としているアイディアがいっぱい流れているところですよ。このアイディアは、無料でロイヤリティありません。ここまで到達した人は、アイディアをつかむ権利があります。このレベルにまで上ってきてアイディアをゲットして商売するのは無料なのです。神々の世界にまで来

てアイデアを取る能力を直観というのです。おそらくものすごい特許のようなアイデアが山ほどあるのです。(Kさん) 私は昔趣味で小説を書いていたことがあったのですが、急に何でこんなこと思いついたんだろうというようなことが数回ありまして、それってやっぱり直観の世界にアクセスしていたんでしょうか？

(講師) そうですね。考えて考えて、とことんまで考えて疲れたときに、スーと抜ける場合があるんです、それでほんの少し直観が働いてアイデアをつかんで降りてくるんです。それに慣れてくると、アイデアが流れている神々の世界とパイプが太くなってくるんですね。感情を明瞭に整理して、知性も明瞭に整理して、当然肉体も健康であると、すべての粒子がきれいに整理された瞬間にスーツと降りてくるんです。やらねばならないという気持ちがあるとまだだめです。リラクセスしている状態で、必要なものが降りてくるんです。多分、新しいアイデアの商品を発明するような会社は、こういうことができています。いつリストラされるか分からないというような会社じゃ感情なんか整理できないでしょう。来年首になるかもわからない、住宅ローンどうしようか、子供の養育費どうしようか、不安ばかりですよ。絶対にいいアイデアは降りてこないですよ。やはり経営者が、絶対的な安心感をあたえて生活などの不安をなくさないと心は安定しなからすから。そういった仕組みを作っている会社の社員だと素晴らしいアイデアが浮かぶのです。自動車会社だったら、自動車が売れないからリストラしようかとやっている会社はいいアイデアは出ないですよ。アイデアを出せて社長が命令して、出るものではないですよ、ロボットじゃないんだから。出したって思わないとね。クビになるからアイデア出さねばならぬ、じゃ出ないんです。真剣に日本の発展のためにやりたいとか、人類の進化のためにやりたいとかという発想がないとアイデアなど降りてこないですよ。グーグルなんか、こういう人がいると思いますよ。あのストリートビューなんかものすごいアイデアでしょ。次ページに今までのことを整理しました。

・天は気をあらわし、地は質をあらわす。

では気とは？ 地とは？ 人の「心」と「体」どっちがどっち？

天は気。気は心。地は質。質は肉体。

・十干と十干の組み合わせが 通変星になる。

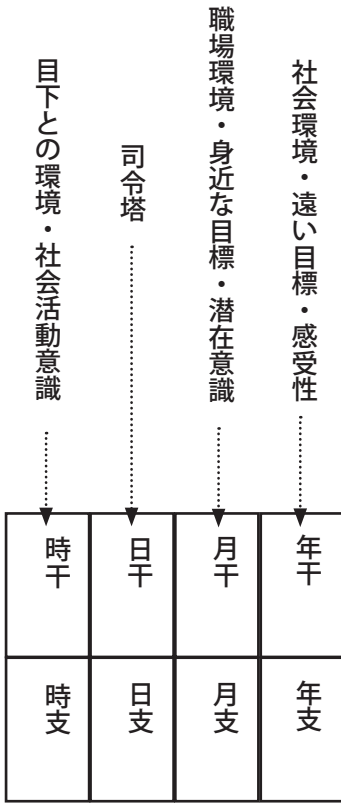
では通変星って何？

気と 氣 の作用は、価値観。なぜ、そうするのか？

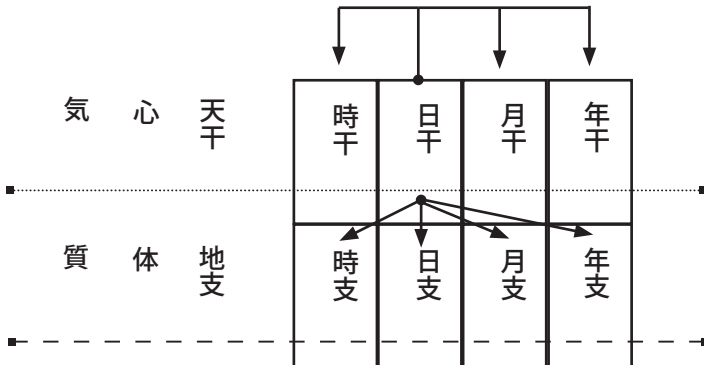
・十干と十二支の組み合わせが 十二運星になる。

では十二運星って何？

天と 氣 の作用は、行動様式。 知らず知らずのうちにそう行動する癖。



通変星：なぜそうするのか？



目標となる人物（印星の事例）

（講師） Kさんは、印星という通変星が強いですね。ご自身のビジョンを描くために、「偏印」で成功した人はどんな人なのか、そういうつもりでちょっと聞いて下さい。本田宗一郎の参謀の藤沢武夫さんの事例です。本田宗一郎は技術屋でした。会社に来たらすぐ工場に行ってみんなと一緒にやってエンジン作っているようなタイプです。技術の本田、経営の藤沢というように言われています。藤沢さんは、当時自分の家業をやっていたのですが、将来性もなかったときに、本田宗一郎と出会って、家業をやめてホンダに経営者として入ったのです。経営学などない時代ですが、素晴らしい経営学を作ったのです。「社長室はない」これが、ホンダの伝統です。社長が社長室にこもって隔離されているようじゃ、ホンダじゃない。大部屋にいなさい。「役員も個室いらぬ」。平社員から丸見えです。「役員の子供は入社させない」という決まりを作ったのです。役員の子供がいると、「役員の子供だから」となってしまふでしょ。こういったルールを発案したのが藤沢さんで、月柱天干が「偏印」です。藤沢さんは、本田宗一郎が好きだったのです。何とかしてホンダの技術を世界に広めたい、そのために自分が経営をしましょうと決意したわけです。動機は本田宗一郎に対する愛情なのです。そういう愛情の十干はなんでしょうか？そして、通変星の「偏印と傷官」から、十干も出してみてください。

（Kさん） 日干は愛情の「己」です。月柱が偏印なので月干は「丁」です。年柱が傷官なので年干は「庚」です。

庚（傷官）	戌
丁（偏印）	亥
己	卯

(講師) そうですね。土の人は、愛する対象がいるとハッピーなのですよ。何も経営をやりたかったのじゃなくて、本田宗一郎が好きだったから、本田宗一郎がやれって言うからやっただけで、本田宗一郎が退職したら本人も役目が終わったと感じたようですよ。晩年は、古物商のようなものをやっていたようですよ。「社長室ありません」「役員部署ありません」「役員の子供は入社させません」当時こんな内容を会社のルールとしたのはホンダだけですよ。こういうアイディアは、「偏印」ですよ。当時の常識では、考えつきません。成功するためのノウハウ本を読むと、藤沢の経営学といって色々書いてあるのですが、そんなの読んでも仕方ないですよ。ノウハウが大事なんじゃないかと、何故そういうアイディアが出てきたかというのが重要で、藤沢さんは、本田さんが好きだったからという点があつとも重要ですよ。そうすると、天からアイディアが湧いてくるのです。ちよつとホロスコープを説明すると、蠍座に多くの星が集まっています。蠍座は、心の奥底から信じあえる人と出会わないと心が安定しません。そういうパートナーと出会えば、パートナーのために抜群の才能を発揮します。

目標となる人物(星の欠点を逆手にとって成功)

(講師) 次は「偏印」じゃない成功事例を説明しますね。こういう成功の方式はKさんには向かないということ聞いてください。澤上篤人という、さわかみファンド(投資信託)の経営者ですよ。日本の長期投資の第一人者といわれているのですが、この人の投資のやり方は、はつきり言って今までの投資の常識を根本から変えたものです。証券会社の連中から言わせるとめちゃくちゃ。まずね、経済の指標を見るなどというのです。たとえば、円が高いとかドルが安いとか、GDPの成長率がマイナスになったとか、アメリカの住宅の着工率が過去最低だった、あるいは、トヨタが今期は赤字になった、車の販売台数が四十年前の基準になった、こういう指標を見るな

というのです。つまり、経済雑誌や経済新聞を読むなということに近いと言えます。さらに、数字などを見るなど言うのです。決算書の数字を読むなど言うのです。では、何を見るかというのと、企業の価値を見なさいと言うのです。その企業が日本という国にとって必要かどうか、価値があるかどうか、価値だけを見なさい。そのほうが、間違わない。株式相場で勝つ方法なんていう本を、勉強すればするほど間違えるから、勉強するなど言わなければなりません。具体的な生活感覚で、この会社がいいと思ったら買いなさい、という不思議なことを言っています。

(Kさん) そういえば、私は松屋が好きで、松屋、松屋って言っていたのですが、ある日先輩があわてて新聞持ってきて松屋が十万から二十万に上がっている、って言うようなことがありました。自分がいいって思ったところが上がっているなって。

(講師) そうですね、そういう生活感覚が大事です。例えば、私は車が好きなので、色んなメーカーの車に乗ったり試乗したりしています。結局、高速道路の使用が多いのでドイツ車に乗っています。昨年、高速道路で車のエンジンが壊れて、JAFを呼んだのです。そのときにJAFのおじさんに、「ドイツの車はこういう故障が多いね。今度買うのはトヨタのクラウンにしな」って言われました。「何で？」って聞いたたら、「こういう商売しているよ、ドイツ車は故障が多い。トヨタは壊れないよ。壊れても、トヨタだと町の修理屋でも、エンジンに手を入れることができるよ。そういう風に作ってある。ドイツ車はそうはいかない。トヨタが嫌いなら、せめて日産にしたらどうだ。」と言う。でも、日産はトヨタよりも修理時間が二倍かかるらしく、修理コストはトヨタよりも高くなるみたいです。日産は後から修理しやすいという設計ではないみたいです。ホンダは日本の車の中で一番直しにくいのだそうです。ホンダはホンダのディーラーに持っていかないと直らない、特殊なものを使ってい

るから町工場では手を出せないことが多いのだそうです。ですからホンダに乗っていて何かあったときは、近くにホンダのディーラーが無い場合は、面倒なんだそうです。JAFは最初、小さな町の自動車修理工場に車を移動してくれました。その修理工場の社長さんも、「クラウンにしておきな」って同じ事を言われました。「クラウンで我慢できないのなら、セルシオの中古なら安くて壊れないよ、こんなこと絶対にないから」って。トヨタの車にしろって言うのですよ。トヨタの場合、コンピュータで診断して、この部品が悪いからってわかると、すぐに部品を配送してくれるんです、しかし部品を取り付けてみるとその部品じゃなかったっていうこともあるんだそうです。コンピュータで診断してこの部品が悪いって出るでしょ。そして、直すでしょ。でも直っていないで本当は違う部品が壊れているとするでしょ。この時にも、トヨタは取り付けた部品の返品ができるそうなんです。他のメーカーはこの返品ができない。こういう話は、普通じゃ知らないでしょう。実際聞いてみないとね。ああ、だからトヨタは強いんだって思いましたよね。直しやすい、修理しやすい、修理工場が損しない。こんな話をしてくれて、改めてトヨタの価値を発見したわけです。そう思ってトヨタの株が安くなったので、買ったわけです。澤上篤人さんは、もともとヨーロッパでファンドマネージャーをやっていたのです。日本に帰ってこなくても金持ちなのですよ。何でわざわざ日本に帰ってきて、しかも借金までして会社作ったのか。日本のサラリーマンの豊かな生活のためにというのが動機なんです。日本の証券会社はみんな手数料を取るだけですから、年金も崩壊しそうだし、サラリーマンは老後が不安でたまらない。じゃあちゃんとした長期投資の会社がないと、日本が不幸になる、ということで日本に帰ってきたのです。こういうサラリーマンのために長期投資の会社を作ってやるという通変星はなんでしょう？

(Kさん) 官星ですか？

(講師) そうです。月柱天干が「正官」で服従する相手は日本のサラリーマン。日本のサラリーマンに私は服従しますよ、という精神です。「食傷」のでしゃばりの価値観とちよつと違うでしょう。わりと、まともというか、誰かのためにという素直さがありますね。実は澤上さんは、今、第一線を退いて、彼の息子がファンドマネージャーをやっているのです。その息子は、ずつとサーフィンしかやっていなかったのです。高校を卒業してもサーフィンやっていて、そろそろ仕事をしようと思っても、仕事がないから、さわかみ投信に入ったわけ。すると、周りの人は「社長の息子だから」って言うでしょ。それを分かっていたから、息子さんは何をしたかというと、毎日切手貼ります。お客さんに送るダイレクトメールの切手貼ります。切手貼りをやっていると、息子さんはどう思ったかと言うと、どうせ切手貼りをやるのなら、その切手を見たお客さんを感動させてやろうと思ったわけです。そして記念切手を買いまくったのだそうです。これ、Kさんと同じ「印星」の性格です。郵便局について記念切手を買って貼るのです。それがお客さんの評判を呼んで、じゃあちよつとレベルの高い仕事をやってみるか、ということになって、社内の運用コンテストに参加して、優勝したのだそうです。優勝したから誰からも文句を言われず、今ファンドマネージャーをやっているのです。普通はファンドマネージャーというのは、お客さんのお金を減らす可能性もあるし、今実際に基準価格も下がっていますから、こういう親族経営というのはやらないのです。危ないから。よくも自分のお金を減らしてくれたな、と恨まれるのは当たり前の世界ですから。ところが彼は自分の息子をファンドマネージャーにして、しかも全国でセミナーの講師もやらしているのです。ですから、殺すならこいつ殺してもいい、ということですよ。逃げも隠れもしません。顧客の前に顔を出すファンドマネージャーは他の証券会社にはいません。しかも講演会場で講演するということは、いつでもブスツと刺されるような環境です。命張っているんですよ。そういう腹の中を隠さない日干はなんでしょうか？

(Kさん)「丙」ですか。

(講師) そう、「丙」です。天干の並びは、「丙癸丁」で「正官」と「劫財」ですね。実は澤上篤人さんの場合、十二運星に最大の特徴があるのですよ。指標のような数値が嫌い、数字が得意ではない、財務指標のような資料が嫌い、企業の価値しかららない、という十二運星があるのですよ。

(Kさん) もしかしたら、「帝旺」ですか。

(講師) そう日柱が、丙午の「帝旺」です。普通はね、「帝旺」というのは、経理とか数字とか不得意なのです。不得意だけど、ヨーロッパの競争の厳しい投資の世界で成功したわけでしょう。だから、「帝旺」だからあなた経理とか金融の世界に向いていないですね、とはいえないのです。向いていないのを逆手にとったわけです。不得意を得意に変えたわけですよ。数字を使わない投資方法を発見したんですね。誰もやっていない方法を発見したわけです。だから証券会社の連中からみるとむちゃくちゃな事をやっているように見えるのです。でも、日本で長期投資で顧客から信頼を集めているのは彼一人です。今のような金融危機でも、彼のところはお客さんが増えているのです。お金が集まってきているのです。面白いでしょう。こういう人を診断していくと、命式がこうだからこうなりすよ、というのが如何にレベルが低い診断かが分かるでしょう。運命学でみると、数字とか金融の世界では絶対に成功しないと言う命式でも、成功したんですよ。命式の欠点を長所に転換するという発想で成功したのですね。

丁 (劫財)	亥
癸 (正官)	卯
丙	午 (帝旺)

(Kさん) どの分野でも自分の命式を生かせば成功するんですね。

(講師) そうです、そういうことなのです。ちなみに、ホロスコープで見るとこの人の一番強い星は、海王星。夢とロマンの星だから、ものすごいロマンチックですよ。十五年後、みんなの預けたお金は二倍になっているから心配するなっていうのも言っているんです、金融危機があーだこーだって言うなって。あなたたちは、十五年後あなたのお金が倍になったときに、そのお金を何に使うかを考えてくださいと言っている。実際、お金を作るよりも使うほうが難しいからね。使うほうを考えなさいって言っているんです。例えばKさんが将来一億円持ったら何に使いますか？

(Kさん) 本を買いまくる。図書館を作りたいです。超金持ちになったら大学作りたいなって。

(講師) どういう大学？

(Kさん) その人の個性を活かせるようなカリキュラム。なんか、まだおぼろげですが、そういうのを作れたら面白いなって思います。百億とか二百億とかほしいですね。

(講師) それでいいんですよ、本当にやりたいと思ったら百億もできるから。でも、一億円たまったらやるじゃだめなんですよ。今からやらないと。じゃあ今の段階でそういう図書館とか、図書館的なものは何だろうって、今できることをやらないとだめですよ。一億貯めるまで待っているようでは何もできませんよ。じゃあ、一億貯める前にできることは何？

(Kさん) どこか公民館とかで、ほんのスペースが足りないところを充実させたりは、一億なくても充分にできるなって気がします。

(講師) 本を置いておくだけで、その人は個性を活用して良くなっていく？

(Kさん) 講演会なども開いていく必要がありますね。

(講師) 「運命学大全」を読んでも、重要なところは頭に入っていないことが多いでしょう。Kさんもそうだったでしょ。だから本を読んでも正確に頭に入るといふ人は実はいないんですよ。読んだあとアフターケアしないといけない。そうしないと、人は変わらないんです。今からアフターケアの練習したらいいんじゃないの。

サポーターすべき人物の目標

(講師) 次に大阪の知事の橋下さんですね。Kさんとは全く異なる通変星です。おそらく、こんなタイプの人をサポーターすればKさんの特徴が生きるのではないかと思います。そういう観点から聞いておいてください。彼は何を言っているかというと、「大阪府の公務員の給料が高すぎるので、全員一割削減しましょう。警察官も多すぎるから削減しましょう。人権団体への援助もやめましょう。伊丹航空も廃止しましょう。児童文学館は漫画しかないので、漫画図書館に変えたらどうだ。今の教育委員会はくそ教育委員会だ。自分は弁護士だけど、弁護士なんて腐っているから弁護士会解散しよう。税金を払わないやつは生きる資格がないから死んじゃえ。」こういうことを言っているのです。こういう古いものを全部壊して、新しいものを作る価値観をもった通変星のパターンのあるのですよ。これは二つの融合なのですが、何でしょう？

(Kさん) まず「偏官」はすぐに浮かびますが、「傷官？」

(講師) ロジックで追いかけるとそうなるけど違う。押さえつける星だよ。

(Kさん) 「財星」ですか。

(講師) はい。特に偏とか正とかみなくても、「官星と財星」が上に並んでいるとだいたいそうなるんです。橋下

さんの場合はたまたま「正官と偏財」が並んでいて、乙庚己という並びです。こういうふうには財星と官星が並んでいると、不思議と今の時代のように古いものから新しいものを作っていく時に、さんさんゴタゴタをおこしながらやっていく人が多いんですよ。よく殺されたりするんですよ。中国の原書では、財官双美格なんて書いてあります。美しいどころか、殺害される命式のナンバーワンです。

(Kさん) 自分が好きだった女性も、確かその並びだったと思います。上司や組織の幹部に対してこここうしたほうがいいんじゃないのって、しかも「背宿」の毒舌も混ぜて、すごかった。

(講師) まあ、私もこの並びだから。古い占いのやり方(うまくいかない理由を探すような占い、運が来ないから何もしないで待つというような占い、財星がないからお金がないというような占い)をぶつつぶせて言っていますね。こういうタイプはやっぱり人気運のある印星のパートナーがいるんですよ。一人で暴走してしまうと敵を作るしかありませんからね。橋下知事は、ホロスコープで見ると、乙女座に、天王星、木星、冥王星が集合しています。乙女座は、分析と批判を司りますので、その特徴も出ていますね。

己(偏財)	酉
庚(正官)	午
乙	亥

未来予知の考え方

未来予知の考え方は二通りあります。生まれたときの情報を原図といいます。この原図にも種類があります。個人の原図は、生まれた年月日時時のタイミングでセットされます。しかし、地球上の全ての人類が共通して持っている原図もあります。紀元前数千年前に原図がセットされたといわれますが、真偽のほどはだれにも分かりません。しかし、二千八年度が戊子の年であり、二千九年度が己丑の年であるということに誰も反論を唱えませんでしたのでそのまま使うことにします。

さて、この原図の使い方によって未来予知の方法が二種類に分かれるわけです。一つは、生まれたときの情報の原図と、その原図が更新されていく未来とを比較するという考え方で、西洋占星学のプログレス法、四柱推命の10年ごとの大運法、インド占星学のダシャーシステムが該当します。もう一つは、万人に共通な原図と個人の原図を比較するという考え方で西洋占星学のトランジット法、四柱推命の年運、月運、日運、インド占星学のトランジット法が該当します。(いずれも当社の新四柱推命プロ版ソフト、西洋インド七政占星学プロ版ソフトで診断することが可能です)

1982年某月某日に生まれた人Kさんを事例にして説明してみましよう。Kさんの38歳からの10年間の運勢を知る場合、四柱推命の大運の計算方法を見ましよう。次図のような命式です。月柱が壬子ですから、ここから原図が刻々と10年ごとに一回変化します。月柱から原図が変化するということは、10年ごとに変化する大運というのは、実は、潜在意識が変化しているということを暗示しているのかもしれない。

辛 (正官)	甲	壬 (偏印)	壬 (偏印)
未	戌	子	戌

8歳から18歳までが癸丑の運、18歳から28歳までが甲寅の運、28歳から38歳までが乙卯の運、38歳から48歳までが丙辰の運となります。48歳から58歳までが丁巳の運となります。原図の1ヶ月後が10年先という理論であることが分かります。つまり、生まれてから3日後を1年先と仮定するという方法です。仮想進軍法といわれる理由がここにあります。どういう運かを見る場合は、生まれたときの日柱の天干の甲からそれぞれの十干をみて通変星を出します。8歳から18歳は、甲から癸をみると「印綬」の人氣運です。18歳から28歳は、甲から甲をみると「比肩」の実行運です。28歳から38歳は、甲から乙をみると「劫財」の集中運です。38歳から48歳は、甲から丙をみると「食神」のゆつたり運です。48歳から58歳は、甲から丁をみると「傷官」の批判運です。

さて、これが教科書的な大運の未来予知ですが疑問が湧いてきます。生まれたときの日柱の天干の甲からそれぞれの十干をみて通変星を出すということは、自分が運に対して積極的に仕掛けるという考え方です。運が何々だから、こうなるという求め方ではなく自ら動いて運をつかみにいくという考え方なのです。もし、38歳から10年間、どんな運がやってきますか?という受身の考え方だと、38歳から48歳までが丙辰ですから、丙から甲をみて「偏印」の幻想的な運となります。通変星を求める場合は、自分の命式と大運のどちらが主体でどちらが対象かを明確に意識しなければなりません。

次に10年ごとの運を見るのではなく、1年ごとの運勢を見てみましょう。つまり、西洋占星学のトランジット

法と同じ考え方です。生まれたときの原図と万人に共通なその年の原図を比較する方法です。Kさんの二千年の運勢を知る場合、四柱推命の年運の計算方法を見ましましょう。二千年は己丑の運です。生まれたときの日柱の天干の甲から年運の己をみると「正財」のコツコツ運です。しかし、逆からみると年運の己から日柱の天干の甲をみると「正官」となり、上司からこきつかわれる運です。このあたりの考え方は「運命学大全」に詳しく記載していますので、あとで読んでみてください。

受講生Yさんとの会話（心理学と運命学と未来予知）

（Yさん） 占いの種類によって得意・不得意の分野はありますか？

（講師） Yさんの場合、それを知っても役に立たないんです。私から見るとYさんの場合は、四柱推命の命盤を見ると、発動していません。星が作用していません。普通は、四柱推命は能力診断に良く使われますが、Yさんの場合は、今までの発言から判断すると、四柱推命の星の特徴が出ていないのでこの法則は使えないのです。（Yさん） 自分の場合、西洋占星学だったら出ているんですか？

（講師） はい。西洋占星学のほうが発動していますね。でも、一番発動しているのは、宿曜経でしょう。ルールや組織に抵抗するという、Yさんの発言から一番感じるのは、宿曜経の「亢宿」という星です。男性は法則を作りがたがるので、四柱推命の得意技は何ですか？と質問されれば、能力診断ですというふうになります。それで、

四柱推命で診断してくださいとお願いされても、星が作用していないので困るのです。占いではこうなりますが、今は当たっていませんよと言っしかありません。時期がまだ来ていないのでしょうか。

(Yさん) いつかは出るんですか？

(講師) いつかは出るでしょうが、私は神様じゃないからいつかはわかりませんよ。そんな質問しちゃいけない。人によって違うから。私は予言できないですよ。Yさんの場合は、「亢宿」が一番出ているんです。そして四つの占い、紫微斗数推命と、四柱推命と、宿曜経とホロスコープと、この中からYさんが言った言葉に当てはまるものを探すのです。言葉を探すのです。ルールがいやだ、組織がいやだ、縛りがいやだ、と言うKさんの言葉は、この中で言うどれかなと探すのです。四柱推命では星がありません、西洋占星学もこれという星がありません、紫微斗数推命も星がありません、あれ、生年月日が違うのかなと思っていたら、あ、あった、宿曜経にあったという感じ。言葉がすべてです。言葉でもう答えを言っているんですよ。Yさんの言った言葉が答え、それが正解、それ以外に正解はないんです。自分は何者かということに聞こえないでください。正解は自分の中にしかないのですから。私はあなたじゃないんですから。私はYさんじゃない、だからわからない。Yさんが、ルールがいやだ、組織がいやだ、立法みたいな世界がいやだと言ったのだから、それを占いの言葉で言うと、宿曜経にでています。「亢宿」が発動していますね、じゃあそれでいいんじゃないの。

(Yさん) 実は、黙っていたことがあります。というか、自分の欲求が正確にまだ表現できないのですが、言葉にしないとけないというので、職人への憧れ、手に職を持ちたいと言ったらどうなるんですか？

(講師) やっぱり隠してましたね。今、そういう欲求がありますか？

(Yさん) もちろん、それも一つの欲求で…。

(講師) 職人ですか、どういう職人でしょうか？

(Yさん) 具体的にですか？今の消防関係の職場でやっていくんだったら、やはり法令関係ですよ。この法令関係はかなり奥が深い世界で、ある意味、私は職人としてとらえていますね。消防の設備関係の法令にしても、複雑怪奇で十年二十年やって、一つの職人的技術が修得できるかなと私は思います。

(講師) 法令順守ということですか？

(Yさん) 法令順守というよりも、法令をどこまで深く知っているか。

(講師) 法令を深く知ることですか。縛りがいやだといっていました、法令はいいのですか？

(Yさん) はい、法令を完璧に理解したい欲求。細かいところまできちん和理解したい欲求が強いようです。

(講師) やつと言葉が出てきましたね。その表現が、Yさんの本心であるなら、四柱推命のある星に出ています。言葉はかなり重要ですよ、初めに言葉ありきですから。言葉で宇宙が創造されたのですから。言葉には霊がのりますから。細かい部分を完璧に理解したい欲求が四柱推命に出ています。そしてそういう法令が好きというのではなくて、法令の細かい部分を詰めるのが好きというところまで掘り下げていくと、すぐに見えてきます。これは十二運星の「建禄」という星に出ています。その欲求は間違いないということです。

(Yさん) じゃあ、正常ということですか？

(講師) 正常です。そういう占いの勉強の仕方をしないとだめです。自分の欲求を占いの言葉を使って表現する。自分の欲求は四柱推命のこの星だと定義することで占いが理解できるようになります。自分の欲求は何ですか、という姿勢で占いを勉強するとノイローゼになりますよ。占い師に行つて、黙って座っているのもいけない。

(Yさん) もう一つ分からないのですが、心理学と占いの関係って、どういのですか？

(講師) それを知りたい動機は何でしょう。どういう心理学に興味があるのでしょうか。

(Yさん) 私は救急の仕事で十五年間やっていまして、どちらかというと心理的に病んだ人(自殺未遂)というのをかなり扱っているんですね。そっちの方のほうが得意だということもあります。自然と心理学というものに興味を持ち始めました。例えばこの人、ウツだ、とわかってても何もできないんですね。私が薬の投与をできるわけじゃないですし、カウンセリングぐらいしかできないんです。

(講師) ウツになった原因を知りたいという欲求ですか？

(Yさん) 原因というか、どういうケアができるのかということですよ。

(講師) 原因知らないとケアできないですよ。

(Yさん) う〜ん、そうですね。突き詰めていくんだったら原因が分からないとだめですね。

(講師) そうなった原因を知りたい、という欲求があると思いますね。心理学も結局人を診断する学問でしょ。占人も人を診断する学問でしょ。根は人の診断でしょ。同じでしょう。

(Yさん) ああ、そう考えていいんですか。

(講師) 目的は人を知ること。心理学と占いは、学問的な目標は同じです。ただ私は、カウンセリングは嫌いで面倒臭いんです。ぐじぐじ悩んでいるのを聞いても仕方ないのです。でも、人を診断するのは好きですよ。人をちゃんとした方向に持っていくのも好きですよ。じゃあ、何を使うか。私が男性に使っているのは、相場学。その人の魂に火を灯せるものであれば、何でもいいですよ。相場学っていうのは、西洋では、相場心理学って言うんですよ。米国のビジネススクールの相場学っていったら九十パーセントが人間の心の研究なのです。相場は、自分の恐怖心に打ち勝ったら勝つんです。自分の傲慢性に打ち勝ったら勝つんです、相場というのは、他

人との勝負ではなくて自分との勝負なんです。欧米では、きちんとマインドをコントロールするテクニクを教えているんです。九十パーセントが心のテクニクで残りの十パーセントが売買のテクニクです。日本は違うんです。だから個人投資家はみんな損するんです。だから、男で開運したいのなら、株買えよって、言っているんです。毎月三十万円づつ買ってみてよ。私は相談乗らないよって、自分の好きにやってみたら、その売買履歴を持ってきてもらうんです。いつ、何でこの株を買ったのか、理由は？いつ売ったのか、理由は？いつ買って、いつ売って、いつ買って、いつ売って、と理由をずっと説明させるのです。本人が説明すると気づくんんです。根っこにある心の病気に。例えば、売買テクニクというのはたくさんあって、ビデオで学習してもらうんです。こうやれば絶対に大きくは損をしないテクニクは沢山あります。儲かるってテクニクはいっぱいあるんです。たとえば初心者には、今日買って今日売る、明日には絶対持ち越さない、というテクニクのビデオを見せるわけです。その通りやってきてねと。で、その通りやってくる人は一人もいないんですよ。最初の二週間ぐらいはそのとおりやって、あ、儲かった、うまくいきました、となるんですが、次の日から自分なりにやりだすんです。最近、アメリカのGM、クライスラー、フォードを国が税金を使って助けるといふ報道がありました。アメリカ合衆国の国会で税金を使ってこの会社を助けるといふような法案が可決された瞬間に日本でも自動車会社の株が上がるでしょう、というコメントがあると、それを信じてしまうんです。だから、今は売らないよとなってしまう。今日買った株は今日売れよ、というデイトレの大原則を学んで二週間。でも二週間すぎると自動車株は必ず上がると自分で勝手に思い込んでしまう。なぜならばアメリカ合衆国が自動車産業を救うから、売んな、持っておけ、ってどこかの評論家が言ったことを信じたからです。そして、買った株が下がってもその日に売らないですって持っているんです。ところが、そのあとアメリカではそんなことに税金使うな、というこ

とになってきてどんどん株価が下がっているんです。トヨタもホンダもどんどん下がっています。下がった、あーどうしよう、あーまた下がった、あー塩漬けになっちゃった。今までの儲けみんな飛ばして損の確定。これ傲慢でしょう。自分で決めたことをやらないのだから。せつかく誰かが十年以上かけて作ったテクニクを学習してもらって、うまくいったけど、わずか数分、インターネットか雑誌を見て、これを信じてしまったのです。これがいいに違いないと勝手に思ってしまった。傲慢でしょう。勝手に自分でルールを変えてしまったんです。こういうことが自分で分かるんです。整理できるんです。なんでこうなったの？というとき、実はこのとき、そういう記事を読んで、正しいと思いました。経済評論家をあれほど信じてはいけなかったのに。自分勝手な欲望が自分の都合の良い情報だけを抽出して信じさせてしまったのです。こういうことが普通にあるわけです。これ、心の問題でしょう。心が弱いんです。自分で決めたルールを勝手に変える。自分の欲望にあつた情報を真実だと思ってしまう。検証もしないでね。こういう心の弱い人はみんな損をします。自分で決めた事をその通りやらないんだから。だから私は、株をやると自分の弱みがみんな出るんで損をさせられます。痛い思いをしなないと変わらないので。何十万も損をさせるわけです。そうすると財布も心も痛いから変わるでしょう。血を流して変わるんです。そういう私自身も損して心を矯正しました。後はスポーツを使います。私は馬に乗っているんです。馬に乗れば、心が傲慢なやつは、馬から落ちるんです。馬は人を見ますから。馬に審判してもらっています。このように本当の自分を気づかせる手法は何でもいいんです。私の頭の中では、心理学も古い学も相場学も馬術も一緒なんです。どれも人の心を深く探っていくって、心の間違ったところを矯正するという学問であり、スポーツなんです。こんな偉そうなこと言っていますが、馬から落ちて骨折したのは、自分のことですからね。七月に馬から落ちて二ヶ月間入院していましたから。この時に、「運命学大全」という本を書いたんです。

(Yさん) 未来予知を詳しく知りたいという欲求があるのですが。

(講師) 世界中の全ての未来予知の技法を勉強したらいいですよ。「運命学大全」を読むだけでも、西洋と東洋の技法が分かるので、やってみてください。やればやるほど混乱することが分かります。自分で自分にあつた未来予知の技法を作ったほうが早いことが分かります。

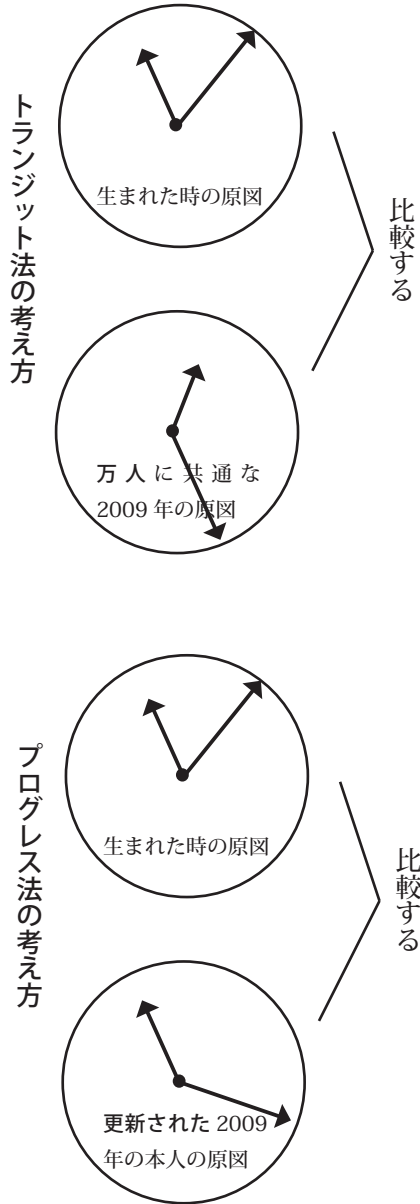
四柱推命の未来予知の大運の計算方法ですが、生まれてから三日後が一年先という定義だと勉強しましたね。でも、何で三日が一年なんだ？と、私は疑問に思ったわけです。私は一日一年で計算したっていいじゃないかと思つたわけです。ここで大運計算の新しい計算方法がうまれるわけです。いくらでもこういう計算方法は、原理が分かつてしまえば発明できるのです。ですから、百通りぐらゐの未来予知の計算式は、私はすぐ作れますよ。原理を分かつてしまえばね。思想を変えればいいだけです。根本的な思想が分かつてしまえば三日が一年と、いうのではなく、一日一年でもいいじゃないかと。じゃあ、変更しちゃえ。これ、ありですから。たまたま古代中国に四柱推命の理論を作つた徐子平という人がいて、その人が生まれてから三日後が一年先と仮定しただけで、それが正しいかどうかなんて誰にも分からないんです。おそらく啓示のようなものが降りてきて作つたのだと思うのですが、それを千年経つても使っている。誰も検証していないんです。当たり前で当たらない。これしかないのか？というのが疑問なんです。だから未来予知の技法は、たくさんあつて、それを全部知つてもしかならないことです。そんなもの知る時間があるんだつたら、来年の準備でもしたら、ということですよ。本当にこういう深いところまで研究していない占い師さんが九十九パーセントなんで、そういう連中に自分の未来を聞きにくいなんてことはやめて欲しいですよ。自分で考えろつて。だから、「運命学大全」のサブタイトルは、占い師を超える考え方となっているのです。この本、本当に理解すると、日本中の占い師よりも上に行きますか

ら。デパートに出展しているどんな占い師よりも必ず上に行きます。占い師の言う理論は、なんだこれを使っているなどというのが見抜けますから。大体、占い師は理屈を隠しますから。上手にごまかしますから。あなたの言っているのはこういう技法ですか、と言えるようになるのです。そういう風に皆さんになって欲しいから、「運命学大全」を書いたんです。

(Mさん) 今までの話しを聞いていて思ったのですが、来年今の会社を退職してオーラ診断で独立しようと思うのですが、そういうときの未来予知はどう考えたらよいでしょうか？

(講師) 商売は、あきない、といえますね。今はMさんがオーラ診断は面白くて飽きないものなんです。でも、お客さんはやがて飽きてきます。お客さんを飽きさせないのが商売です。だから、新しいことを次々にやっていたくしかないのです。今月売りが良くない。原因はなんだろう。もしかしたら、こうかな。じゃあ、来月はこういうサービスをやってみよう。毎日新しいことを考えていかないといけない。商売には、常禄なしというでしょう。この意味は、商人には、旗本やお役人のようにきまった禄(収入)があるわけではない、商売で利潤を毎日出せねば食えない。生きていく間ずっと毎日新しいこと考えるのです。稼ぐのが一生のつとめです。それが、商人道の基本ですよ。占いで未来予知をしている暇はないんですよ。今年は運が悪いから何もしいでは、食えないんですよ。来年になったら運が変わるからやろうでは、絶対やりませんよ。お客さんの要求に合わせて自分を変えていくしかないのですよ、ですから、自分で商売をするのは最高の魂の修行になりますよ。自分を変えていかないと食えないですから。サラリーマンだと給与が一万円上がるのは大変ですよ。でも、商売なら、アイデアが当たると十万円くらいはすぐに売り上げがあがるでしょ。自分が進化しただけ儲かるのが商売です。だから、老人になってもぼけないですよ。大企業の役員なんかは、退職したらぼけるでしょう。商人はそんなこと絶対に

ないですよ。ただ、儲かるようになったら、注意点があります。これはMさんが儲かるようになったらお話ししましょう。



2009年度の運勢は？というテーマでも2通りの考え方がある

星平会海^{せいへいかい}海^{かい}って難しくない

受講生Kさんの四柱推命

壬(偏印)	戌	養
壬(偏印)	子	沐浴
甲	戌	養
辛(正官)	未	墓

(講師) ちょっと普通の占いスクールではやらないことをやって頭を働かしてもらいますね。自分の命式ですから分析できるはずですよ。まずどのぐらい「辛」が働いているのか、どのぐらい「甲」が働いているのか、どのぐらい「壬」が働いているのか、というのを「運命学大全」を参考にして調べてください。十分に働いているなら◎、まあまあ働いているなら○、なんだか働いていないというふうだと×をつけてみましょう。同じように、十二支の未、戌、子などもやって、十干、十二支だけでみてみましょう。そのときに、命式の位置を多少意識しましょう。日柱は、自分の司令塔、月柱は潜在意識・職場の自分、年柱は感覚的なもので、時柱が社会活動での自分という観点です。どのぐらい十干と十二支が発動しているかというのを、十分間ぐらいでやってみましょう。

(Kさん) 日柱の「甲」ですが、成長中だと思えます。哲学的な思考は好きですから○です。次に、月柱の「壬」の潜在意識ですが、こちらのほうも、成長中で○ですね。自分が周囲よりも劣っているのが気に入らない、そう言った勝ち負けにこだわるといというのが結構あるみたいです。次に時柱の「辛」の社会的意識ですが、昔は結構人の言

うことを聞かずに自分の理想を通してきたのですが、社会人になってから大局が見えていないと気がついて少し自己主張を控えていますからやはり○でしょうか。時支のほうですが、「未」ですね。こちらはネガティブな思考が強いというか、心配や取り越し苦労をかなりするので、×ですね。次の日支の「戌」ですが、こちらのほうはまだ、◎だけど○に近い感じで、自分を慕ってくれる後輩に対してはかなりおごったりとか、真心尽くしたりする面があります。月支の「子」は、◎だと思います。自分よりも人を喜ばせるのが好きなので。社会人になってから意識が大きく変わったなと思います。

(講師) 社会人になって、徐々に硬かった考えが、やわらかくなってきたという感じですね。これで十干と十二支はの分析は終わりで、次は通変星をみていきますね。時柱の天干が「正官」、月柱の天干が「偏印」、年柱の天干が「偏印」となっています。この場合は部位はあまり気にしないで、「正官」がどのぐらい発動しているか、「偏印」はどうか、というように見ていきましょう。

(Kさん) まず、「正官」は、結構受身で会社の上司から言われたことは従ってしまうほうなので、◎です。「偏印」はもろでています。空想的な発想とか新しいアイデアが思い浮かんだら、形にして人に見せて驚かれたりすると、やったーとか思いますので◎です。

(講師) ビジネス的な能力を判断する場合は、年と月の天干の二つの通変星のセットで判断するのです。この二つのセットの内容が、「運命学大全」の三百十一ページの部分です。月柱と年柱の天干のセットがどういう組み合わせになっているのか、というのがこの本の内容です。Yさんの場合は、「印星と印星」ですね。どうですか？(Kさん) そうですね、未成熟(素晴らしい夢は語るがやることは夢想的過ぎる)と成熟(実力を十倍に見せる表現力があり周囲を巻き込んでいく)の中間ぐらいの○(企画力とアイデアは素晴らしいが実際の部分は他人に

任せていく) かもしれないです。

(講師) そうですね。次に十二運星です。十二運星は、墓・養・沐浴・養となつていますが、これがどのぐらい出ているか、これは三百八ページの三段階をみていきましょう。あまり命式の場所は意識しないで、「墓」の要素があるかどうか、「沐浴」の要素があるかどうか、「養」の要素あるかどうかでみていきましょう。

(Kさん) 時柱の社会に対する意識のほうで、「墓」ですが、これは◎だと思えます。人に教えるのが得意であり目下をかわいがることに喜びを感じるとありますが、基本的に私はあまり教えるのはうまくないな、という風に言われていたんですが、自分の得意な分野に関してはすごいまいと言われ、しかも後輩をかわいがるのは好きなんです。次に、日柱の自己コントロールのところの「養」ですが、限りなく×に近い○と言う感じで、人間関係を穏やかに作っていく人脈が豊富にでき八方美人になりやすいとありますが、八方美人はその通りかと思えます。全体的に穏便に済ませたいほうです。次に月柱の潜在的意識の「沐浴」のほうですが、これは○です。次々と新しいことに関心を持つのですが飽きっぽくて長続きしない、というのがあります。あと、年柱の感覚的意識の「養」、これも同じような感じですよ。

(講師) スラスラと回答できますね。こういった分析はご自分で今までやってこられたのですか。

(Kさん) はい、「星平会海プロ版ビジネスパック」を使って少しやってきました。成長度診断のところでもちょっとのぞいてみました。

(講師) そうですか、今まで言ったことを振り返ってみると、○が多いでしょ。○が多いということはどういうことか?

(Kさん) 成長している段階だと思います。成長しているので、このままぐんぐん悩まずに思いきり生きていけば、

なんか楽しい人生になりそうです。

(講師) そうですね。人によっては、×ばかりの人もいるんです。そういう人はどのように見たらいいでしょうか？

(Kさん) そういう人は、今の自分の環境が命式を生かしていないので、環境を変えるか、考え方を変えるかしたほうがいいのではないかと思います。考え方を変えれば運勢が変わるはずだと本で理解しました。

(講師) その通りですね。重要な部分が理解できています。分かりやすく言うと、○が多いと魂が生きている人なんです。×が多いと魂が死んでいる人。実際、楽しくない人生ですから。楽しいか楽しくないかという判断でみたほうがいいかもしれない。楽しく生きていますよと言う人は、○が多いんです。楽しく生きていない人は×が多い。いやな仕事を長年やっていると、×が多くなります。私が人事で社長の代わりに社員を診断する場合は、そこだけ見えています。生きていますか死んでいますかだけです。能力あるかないか、なんて二の次で、まずは生きていますか死んでいるかです。四十才ぐらいになって社会や会社に不満を持っている人は、魂が死んでいるやっぱっかりだからね。不満がありながらも給与ももらっているなんてずるいやつです。じゃあ、これがものすごく進化して、全部○になってしまいました。その後はどうしますか？

(Kさん) その後は命式を越えた進化、自分にはない要素とかも身につけていけると言う感じですか。

(講師) 肝心なところが、頭に入っていますね。すごくいいですよ。当たる当たらないで言うと、今、この命式を一生懸命使っていますよね。で、使いきりました。楽しく全部使い切りました。じゃあ、次はこれやってみようというのがやってきます。こうなると持って生まれた運以上のものがやってきます。一億円以上入ってきますね。神様からのプレゼントです。もって生まれたものを使うとこのぐらいは入ってきます。これを越えると

十億円。そういうレベルです。生活するお金がないという人は、自分のもって生まれたものを何も使っていないということですよ。せめてもって生まれたものを使ったらどうなの？と言うのが結論なのです。斉藤一人さんという人ご存知ですか？長者番付十年間連続して十位以内に入り続けている銀座の漢方薬局を経営している人です。この方は、おそらく命式を越えている人ですね。すべての要素を持っているんです。だから、どんな人でも話しが合わせられる。彼の口癖は、「そうだね。わかるよ。」です。こういう話しをした理由は、実はKさんの場合、ちよつと命式に片寄りがあるのです。通変星というと、比劫、食神、財星、官星、印星まで五種類あるなかで、偏印が二つあって、正官が一つですね。天干だけみるとですが、片寄っているんです。この偏りの中でも、これを生かせば一億円は儲かるのです。ところがもって生まれてない通変星があるのですが、こちらを後天的にもし身につけていくことが出来れば、全部発動しますから、ぐるっと通変星の輪の全体がまわって無限に回転することができなのです。つまり無限にお金とか運が入ってくるんです。本当の意味での最終的な開運というのは、**通変星の全部が発動すること**なんです。全部発動させて無限にまわす。通変星とは何だと本には書いてありましたが？

(Kさん) 通変星とは、・・・よく覚えてないです。

(講師) あらっ、ここは外しましたね。通変星とは、価値観です。それをいいものと感じる価値観が通変星です。いいものと感じる価値観が通変星で、その価値観が印星と官星に集中しているんです。つまりこれ以外の価値観には、いいと感じることができにくいはずなのです。楽しんで稼ぐ、楽しく稼ぐ、これは印星の特徴だからいいでしょう。ところが印星のない人は、苦勞しなければ儲からないはずだ、という価値観しか持っていないんです。楽しんで稼ぐなんて罪な発想だとなってしまう。持って生まれた通変星を発動させるだけで、一億円くらいは儲け

ることができると。たとえば、財星というのは、強烈な支配力ですから、支配することがいいという価値観です。官星というのは、上司に従う、目上に従うことに価値を見出す星ですね。比肩、劫財というのは、競争です。他人と競争して勝つという価値観。食傷というのは、でしゃばりの価値観、やらなくてもいい事をやる、これらすべての価値観を自分の中に植えつけて、すべてを肯定的にとらえてしまう。全肯定するのです。全肯定の気持ちが出来上がると敵がいなくなっちゃうんです。どんな人でも、うん、それはそうだと、確かにそれもおっけーだと思ふ。宝くじで一億円当たって楽しく暮らしている、それもいいんじゃないのとなるんです。立派な上司について、生涯一課長としてサラリーマンとして頑張った、それもいいんじゃないの。ビルゲイツみたいに市場を独占支配して、ウインドウズなしではパソコン動かないようにさせてしまう。そういうビジネスもいいでしょうと、全部を認める価値観が自分の中に出てくると、何でもできるようになるんです。全肯定ができれば、だいたいもう開運以上の開運ですよ。無敵の人生になります。

同じ発想で、Kさんの十干、十二支を五行で置き換えてみましょう。木火土金水でいうと、甲が木、辛が金、壬が水、これに関しては生まれつき持っているものでこれをどんどん発動させていけばいいわけですが、ないのが火と土なので、ここは後天的に身につけていくんです。すると周遊していきます。開運以上の開運です。十二運星もそうですね、「運命学大全」の百七十一ページの図で覚えていけばいいのですが、一番下に、胎があり一番上に帝旺という十二運星がありますね。沐浴があり、死があり、十二個ならんでいるのですが、この並びには意味がありまして、胎で宿って、大きくなって帝旺で頂点に達して、ここから衰退していくというエネルギーの勢いですね。胎から帝旺までは、上昇気流ですね、どんどん成長していきます。最盛期を過ぎて落ち着いて、だんだん枯れていったまたあの世に戻るといって、落ち着きのサイクルが帝旺から絶までですね。養、沐浴が多いので

左の付近で結構固まっていますね。足りない部分は後天的に身につけていくということになります。では、不足している部分は、どうやって後天的に習得していきますか？

(Kさん) 人生経験を積む。具体的には自分に足りないものを持つている人と積極的に交流して価値観を理解すると思います。

(講師) いいですね、その通りです。勉強したってだめなんです。人から学ぶ(真似る)しかないんですよ。恋愛も修行ですよ。じゃあ、自分のもっていない価値観の人とは、相性はいいでしょうか？

(Kさん) 価値観が違ってもお互いに補えればいい、というように書いてあったと思います。確かにそうだなと思います。

(講師) それでは、「食傷」のお化けのような口うるさい女性がきました、相性がいいでしょうか？

(Kさん) 私は、細かい部分に疎い点があるので、そういった細かい部分を補ってくれればいいと思いますし、奉仕など自己表現を中心とした価値観を持っていますから、そういうところが今の自分とはマッチしていると思います。人によって違うかもしれませんが、「食傷」の命式が強く出ている人は、私と合うかもしれないです。

(講師) じゃあ、一緒に暮らしたとしてケンカをするか、ケンカをしないか。

(Kさん) 細かい部分を、毎日毎日チクチクと指摘され続けると、一つ屋根の下だとちょっと気がめいっちゃうかもしれないです。

(講師) そうですね、価値観が全然違うとケンカになります。オレはいいと思うけど、相手の女の人はいいと思わない。それが毎日毎日、ずっと続くわけですよ、それって相性がいいですか悪いですか？何から何まで価値観が違う、生活の価値観のすべてが違うんです。例えば家を買うとなったとき、俺はこっち、私はこっち、家具を

買う、俺はこっち、私はこっち。今日の晩御飯のメニューも全部違う。それを相性いいとか悪いとかか。(Kさん) 普通に考えると悪いと思うのですが、お互いが歩み寄り寄り気持ちはあつて、半分相手の言い分も認めるから、半分はこっちの言い分も認めてという風にやってみれば、良くはなるのかなと思います。

(講師) 相性がいい悪いというのは、そういうことなんです。いいの？悪いの？という質問自体がおかしいのです。おそらく出会う女性で結婚までしちゃう女性は、そういう面で言うと、嫌なことを平気でやる相手なんです。この関係は一緒にいてケンカをするかしないかというところ、ケンカをする関係なんです。長い目で見ると、朝起きた瞬間からなんでそうなの？と言いたくなってしまうんです。相性の悪い女性と結婚すると思ったほうがいいです。四柱推命の干合する相性の法則は、実は理解できない性格の相手とは相性が良いという不思議なことを言っているということは前に説明したでしょう。理解不能の女性と結婚してしまうと思つたほうがいいです。その違いを楽しむということですね。相手を変えようとしなくていいです。変えられるのは自分だけです。それをそのまま認めるといふ風になるといいのです。結婚しないと相手の性格なんて分かりませんよ。同じ家に五年間は暮らさないよ。子供ができると、女性はかなり変わりますし。独身の間の交際期間に分かることなんて数パーセントですよ。では、同じ価値観をもつた相手とは相性がいいですか？

(Kさん) 価値観が同じなので、楽しく過ごせるところもありません。欠点も同じなのでフォローしてくれる人がいないので、第三者がフォローしてくれないと厳しいところもあるかなと思います。

(講師) そうですね。そういう思考で通変星も見る。十二運星も見る。十干も見ます。そうすると、違いをあえて楽しもうか、楽しめないかなという観点から、自分に合った相性の法則を自由に作っていいのです。あえて方程式で自分の足りないところの星を無理やり持つてきて、組み合わせないといけないという発想もだめなんです。

むしろ商売を最初にやる時は同じ価値観を持った人じゃないとうまくいきません。通変星の違う人が最初からペアを組んでも商売は軌道にのらないです。ただし、人が増えて組織が大きくなってくると価値観の違う相手は絶対に必要です。

受講生Kさんのホロスコープ

(講師) それでは次に、Kさんのホロスコープを見てどのぐらいチャート図が発動しているかを見ていきますね。ソフトは星平会海プロ版ビジネスバックを使います。まず太陽が「射手座」にありますね。そして、星が結構集中しているのが「やぎ座」ですね。そして、星の作用としては木星と海王星と冥王星が強い。作用していない星が水星ですね。木星のアスペクトが三個、太陽のアスペクトも三個、そして水星はアスペクトなしですね。これらがどのぐらい発動しているのかというのを、「運命学大全」の三百二十二ページから見えていきましよう。

(Kさん) 「射手座」ですが、これは×に近い○です。他人からの干渉を嫌い、自由と独立を求めて積極果敢にやっけていくところはあります。しかし、食うとか寝るとか動物的欲求に近いものがあります。そして、すぐに飽きてしまい、別なものを追いかけていく飽きっぽいところがあるんです。「やぎ座」の未成熟のところに、生活が単調で面白みがないと書いてありますが、その通りだと自分で思っていますので×ですね。木星は、○です。哲学的思考、宗教的思考ができ真理を求めていくのが好きです。海王星は、×に近い○です。正確に言うと、○がいったん×になって最近また○になったというところで、小さい頃など世界人類の平和のために祈っていたところがありまして、でも成長していくうちに世の中の汚い部分も見てきてちよつと絶望したところがあったので、

その頃×のほうに傾いて、最近は人類全体で考えると良い方向に向かっていると考えるようになって○になってきたという感じですよ。冥王星は、○ですよ、今までの古い体制を破壊して革新したいという意欲はすごいあるのですが、実行力が伴わないところがあるかなという感じですよ。水星は、作用ほとんどないんですよ。最先端の情報や世の中の動きの変化に鈍感なところがあり、自分の興味のあることしか意識が行かないところがあるので水星は作用なしという感じですよ。ただ、水星の◎のところを書いてある、色々なものに挑戦して、さんざん葛藤したあぐくの果て、芸術的で調和された感性を勝ち取るとありますが、そういうところは自分にも結構あるなと思います。いろいろなことに挑戦して、自分の中に葛藤をたくさん抱えて、さんざんやるといった感じですよ。

(講師) はい、わかりました。それでは発想の幅をもう一段広げますよ。飽きる、目移りするという言葉が頻繁に出てきましたね。四柱推命にも同じ星がありましたね。何でした？

(Kさん) 通変星の「偏印」？

(講師) 違います。

(Kさん) もしかして十二運星の「沐浴」ですか。

(講師) そうですよ。そのように統合していくのです。飽きる、目移りするという言葉は、四柱推命の「沐浴」と同じだと考えて、自分の特徴だととらえるのです。それでは、木星の哲学的志向というのは、四柱推命で言うところですか？

(Kさん) 「甲」ですよ。

(講師) そうですね。共通しているのが、Kさんの大きな特徴だととらえられますね。絶望したり希望的になったりという変化が大きいようですがこれは？

(Kさん) 「海王星」ですよ、これは四柱推命で言うと、「沐浴」ですか？

(講師) 「沐浴」かもしれないし、「偏印」かもしれないですね。破壊とか革新などは、四柱推命で言うと？

(Kさん) 「偏印」？違いますか。そうですね、新しいアイディアまでは浮かびますが、破壊とか革新となると、ちょっとですね。「沐浴」は？挑戦、非定着、多角型とありますが・・・ちよつと強さがないですね。強さがあるのは「壬」ですか？

(Kさん) そうですね。このように、最初は星をバラバラに分解して学習してきたわけですよ。これを要素分解法というのですよ。全部の星を出してきてバラバラに意味を並べていって、学習するというのが要素に分解する方法です。その後にはホロスコープを出してきて、共通点を探すという学習をしましたね。これを要素還元法といいます。バラバラに星を出してバラバラに勉強して、後から同じものを探して串刺しにするというのが、要素還元法という勉強法です。バラバラにして串刺しにする。そういった中で同・じ・も・のを探すという思考パターンができてくると脳が整理されてくるのです。ホロスコープは当たるのですか、四柱推命は当たるのですか、という質問がなくなるのです。どれが当たるんですかという質問がなくなって、自分の中で統合していくのです。それが星平会海なのです。

(Kさん) 同じ本質を探していくということですね。

(講師) そうですね。同じものを探すのです。違うものを探すというのは左脳です。Kさんは、「やぎ座」がまだ発動していないので、これから「やぎ座」のことが何かあるのでしょうか。こんな思考の延長で次に、紫微斗数推命をやっていきます。

受講生Kさんの紫微斗数推命の命盤

(講師) 官禄宮に「天相星」が入っていますが、素直に上の言うこと聞きますか？

(Kさん) はい、あまり逆らうようなことししないでね。これは上司が、ちょっと間違っているな、という時でも遠まわしに恐る恐る気づいてください、という感じですよ。

(講師) 命盤の通り、目上に素直ですね。じゃあ、夫妻宮に「廉貞星・破軍星」が入っているのはどう理解しますか？
(Kさん) はい、こちらのほうも命盤の通りで、やっぱり強い女性を見ると惹かれてしまいます。個性があつて危ない感じの女性を見ると、容姿とか関係なく、すごく惹かれてしまうのがありますね。「スピリチュアル紫微斗数推命」に書いてあるとおりです。もう一つの解釈でいくと、恋人とかに対しては強く当たってしまうとなりませんが、これは、私の場合は、女性に強く当たるといよりは、自分の中で心が破滅的に荒れちゃうんですね。一度恋愛にはまるとそのことしか考えられなくなって、仕事がおろそかになったりとか、自分の中でマイナスの感情がすごく出てくるんです。嫉妬とか憎しみとか妬みとかですね。命宮に「天府星」が入っているせいかな、私はよく人からやさしいとか言われるのですが、恋愛に関しては、あの子と一緒にいられるんだったら、道德なんてカンケネー、駆け落ちしてもいいか思ってしまうんです。また、普段は人に対してあまり憎いとか抱かない感じなんですけど、男が好きな女の子に近づくと、あの子に近づきやがって、とかそんな感じに自分でも驚くくらい激しくなってしまうんです。そういう意味で、破れかぶれの「破軍星」が出てきてしまうのかなという気がしますね。あとは、相手の女性に対しても、意地悪と言うほどではないのですが、ちょっと相手の気持ちを確かめた

くて試すようなことをしちゃったりもしますね。

(講師) 試すね、相手を試す。もうちょっとそのあたりを詳しくお願いします。

(Kさん) 女性に対して、他の女性の事を褒めるのはタブーのことじゃないですか。それなのに、A子さんはあなたと違つてちょっとやさしいなとか、そういう感じで言っちゃったことがあります。自分でもなんでもなんなことしちゃったんだろうって思ったりしたんですが、相手の本音が気になつて試すようなことをしてしまいました。

(講師) 「廉貞星・破軍星」が充分に出ていると思いますよ。人妻とか好きになつたことはありますか？

(Kさん) 無いです。それは無いです。でも、もしかしたら…。

(講師) 好きになつたのは職場の女性ですか。年上、年下？

(Kさん) 同い年なんですけど、結構落ち着いたと言うか大人びた感じの女性です。宿曜経で相手をみると「贅宿」なので、大人びた感じだなということと、弁舌巧みで人をズバズバ言うところがあつて、かなり傷つけられましたね。その女性は、彼氏いたんですけど、彼氏いるの分かつて告白しました。向こうも私の方に気があつたんだなという感じだったので、私のほうが結構抜けていることが多くて、告白した時が相手がプライベートルでもいろいろあつたりとか、仕事も忙しかったりで情緒不安定な状態だったんです。そんな中で告白したりして、私もずれたところがあるんで、ずれたことかやっちゃったのかな、っていうのがあつて、知らず知らずのうちに相手を傷つけるようなこともしてしまつて、それが振られた原因かなと思います。

(講師) あれっなんか歯切れが悪いですね。ごまかしている感じ。振られたつて言うのは、何回も確認した？

(Kさん) いえ、一回だけ告白して、返事待ちの期間があつたんですが、そのときお互いに情緒不安定な状態になつ

てしまいました。仕事なんかも忙しくて、そんなときに衝突しちゃいました。向こうも私のしがらみから解放されたいのかなって思ったのか、「ごめん君とは付き合えない」って言われてしまいました。振られるのは慣れているけど、振るのは苦手ってちょっと悲しそうな顔していました。それ以来、告白したことに関しては、お互い触れないのが暗黙の了解みたいな感じになりましたね。

(講師) やっぱ、なんか歯切れが悪い。「廉貞星・破軍星」らしくないのが最後にでてきましたね。「廉貞星・破軍星」はそんな簡単にあきらめちゃいけないですよ。しつこく、何度もアプローチしてみるとか。

(Kさん) 実は振られた時、まだチャンスはあるんじゃないかなって思いました。モーションをかけるようなことは実はやっていますね。ただ、その女性は職場で同じチームの人なのですが、十二月末には現場から離れてしまうので、ああ、とうとう、終わりか、これ以上モーションかけても、あちらに迷惑かかるとなってしまう。(講師) まずは歯切れが悪い。結局、何もしていないでしょう。迷惑だっていわれるまでやったほうがいいよ。それが「廉貞星・破軍星」だから。

(Kさん) 女性のほうは、もう迷惑だつていう仕草が、多少なりともできています。

(講師) だんだん逃げまくっている気持ちがありましたね。傷つきたくない、恥をかきたくないだけのようです。迷惑だつてはつきり言われるまで、確認するまでやったほうがいい。中途半端で終わるとずっとくすぶるからね。男がこのように判断したと思っても、意外と女性はえ？そんな風に判断していたの？っていうのが多いんですよ。そのぐらい男は、女の人の気持ちというのは読めないですから。確認したほうがいい。迷惑だつて反応しているように私は判断したんだけど、それが正しい判断ですか？って聞けばいい。確かに迷惑です、って言われれば、分かりましたって言えばいいでしょう。えっ、そんな風に思ってるの？っていう風になるかもわから

ない、女の人の心は分からないですよ。

(Kさん) ただ、相手は、もしかしたらこつそり結婚している可能性がありますね。今まで右手の薬指に指輪をつけていたんですが、それが左手にかわっていたので、あれ？もしかして結婚しちゃったのかなって。

(講師) そら、逃げている。ハッキリするのを怖がっているでしょう。だから、そういうのを聞いてみるのよ。

(Kさん) ああ…そこでちよつと足踏みしちゃいますね。

(講師) 傷つきたくないだけでしょ。それが「廉貞星・破軍星」らしくない。どんどんどんどん空想と妄想が大きくなっていくわけでしょ。それは通変星の「偏印」の悪い癖ですよ。ありもしないことをどんどん空想を膨らませて悩むのは、「偏印」の悪い癖ですね、事実を確認しなきゃいけないですよ。

(Kさん) 一度だけ、プライベートなことにクビを突っ込むみたいだけど、結婚するの？って聞いたたら、相手は全然本心とかそういうのを見せないタイプなんで、するとも言わないし、しないともしないのです。いつも本心を知られようとしまいと、曖昧で、どうとでも取れるような答えを返してくるので、ああ頭いいなという感じですね。本心を探ろうとしたりすると、かなりの勢いで切れますね。だから、本心をつかむのが難しいな、っていうのがありますね。

(講師) こちらが正直に教えて欲しいと言って、それではぐらかすようだったらもう切った方がいいですよ。それって嘘つきでしょ。嘘つきはだめよ。嘘つきな女と付き合うと運下がるよ。嘘つきは悪霊だよ。正体見せずに、男心を揺さぶって楽しむのが女の悪霊だよ。もしね、Kさんが真剣な気持ちで、結婚しているのかどうかって相手に対して聞くでしょう。それをもし相手がごまかすようだったら、相手は偽善者だからね。真剣な言葉に対して、偽りの適当な返事が返ってくるようなら、こんな女とつきあっていると必ず運を下げますよ。

(Kさん) 自分的には、好きなんだけどもし仮に付き合えたとしても、ポロポロになるなって自分でも自覚があるんで、そういう意味で、こちら辺で荒波を立てずにはなれたほうがいいなって気持ちが強くなります。

(講師) そういうのもだめ。勝手に自分で未来を予知して決めつける思考でしょ。これも「偏印」の悪い癖。ありもしない未来を勝手に作っているんだから。これ傲慢なんですよ。何も行動していないのに妄想している。ここが多くの人がはまる罠。今の言葉の最後に、ポロポロになるのがイヤ、傷つくのがイヤ、ってあったでしょ。つまり、現実から逃げるわけでしょう。この逃げるっていう気持ちがある限り開運しないんです。逃げるというのは偽りだから。正直じゃないんですよ。いいじゃない傷ついたって。一生永遠に傷つかないで人生を終えることができると思う？ 思わないでしょ。六十歳になって恋愛に燃えて傷つくのと今のうちに経験して傷ついて賢くなるのとどっちがいい？

(Kさん) 今のほうがいいです。

(講師) まだ若いんだから、今だったら何回でもリカバリーできるじゃない。六十才になって、もし嫉妬に狂って女に狂ったら、自分のすべての人生それでおしまいよ。中国唐朝の第6代皇帝玄宗(げんそう)は、善政で唐の絶頂期を演出しましたが、後半は楊貴妃を寵愛したことで安史の乱の原因を作ったでしょう。年とって女性に狂うと国を滅ぼすくらい危ないんですよ。コントロールできないんだから、学習してないんだから若い時に今、学習しておけば四十才になったとき、経験からつくられた直観がでてくるからね。これは逃げじゃないから。直観は直接に未来が見えるんだから。直観と逃げは違うからね。直接、未来が観えるという直観が働くんだから。経験からくる直観だね。なるべく若い時に、そういう人間関係の傷つけあいはいしたほうがいいんですよ。それが経験となって、やがて直観が変わるから。こっちにしようか、あっちにしようかという悩みがあるうちはだめな

の。迷いがなくて、スーッとこっちに行こうという状態にならないとだめなんです。こちらに行ったら傷つくから、あっちに行ったら傷つかないから、と言ってあっちに決めるっていうのは、だめなですよ。迷いが一切無くて、スーッと道を選択できるのが、本当の中庸の道なんです。中庸の道というのはそういうことで、まったく迷いが無くて真ん中の道を歩くということです。迷った時点でもうだめなんです。相手も傷つかない、自分も傷つかない、一生懸命迷って迷って考えて、このへんだったらいいかなというのは中庸とは言わないんです。単なる逃げ。「廉貞星・破軍星」を明らかに殺していますね。相手に旦那がいようとね、結婚しようとなね、奪ってくるぐらいで当たり前の星なんです。それで裁判になるんだったら裁判になってもいいんです。牢屋に入るのなら牢屋に入ってもいいんですよ。そのぐらいの星なんです。それやって当然ぐらいの気持ちでない。それを抑制しようとする、永遠に我慢しないといけなくなっちゃう。我慢はいけない。自分勝手な我の慢性病が我慢ですから。これから死ぬまで、ずーっと抑えないといけない。死ぬまでですよ。死んでからあの世にいても我慢しないといけないから、またおぎゃーっと生まれてくる。ところが、一旦やっておくとね、一旦ことんまでやっておくと、迷いがなくなるんですよ。身体全体で分かってくる。そうするともう迷いがなくてスーッと行ける。心に葛藤がない。ごまかして逃げると葛藤があるでしょ。葛藤がある人だめなのよ。ストレスがたまってきたら、やがて爆発するから。葛藤がなくなるまでやればいいのよ。

今の時代は、世間体とか常識とかそういうもので縛られているから、逃げる人ばかりで、どんどんストレスがたまって、どんどん癌が増えてるでしょ。現代病というのはそういうものだから。ストレスだからね。自分でストレス作って、自分で病気づくって、自分で早く死んでいる。おそらくこれからの時代は、がらっと価値観が変わるから。そういう常識とか、今までの世間体とか、がらっと変わるから。そういうもので自分を縛ると時代

の波にも乗れずに失敗する。まして若いんだから。あなたが四十才過ぎていたらこんなこと言わないよ。

※聞けば分かることをを悩むと運が下がる

さて、Kさんは、翌日にはその女性に結婚しているのかどうかを聞いたようです。結果は結婚したと答えが返ってきて、スキツとしたそうです。好きな女性が結婚しているかどうか、聞けば分かることを考えたり、悩むと運がどんどんと下がってきます。聞けば分かることを、恥ずかしいと思つて聞かないで悩むと運が下がるのです。恥をかいたほうがいいのです。その分賢くなつていくのですから。また、絶対に分からないことを考えて悩んでも運がどんどんと下がっていきます。たとえば、買った株が来年上がるのか下がるのか？を悩むと運が下がります。上がつて欲しいという欲求はあるけれど、下がるかもしれないという恐怖心にとりつかれるからです。その結果、政治が悪い、アメリカが悪いというふうに、他人への文句や不満にその恐怖は形を変えていくからです。

(講師) 紫微斗数推命のほうに戻っていきますね。Kさんの遷移宮の「紫微星と七殺星」は？

(Kさん) これは、人に対する表現というか、自己アピールですから、「紫微星」のところに高貴つて書いてあるんですけど、このところは、結構カッコつけマンなどところがありまして、そういうところがあるのでていかなというのがあります。「七殺星」の非常に権力的で、自己の主張を押し通すためには手段を選ばない強い星とありますが、これはほとんど出てないかなと思います。ただ、よっぽど親しい友達には、ちよつと我侬が出る時があります。

(講師) じゃあ、ちよつと四柱推命と共通点を探してみましようか。目上に素直、これは四柱推命で言うとは何でしょ

う。

(Kさん) 官屋です。

(講師) そうですね。優しいというのは、四柱推命で出ていますか？

(Kさん) 四柱推命だと、あまり見当たらないです。

(講師) そうですね。見当たらないでしょ。ないんですよ。紫微斗数推命は月の影響だから、月の影響で見ると自分は優しいと思ってる。でも太陽の影響で見ると、優しい部分はそんなにありません。どっちも正しいんですよ。紫微斗数推命のいいところは、すべてのキツイ星、すべての優しい星がどこかにでるからね。どこかに出るから、あなた優しい人、キツイ人っていうような判断じゃないんですよ。何に対して優しいのか、何に対してキツイのかということです。両面を持っています。Kさんの「天府星」は、命宮にあるから、自分自身の何かに対して優しいはずなんです。でも、今聞いてわかったことは、異性に対してはかなりキツイということです。もしかしたら自分を甘やかすと言うことかもしれないです。優しいのではなくて、本当は自分に対して甘いだけ、ってことかもしれない。

この組み合わせはね、「スピリチュアル紫微斗数推命」の作者である紅竜さんと同じなんです。で、スピリチュアル紫微斗数推命の「はじめに」のところ、夫に対して冷酷とかキツイとかさきぎ書いてあったでしょ。あれ私が書いたんです。本人書くの嫌がったから。そうじゃないって言うから。しかし、私の目から見ると。異性を試して反応を見る、反応をみるための質問をする、こういうのがあって、結構キツイのだけど、本人はそうじゃないって言うからね。本人が文章書かないから、私が書いたんですよ。

(Kさん) 私の場合、好きになった人を優しくしたいと思うんですけど、もしかしたらその優しさが策略なのかなっ

ていうのも、今思うと考えられるかもしれないです。

一夫一妻制というシステムでは誰が得をするか？

(講師) Kさんは常識に束縛されるから、ちよつと常識を踏み外すために質問をしますね。一人の男に一人の女がつくという一夫一妻制は、実は男にとつて非常にメリットのある制度なんです。その理由を考えてみてください。本なんか見たつて答えは書いてないよ。Aさん、Bさん、Cさん、Dさんという男がいて、やつぱりaさん、bさん、cさん、dさんという女性がいて、本当に一夫一妻制でペアを組んで子供を産むということだけが、果たしているのかどうか、男にとつて都合のいいシステムなのではないだろうか、ちよつと考えてみてください。

(Kさん) 自分がもし沢山妻を持つたらどうなるかなと設定したんですけど、かなり大変ですね。管理自体大変なんですけど、平等に接していかないと、複数の女性に、そうしないと何であなただけ夫のほうから寵愛を受けてるのなんて感じで、女同士の嫉妬というか、女つて集団になると怖いじゃないですか。絶対喧嘩になつて家中が荒れたりとかして、まずそういう面では家庭の維持が大変かなと思いました。あともう一つが、もし自分が沢山妻とか持つてると、自分がAさんだとして、他の男性から妬まれますよね。他の男性が結婚できないんで、子孫を残せない男性が増えるんじゃないかと思いました。

(講師) 男の立場から見た発想よね。じゃあ、女の立場から見た発想は？

(Kさん) 女性の立場から見ると、妻の私一人だけだったら、夫の財産私一人で占有できるのにとつて嫉妬心ですか。何であの子だけ優遇されているのよ、気に入らないわ、他の子と組んであの子つぶしちゃおう。女性も女性で気が気じゃないですね、こう考えると。

(講師) ちよつとずれたかな。純粹に鹿とかね、北海道にいるエゾ鹿なんかの事例をとってみると、一夫一妻制ではなくて、一夫多妻制なんですよ。強いオスしか結婚できない。これ動物界の自然な状況なんですけど、そういうのと比べて、人間世界はどうか。自然になっちゃうのよ、一夫多妻制に。なんでそうなっちゃうか。

(Kさん) 強い遺伝子を残すために、沢山残すために、強いオスがメスを沢山連れて行くっていうのもありかな。子供を産ませるために。世間一般で問題発言とされるようなことをいっばい言っているかも知れませんが。

(Kさん) 女の立場から見るとね、強い遺伝子残したいのは本能でしょう。神が授けた本能だから。病弱な子供、頭の悪い子供産んでどうするの、大変じゃないの。健康で強くて頭のいい子を産みたいというのが女の本能です。この本能は神から授かった一番の天性だから。それは大事にしくちやいけないうしよ。みんながみんな、この人の遺伝子が欲しいと思つて当然でしょう。そうすると、男の多くは、結婚できない。これ、男にとつて不利でしょう。不利だからこういうシステムは良くないつてことで、一人の男は一人の女と結婚するというシステムを作り上げたんです。もてない男にとつて、非常に有利なシステムなんです。ところが今から千五百年前の卑弥呼の時代、卑弥呼の時代の遺跡をみると、そうじゃないんですよ。今の時代の発想は男中心の発想でしょう。卑弥呼の時代は違うの、女王だから、女のほうが偉い。女がすべての政治、経済、システムを握っているのよ。男はね、奴隷みたいなもんで、女に飼われている。女性が、政治経済をみんな司つて、男どもは、女から飼育されていたんです。飼育。こういう遺跡残っているんだから本当に。で、女どもが、今日はちよつと発情期なの、今日はセックスしたらいい子供が生まれるの、つて言うのが直観で分かると、どれにしようかなつてね。この男だったらいい子供ができる。上がつていらっしやいよーつて。ああそうですかつて男は女の相手をする。女性が男を選ぶ時代。女性のbさんも、cさんが選んだ人も、男性のAさんだった。こういう仕組みが合ったんですよ、昔はこれ

が常識だった。世間という常識だったんです。世間で言う常識とか倫理観なんていうのは、千年も経つと全然違うんですよ。後は能無しの男どもはチンチンいらないうってことよ。黙って農作業して働けってことよ。それしか能力ないんだろって、食わしてやるだけ食わしてやるよって。それと似た時代が多分もうすぐ来ますよ。卑弥呼の時代はすごく日本も発展した時代です。今までの日本の歴史の中で一番発展して戦争がなくて平和が続いたのは卑弥呼の時代だからね。女性がすべての政治・経済・官僚の実権を握っていたんですよ。女性は平和主義だからね。ところが卑弥呼の時代が終わって、男の次代に変わるでしょ。男は権力、金力でしょ。戦争も好きでしょ。だから今のような時代になっているんですよ。そろそろ権力はもういいや、と言うように日本人全体が思っているでしょう。沢山のお金持ったとしてもホリエモンじゃだめよって。軽蔑されるでしょ。権力、それだって何かあると途中でほっぽり出してやめるような総理大臣だめよって。命かけて国を何とかしようと言う総理大臣いないの？って感じてしょう。今までの権力なんてくそ食らえ、権力なんて価値がないってみんな思っているでしょ。ということは、これ男が築いてきた価値観が崩壊し新しい価値観に転換しつつあるんですよ。お金があるのが偉いんじゃない、権力があるのが偉いんじゃない、学歴、東大でればいいんじゃないっていうふうに変わりつつある。そうすると、おそらく女性の価値観で社会が変わってくるから。今だってね、そういう兆候があります。そういう目で新聞とかテレビとか見ると、三十代の女性が結婚はしないけど、この男の精子が欲しいって言うでしょ。子供は欲しい。精子バンクにかかると、こういう男性の精子が欲しいと言う。で、妊娠して子供を産んで欲しい。同じでしょ。ろくでもない男の精子なんていらぬ。経済的な理由だけで結婚するなんていやだ。いい男はみんな結婚している。それでどうするか。いい男の精子だけちょうだいっていう発想でしょう。そういう女性が増えているってことは、女性の時代になりつつある。そうすると男たちは、女性から選ばれる男にならんといかん

よ。でしょ。女が男選びをする。役に立たない男は価値がないという風になるかもしれないですよ。社会全体の仕組みが変わるかもしれない。経済的に女性が自立できると言う仕組みが出来上がりつつあります。だから無理して結婚もする必要ないでしょ。無理して嫌な夫と暮らす必要もないでしょ。本当に楽しい友達だけと一緒にいればいいんだから。そういう男の遺伝子がほしい。その人がたとえ妻と子供がいたとしても、精子ちょうだいという時代が来るかもわからない。普通の男の遺伝子はいらないよって。あなたの遺伝子だったら欲しいの、という風に思っただけだからね。Kさんの遺伝子、欲しいって思う人いますか？

(Kさん) う〜ん、いたかもしれないですね。ところで、相性について質問があります。木火土金水の生剋の関係なのですが、水と火は合わないというようなことってあるのでしょうか？

(講師) 恋愛の力関係は、五行の生剋をそのまま適用しても使えるみたいです。これは、私の経験上の意見です。でもね、それは男からみた内容で、相手の女性に聞くとそうじゃないと言いかもわからないですよ。誰が言うかによって全然答えが違ってくるんですよ。私の例で言えば、私は「水」でしょう。五行でいうと「土が水を剋す」んですね。「水」の負けなんです。「土」の勝ちなんです。私が男でしょ。女性が「土」だとすると、女性の勝ちなんです。女性の尻の下に敷かれるということです。これが正しいかどうか？というのと、私は経験上、正しいと思う。そのとおりだというふうには思っています。でもね、それを「土」の女性に言うでしょ。「あなた見事に私をコントロールしているね」ってね。そしたら、その女性は「違う」って言うんです。本人はなんて言うかというのと「私は、あなたを守っている」って言うんです。「土」であなたの「水」は暴走する「水」だから、大河の水でいつもいつも洪水になりそうだから、土の岸壁でもってそれをコントロールしている、守っている、って言うんです。これぐらいの人によって言い方が違うんで、あまり方程式がちがちに固めてしまうと、よくありませ

ん。私の奥さんは「火」なんで、五行で言うところ「水」が「火」を剋すでしょ。いわゆる私が支配しているんですよ。私は完璧にウチの奥さんを支配して自分の言うとおりやってよみたいな感じで、これまで生活してきているんです。それで、ウチの奥さんが何て言っているかと思いませんか？ ウチの奥さんが「火」で私の「水」が剋します。剋されているんですよ「火」が。

(Kさん) あまり干渉するな、という感じですか？

(講師) という風に、ロジックで言うところなんです。でも当たっていないんですよ。これね、ロジックで組み立てるとおかしくなるんですよ、相性というのはだいたいおかしくなります。ウチの奥さんは何て言っているかというところ、重要なことは全部あなたが決めて。それが楽だから。干渉してちょうだい積極的に。このように感情で相性というのは決まるのですが、感情の発生の仕方では全然違うんですよ。普通は剋すんだから、支配するんだから、支配されたほうは嫌でしょ。ロジックで言うところ。でも、支配されていいんですよ。楽だから。毎月ちゃんと生活費はくれるし、一年に二回ぐらい海外旅行は行こうって言うってくれるし、毎月子供をつれてあちこち遊びに連れて行ってってくれるし、そういう重要なイベントみんなあなたが決めてね。私は楽しく生活できればそれでいいの。と言っています。

(Kさん) 剋されると悪いというロジックがダメで、剋してもらっても嬉しい場合もあるって言うことですか。

(講師) そうです。なんでも方程式化する発想を捨てて、柔軟に思考して自分にあった考え方を習得してくださいね。

人生相談の事例（三十代後半の女性で困ったことがないという相談）

（天野） 当社のHPは結構厳しいことを書いているので、相談に見える方は希なんですよ。よく来られましたね。（Nさん） そうですね。厳しいとは感じました。ただ、私の場合、歩いていく道が定まらなくて何かヒントをいただければという思いできました。

（天野） 今までどういう風な人生を歩んできたのですか？

（Nさん） 自分史の年表を書きました。意外と行き当たりばったりで生きているな、という感じがしています。

（天野） 人生の年表をみると、スポーツを長年やってきたようですね。

（Nさん） はい。そのころは落ち込むということもなく、スポーツだけをやって何も考えずに生きていました。今は何もしていませんが。

（天野） あらっ浪人されたのですね。でも、おかげで一流大学に入れたようですね。卒業後、仕事はどうされました？

（Nさん） 一般の事務仕事を一年間やりました。その後は、派遣社員で今までやってきました。

（天野） 色々な派遣を経験されたみたいですが、今までやってきて一番楽しかった仕事はなんですか？

（Nさん） 接客の仕事でした。学校のような雰囲気があって、一番自分が年下というのもあって、目上の人にかわいがってもらいながら教えてもらったので。

（天野） 職場で嫌なことはありませんか？

(Nさん) 仕事の内容そのものは満足しています。しかし、人間関係で嫌なことがあります。ちょっと仲のいい人達とゴタゴタがありました。自分は仕事をやつと慣れてきている時期で、一生懸命やっていたのですが、私の部下に当たる人達が、上層部に文句を言ったらしく、上層部からなにかと嫌がらせを受けています。部下達の不満も理解できるけれど、私の立場では何もできないし、上層部の人には意見できる立場でもないし。

(天野) なんか、すつきりしないですね。思い切つて壁を破ろうとしたことはありますか？

(Nさん) みんな自分だけは悪くないという仮面をかぶっています。私も面倒を起こしたくないので、周囲の本当の気持ちは分からないのです。ただ、私が風邪で一週間休んで、休み明けで出勤したらがらつと変わつていたのです。私の知らないところで何かあったのだと思うのですが、それを探求する気力もありませんでした。私が、部下のある人を嫌いだから、わざとやりたくないことをやらせているというような噂があることを最近になって知りました。

(天野) 人間関係がすべて薄いという感じがしますが、今は、何でも話せる友人とかいらつしやいますか？

(Nさん) いないですね。

(天野) 独身ですか？今まで好きな人はいましたか？

(Nさん) 好きになつた人はいました。結婚にいたらなかつた理由は、彼が海外に住んでいるということと、定期的にもちょうど自分が仕事がおもしろくなつてきたときで、タイミングがあわなかつた感じですね。

(天野) ご自分の性格をどう分析していますか？

(Nさん) えっと、八方美人だと思います。いざこざをおこしたくない。だからいつもどつちつかずの中間を選んでいきます。周囲でトラブルがあつても傍観しているような感じの人間なのかなと思います。

(天野) ご自分で全てを分かってきているんですね。いざこざを極端に恐れていますね、人と距離を置きたいという理由はどこにあると思いますか？

(Nさん) 面倒に巻き込まれたくないというのと、何か一つのことにつっこんでしまおうと最後まで付き合ってしまうので、絶対付き合うぞという覚悟がない限りは下手に首をつっこまないほうがいいという感じですね。

(天野) やはり、全部分かっていてるんですね。他人とケンカしたり泣いたりという、感情をむき出しにしたことはありますか？

(Nさん) う〜ん、ないですね。

(天野) あなたは学校ではずつとお利口さんでした？

(Nさん) はい、先生からも親からも期待されていました。

(天野) 私にどんな答えを期待していますか？なにか魔法のようなことがあると期待していますか？

(Nさん) もう四十年間も生きてきて、誤った道を行っていきたくないと思いますが、どうも楽しくありません。それはどうしてなのかが分かりません。

(天野) それが答えなんですよ、全部自分で分かっている。あなたはですね、本気じゃないんですよ。本気出して生きてないのです。しつかり生きていないだけです。ご自分で言っているじゃないですが、八方美人でいざこざをおこしたくないって。子供の頃からそういう習慣があるわけですね。何かのきっかけでそういうったお利口さんの自分を演じなければならぬ、他人も傷つけない自分も傷つかないという人生になってしまったのです。減点されなければそれでいいという人生ですね。思いつきやってみて、傷ついてもいいじゃないですか。思いつき相手を傷つけてもいいじゃないですか。人間関係で、八方美人やいざこざをおこしたくないという考

え方が、最悪なのです。自分をダメにする人間関係なのです。何もしないことが最良の道ではないのですよ。何もしないことが最悪の道なんですよ。自分の感情と相手の感情がぶつかり合ってケンカしますね。相手を傷つけたり、相手から傷つけられたりする関係ですね。これは、まだいいのです。ウソがなく正直ですね。ウソがなければ、神はやがてあなたが分かる形で答えを教えてくださいます。しっかりと生きればしっかりと死ねますが、しっかりと生きないと、しっかりと死ねずに浮遊霊になってしまいますよ。

今の社会、特に東京の人間関係なんかはそうなのですが、傷つきたくないのごまかす、これは仮面ですね。こういう関係では一見うまくいっているように見えますが、両方とも偽物の心なので、悪霊がついてしまうのです。悪霊の本心というのはごまかしや嘘つきです。正直な心で生きると、ゴタゴタがあつたとしても、神が援助してくれます。しかし、自分の欲求を隠し、自分だけが得をしたい、自分はこんなにも不満がある、というのを隠して隠して隠し通すのが悪霊の本性なのです。善なる霊というのは、隠さないので、例えば男女関係でいきますと、あなたの肉体が欲しいのですがよろしいですか？と素直に言うのが、善なる霊。本当は肉体が欲しいのに、欲しくないふりをしてドライブに誘っていい気分させて、最後の最後まで欲求を隠してホテルに連れ込むのが悪なる霊。正直に俺のところ泊まっていけば、ダメか？ダメなら、別れるっていうぐらいの人のほうが善なんです。ウソがないのです。そういった欲望などを隠す部分に悪霊が取り憑いてくるのです。本当のことを言った方がいいのです。本当の人間関係をつくれるつきあい方をしたほうがいいのです。じゃないと、ウソの人生ですよ。あなたは言いましたね、面倒なことに関わり合いたくない、最後までつっこみたくない、責任持ちたくない、逃げて逃げて逃げまくって、自分を隠してきたウソの人生でしたね。親が子供に本当のことを言わなかった家庭環境だったのかも知れないですね。きれいな事ばかりだね。そうすると子供は影響受けますね。案外立派な家庭で

あればあるほど、そういうのが多いですよ。私はウソをつけないタイプなので、親に対して何を言っているか言いますと、親の面倒は絶対に見ないと宣言しています。冗談じゃない。あなた達は年金をもらえる世代、ハッピーな世代。しかし私たちの年代は、年金が崩壊したあとの世代です。何故、年金で楽々暮らしているジジババを年金のない世代が面倒見ないといけないのか、と言っているのです。あなた達が生きている間は、墓はつぶさないけれど、あなた達が死んだら墓もつぶすといっているのです。あなた達の墓があるということは、私の子供が墓を守らなければいけないんですよ。私には娘一人です。娘がどこにお嫁に行くか分からないのに、墓のそばにいて墓を守れというのか？それは、子供の人生を邪魔することになる。だから、あなた達が生きている間は墓はつぶさないでくれといので、そうしますが、死んだら覚悟しておいてくれよ、と言っているのです。その代わり財産はいらないよ。全部使って死んでいってくれ、と言っています。ジジババがお金を使えば、日本の経済も良くなるだろ。こんな本音を親と会話したことありますか？

(Nさん) ないです。

(天野) ちょっと、私の妹の事例を紹介しましょう。妹の子供がぐれてしまつて、妹に暴力ふるったりしているんです。子供というのは、ものすごく親を試しているんです。本気かどうかを。本気で心配してくれているのかどうかを。妹は腹が据わっていないので、ぐれるなら学校やめなさい、と口先では言っています。お母さんが働いてあなたの学費払っているのだから、嫌ならやめなさい、嫌ならここから出て行きなさい、と言っています。子供は親は本気でないことを見抜いています。子供は男の子でもう高校生ですから、力が強いんです。妹を殴るんです。で、妹が私に何とかしてくれと言ってくるので、私に全部任せるのか？その勇気あるのか？と言ったのです。そしたら妹は任せると言ったんです。じゃあ、おまえいっさい口出しするな、絶対に口出しするなよといっ

て、その日に妹のところに行つたのです。で、子供に言つたんですよ。学校嫌なんだから。わかつた、じゃあ退学届け書け。よし、今から校長の家に行くぞ、明日から、もうおまえは学校に行かなくいいぞ。と云つて車に乗つてエンジンかけた瞬間に「おじさんやめてちょうだい、学校行かせて」と言つたのです。子供は親の本気じゃない偽の愛情を見抜いているのです。もつと本気で俺にかかつてこいよと言うのを子供は要求しているのに、親は世間体とかそんなことばかりを気にしてぐちぐち言っているだけだと見抜いているのですね。本気出せば子供は素直になるのです。本気で接していないから子供はぐれるのです。人間関係も同じです。本心で接していないからおかしくなるのです。

(Nさん) 傷つきたくないというのは、卑怯なんですよ。姉は、高校生の頃、両親とけんかばかりしているのを見ていて、うらやましいと思つていました。

(天野) 今の会社の経営陣に対し文句があるでしょう。

(Nさん) はい、派遣先の仕事は気にいっていますが、派遣元の会社には文句があります。

(天野) 文句を言いましたか？

(Nさん) 二、三ヶ月前に言いました。全然顔見せないとか初歩的なことは言いましたが、何も改善されていません。

(天野) じゃあ、改善されない会社に、もう一回文句を言う気持ちがありますか？

(Nさん) あまりないですね。待つているような感じです。

(天野) 遠慮しがちに言っているからよくあるクレームだ、ぐらいにしかとられていないんですよ。今まで話しを聞いてきて、Nさんの思いはみんな正しい思いですよ。おかしい部分はありませんよ。でも、自分では納得で

きない人生だと思っけていますね。思っけたことを行動してないからだけです。正しい思っけは爆発させた方がいいです。派遣元の担当が煮え切らないのなら、経営者に直談判するとか、やっけてみるのです。その時に、結果を考えてはダメですよ。そういうところから何かが変わっけてきますから。ぶちまけるのです。あなたの言っけている内容は正しい内容なので、それをぶちまけないとその会社だっけていつまでたっけても改善しません。ぶちまけた方が、おそらく会社の経営者も、心にぐさっけてきて、本気で対応しようかと、変わっけていく可能性があるので。身の回りであなただが感っけていることを、何でもいいから本気で表現してみるんです。何でもいいんです。そこから運が変わっけてきますよ。これやっけたらどうなる、というこっけは、いっさい考えないこっけです。誰も未来は予知できないんですよ。正直な自分を押し出っけていけば運が変わります。Nさんの生年月日から占いの盤を見ても、ほとんど星が発動してないんですよ。たとえば、四柱推命でみると「甲」という星があるのですが、これは「私のこと馬鹿にしないでよ!」という感っけがもっけて出ていないといっけてません。紫微斗数推命でみると、リーダーシッパをとれる星があるので、起業したり、自営業やっけてみたり、が当たり前の星なんですよ。でも、まっけてくそういう雰囲気がないですね。つまり、星が生きていないんですね。当たるとか当たらないとかではなく、星が発動してないんです。

(Nさん) じゃあ、サラリーマンのように勤めるのはあまり向いていませんか？

(天野) どこかに勤めても、社長からかわいがられて引き立ててもらうとか、何か特別な仕事を任されるとか、そんなこっけがあっけてもおかしくない命式です。仕事がおそらく正確なはずですから、社長に気に入られて、いろいろ任されてもおかしくない、そんな星を持っけていますよ。心の奥から沸いてきた思っけというのは正しいのです。何もそれを抑える必要も他人の目を気にする必要もないのです。だから、おもいっけてりやっけてみる、これだけな

んですよ。私が見る限り、Nさんの心から沸いてきた思いには間違いはありませんよ。そこに濁りはないです。(Nさん) 本心をごまかしていたんですね。当たり障りなくやってきた人生という感じですよ。分かりました。とにかく自分の思いとか素直に出していくことから始めれば、変化がありますね。

* 人生相談のほとんどが、何も困ったことはないという相談

さて、占いを一応使っていますが、最近の人生相談は占いは最後の数分だけしか使いません。周囲と違うことを認めない学校教育で教育された世代の相談は、ほとんどがこんな感じですよ。困ったことが実は何もないという相談なのです。何もやってきていないので人生に満足していない、という相談なのです。人と違っている自分を素直に認める。人と違ってきている感性をもっている自分を素直に認める。人と違う人生を歩めることを素直に感謝する。やりたいことをやってみる国に生まれたことを感謝する。学歴がなくても、お金がなくても、知恵と行動力で何とか生きていけるのが日本です。こんな素晴らしい国に生きているのですから、思いきって行動すればいいのです。行動の方向性が自分の天命であれば必ず結果がついてきます。自分の天命でなければそれは違うよと神様が教えてくれます。行動しない人は、神様も導くことはできません。人生相談というのは、行動しない人だけがやってきます。行動した人は結果が出るので、相談しに来ません。行動しない人の心に火を灯すだけいいのです。心に火を灯す道具に占いをちょっと使えばいいだけです。占いに詳しくなったらからといって、人の心に火を灯すことはできません。火を灯すのは、愛情から出てくる言葉です。愛情があれば、自然とその人にあつた言葉が出てくるはずなのです。それを占いのロジックでそれらしくまとめればいいだけです。愛情がない場合は、占いを三十年間やってきた人でも、その人に合った言葉が出てくることは絶対にありません。

天国に行く人、地獄に行く人

さて、自分が傷つかないために何もしない、相手を傷つけないために何もしない。こういう人があの世に行くと地獄に行きます。そしてあの世に行ったら皆、驚いています。どうして、自分はこんなところにいるのか？と文句を言っています。自分が傷つかないようにするために、また、相手を傷つけないようにするために、人に無関心のまま一生を送る人が増えているので、どんどんと地獄に行く人が増えています。人という字は、お互いに支えあい、助け合うという字ですね。人と人とは、お互いに関心を持ち合うようになっていっています。人でなくとも、動物でも、植物でも、鉱物でさえ、その分子構造を見れば、お互いに関心を持ち合っています。人間は、万物の霊長類ですから、最も高度なレベルでお互いに関心を持ち合うようになっていっていますが、これを拒否した生き方することが最も罪が重たいのです。まだ、殴り合いのケンカばかりしていたとか、相手を傷つけてばかりいたというほうが、人に関心をもつて生きてきたのですから、罪は多少なりとも軽いのです。すくなくとも、人として、一生懸命に生きてきたというのとは間違いありません。人に関心をもつて生きてきたというのが評価されるのです。しかし、他人に関心を持たずに一人で生きてきた人は、本当の意味での**無の世界**に行きます。人がいない世界です。生命がない世界です。生きている人間界の法律では、人を傷つければ無罪ですが、あの世の法律では人に無関心でいることは最大の罪になってしまいます。困っている人がいれば、助けてあげようではありませんか。間違っていることをしている人がいれば、積極的に叱ってあげようではありませんか。見て見ぬ振りをするのは、地獄への第一歩です。

聖書に見る日本人のルーツ（創世記）

人類の最初の家庭が、アダムとエバです。取って食べてはならない実を食べて墮落した家庭です。エバがアダム以外の霊的な存在と性的交渉をした結果、知ってはならない秘密を知ってしまった、アダムに慰めてもらったという解釈をするキリスト教の流派もありますが、その真偽を議論することはしません。アダムとエバの間に生まれた子供が、兄のカインと弟のアベルと末っ子のセツです。末っ子のセツから数えて八代目に、箱舟を作った助かったノアが生まれます。そして、ノアの子供から数えて九代目にアブラハムが生まれ、やがてイスラエル民族へと発展していきます。さて、聖書には、兄のカインが弟のアベルを殺害したとあります。しかし、神はなぜか「カインを殺す者は七倍の罰を受けん」と命令しカインを保護しています。カインは東の国に逃れ、その子から数えて5代目にレメクがいます。レメクには二人の妻がいて、アダとチラといいます。アダはヤバルを産んだ。ヤバルは家畜を飼う天幕に住む者の祖先となった。ヤバルの弟はユバルといい、琴や笛を奏でる者すべての父となった。チラはトバル・カインを産んだ。トバル・カインは鉄や青銅を彫る者となった。トバル・カインの妹はナアマといった。ここから何を連想するでしょうか？

カインの子孫は殺人者にもかかわらず、高度な文明を築いたという事実に着目しましょう。ヤバルは家畜を飼う天幕に住む者の祖先となったというのは、モンゴルのルーツと予想されます。ユバルは、琴や笛を奏でる者すべての父となったというのは、中国や日本の高度な文明のルーツとなったと予想されます。トバル・カインは鉄や青銅を彫る者となったというのも、鍛冶屋のルーツですから、中国や日本の高度な文明のルーツとなったと予

想されます。こう考えると、日本が石器時代から縄文文化へと飛躍的に進化したのは、カインの子孫が一万八千年前に日本にやってきたからだと推測できます。縄文式文化の遺跡は、中国よりも日本に圧倒的に多く、その数は二万箇所になります。中国で発見された縄文時代の遺跡はわずかに千です。カインの子孫が日本にやってきて、日本に縄文文明を作ったということです。つまり、イスラエルは日本の弟という立場ですね。

これが分かれば、日本がイスラエルに対し、どのような立場をとるべきかが、明らかになるのではないでしょう。イスラエルの人達が欲しいのは安住の地です。安心して暮らせる町です。砂漠だらけの中近東の土地が本気で欲しいとは思っていません。そして、世界の金融を支配しているのは、ユダヤ人達です。日本が四季の豊かな安住の土地を提供するかわりに、八百兆円を超える借金をかわりに返済してもらうことだって提案できるはず。そうすれば、国民は一気に年金不安や社会保障の不安から開放されます。

また、過去の二千年の人類の歴史は、一つの神だけを信じる国同士の戦争の歴史です。八百万ともいわれる多くの神様を信じる日本民族の文明は、世界に誇るべきものです。日本の伝統的な神道には教祖がいません。教祖がない宗教は世界でも、神道くらいです。経典すらありません。しかし、何千年も続いてきたのですから、最高に高度なレベルです。もっと、日本人が伝統的な文化に誇りをもつてもいいのではないのでしょうか。

聖書に見る男の仕事・女の仕事（ノア・モーセ・イサク家庭）

聖書には立派な仕事をした人物が面白く描かれています。代表的な人物は、山の上に箱舟を何十年もかけて作ったノアや、エジプトからイスラエル人を脱出させてカナンの地へ導いたモーセです。いずれも、信じがたい神様からの命令を、ただ、ひたすらに信じて従っていった人生です。そこには、知恵があるとか、アイディアがあるとか、頭腦的に優れているといったことはありません。ひたすら、馬鹿に徹して道を進むことが要求される姿があります。男の仕事というのは、このように、本来は一直線の力仕事が多いのかもしれませんが。

それに比べて、女の仕事はまことに心霊的であり、人間関係を調整するようなものです。その代表的な人物が、イサクの妻のリベカでしょう。イサクとリベカの間には、双子の兄弟がいました。兄をエソウといい弟をヤコブといいます。この双子のエソウとヤコブの間で、長子権を巡って跡継ぎの争いが起きます。イサクの愛妻リベカは、荒っぽくて霊的なことを軽視する長男のエソウよりも、家庭的で気配りの細かく霊的なことを重視する次男のヤコブを愛します。一方、父イサクの方は、好物の狩りの獲物を取ってくる野性的で、豪放な兄エソウを愛します。ある時、兄エソウは、空腹に耐え兼ねて長子の権利（遺産相続権）を、パンとレンズ豆の煮物と引換えに弟ヤコブに譲ってしまい長子の権利を軽んじた軽率な事件を起こします。またエソウは、同族結婚を希望する両親の望みに反して、異邦人の娘を二人娶り、イサクとリベカにとつて悩みの種となりました。わたしは、へト人の娘たちのことで生きているのが嫌になりました、と母リベカをガツカリさせています。次男ヤコブを愛する母リベカは、死を前にした父イサクが、長男の祝福を兄エソウにしようとするのを知り、ヤコブを唆して、エソウに上手に変装させ、目の見えなくなった父をだまして、相続権の祝福を奪いとらせます。騙されたことを知った父イサクは激しく体を振るわせて怒り、またエソウも悲痛な叫びを上げて激しく泣いたにもかかわらず、後の祭りです。神の祝福の撤回は出来ませんでした。神の祝福は、エソウからヤコブに移ったとされています。神の前で祝福した

以上、撤回できなかったのかもしれませんが、イサクは、リベカを愛しており亡くなった母（サラ）に代わる慰めを得た、とありますように、イサクは愛妻リベカに頭が上がらなかつたのかもしれませんが。

さて、神の律法から言えば、兄が父親の跡を継ぐ権利があります。しかし、リベカはそれを勇敢にも破ったのです。しかも、一滴の血も流さずに、知恵を使って、兄も父も知らぬまに、弟が父親の跡を継ぐ権利を取ってしまったのです。リベカはイスラエル民族の伝統を引き継ぐには、兄のエソウでは無理だと判断したのでしよう。人間関係を調整する立派な神の仕事をした賢明な女性だと描かれています。そして、イサクは、その妻リベカを許したのでしよう。このように、女の仕事は、人間関係の調整であることが示されています。ヤコブはその後、ヨセフという立派な子供をもうけ、ヨセフはエジプトの首相になっていることから、リベカの行った人間関係の調整は律法を破ったものですが、神から祝福されたことが分かります。

女性には、このような人間関係の調整をする役目が与えられているのだと思います。嫁と姑という関係もおそらくはそういう困難な仕事をやって欲しいという神の願いがあるのではないのでしょうか。

聖書に見る因縁切りの実際（ヤコブの家庭）

さて、そのヤコブには妻が二人いました。二人の妻は姉妹で姉のレアと妹のラケルです。ヤコブは気立ての良い妹のラケルを愛し、ヨセフという子供が生まれました。姉のレアとの間には、多くの子供が生まれました。し

かし、ヨセフは賢明過ぎて、幼い頃から神の言葉を語ったよう、兄達から嫉妬を買ってしまい、ヨセフは奴隷としてエジプトに売られてしまいました。異母兄弟たち12人の中で、愛妻ラケルの年寄り子として生まれたヨセフは、老父ヤコブに溺愛され、彼だけ裾の長い晴れ着を作って貰う位に愛されます。ヨセフは、「兄たちのことを父に告げ口した」り、父母や兄たちがヨセフに「地面にひれ伏す」ような、夢を見たというものですから、兄弟から憎まれて、荒野で殺されそうになります。通りかかった隊商に売られてエジプトに連れて行かれ、ファラオの役人で、侍従長のポティファルに買い取られます。しかし、ヨセフは顔も美しく、体つきも優れていたので可愛がられて、ファラオの高官ポティファルの妻からベッドに誘惑されるはめになりますが断ります。そのため、逆にポティファルの妻から恨まれて牢につながれます。紫微星のモデルとなった封神演義の伯邑と似ています。しかし「主が共におられ」たので、王を悩ました夢の難問——豊作のあと飢饉がくるという——を解いて、王ファラオの信頼をうる機会に恵まれ、牢から出してもらえます。そしてついに、王ファラオの宰相にまで出世し、妻も与えられ、飢饉の対策で大いに手腕を発揮し、ますますファラオの信任を得ます。

この飢饉は、カナンの地にも及び、困窮したヤコブの命により、兄達は食料の買い付けにエジプトにきます。兄達は宰相が自分達が殺したはずのヨセフだと気がつきません。宰相ヨセフも自分を隠して、兄達に食料を売ってあげました。しかし、その食料のなかに王の宝石を忍ばせておきました。兄達がエジプトを出発したあと、宝石がなくなっていることが発覚し大騒ぎになり、兄達を捕まえました。そして、食料を調べたら、身に覚えのない宝石が食料に紛れ込んでいたではありませんか。兄達は、死刑を覚悟しました。その瞬間、ヨセフは、もはや平静を装っていることができなくなり、ついに自分が弟のヨセフであることを告げ、過去を明かします。そして「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか」と、自分が兄弟たちに売られたヨセフであること

を告白します。「神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者として下さったのです。」と、神の計らいのうちにあることを強調して、父ヤコブもエジプトに来て一緒に住むように言います。

ここで因縁切りの物語が隠されていることに気がついたでしょう。兄達は弟を殺したと思っっています。だから、そういう因縁が発生しました。因果応報の原則からすれば、その因縁を切るには兄達が弟から殺されなければなりません。しかし、実際にはヨセフは兄達を殺しませんでした。兄達が死刑を覚悟した瞬間に、ヨセフは因縁が解放されたことを悟ったのです。ヨセフは兄達が犯した罪を償わせるために、あえて宝石を忍ばせたのです。因縁とは、実際に報復を行うことではなく、そういう思いをした瞬間に終わっていることが示されているのです。

さて、神の目からみると一番辛い思いをした瞬間に因縁は切れているのですが、人間の感覚はそれについていません。八歳のときに父親からレイプされた女性がいます。彼女は、四十歳までそのトラウマに悩み続けます。しかし、神の目からみると、八歳のとき、思い切り辛い目にあつたその瞬間に、因縁は開放されているのです。どんな因縁かという点、過去世で自分が父親だったときに、娘をレイプしたという行為です。

筆者も九歳のときに、父親から棒で死ぬほどたたかれました。六歳の妹と一緒に風呂に入っていて、性器に触つたという妹の偽の訴えを聞いたためです。しかし、私は無罪の罪で棒でたたかれました。それ以来、女の人と接触したくないというトラウマと、目上の男の上司は信じられないというトラウマを抱えてしまいました。しかし、死ぬほど嫌な思いをしたその九歳の瞬間に、因縁はもう開放されているのです。どんな因縁かという点、過去世で、

自分が目上だったときに、無実の目下に罪をなすりつけて殺害したという行為です。また、女性を虐待したという行為もあったのでしよう。収入も社会的地位も人格も父親を完全に超えた四十歳になってやっと未熟な父親を許せるようになりました。私の運が劇的に良くなったのはそのときからです。しかし、実際には九歳のときにそれはもう終わっているのです。父親の誤りをカバーするのが、母親の役目だったのでしようが、母親もまた未熟だったわけです。もし、母親がそれをカバーしてくれていたら、もっと早く筆者は社会に貢献できる人間になっていたはずです。しかし、そういう未熟な父親と未熟な母親を選んで生まれてきたのは自分自身の魂です。それくらい、過去世で色々な因縁を作ってきたのでしよう。

最も辛いときが、因縁が開放されたときであるというこの法則を多くの人に知って欲しいと思います。心は深く傷ついたように思いますが、魂はこれで因縁から開放されたと思つて喜んでいくはずで、周囲にいる誰かが、傷ついたその子供を救うことができれば、その子供は人生を無駄に過ごすことがなくなり、子供の頃に心に刻印されてしまった記憶では、確かに心は傷ついているのですが、魂には傷がついていません。だから、それが分かれば心の傷は修復できるはずなのです。因縁を切るということが、知的に分らないから宗教に頼ったりして何十年も無駄な苦勞をしないといけないのです。知的に理解し、このアイデアを信じることができればもう開運しています。心は感情の粒子ですから、素直な人であれば、簡単に修復できます。頑固な人は、いつまでたっても自分は傷ついていると信じているのでなかなか修復できません。子供の頃に、こういった魂の教育はしたほうがいいのです。大人になると、宗教の信仰を信じることはできませんが、こういう新しいアイデアはなかなか信じられません。

極楽への道

さて、ここまで理解してくれば極楽への道はもう見えましたね。子供のとくに起こるカルマは大変ですが、大人になって物事が理解できる大人になってからのカルマは楽です。どんなことが起こっても、その瞬間に感謝をしてこれでまた因縁が一つ解決できたと思えばいいのです。新しく因縁を作ってはいけません。相手を傷つけてはいけないということです。とくに、自分の子供を傷つけてはいけません。テストの点数が悪かったときと良かったときの態度を変えてはいけません。それをやると、テストの点数が悪い自分は親に愛されないと子供は理解してしまいます。テストの点数などで愛情がふくらんだり縮小したりするのでしょうか。そんなのは愛情ではありません。親のエゴです。社会に出ると、上司の機嫌をとって仕事をするだけのつまらないサラリーマンになってしまいます。つまり、リストラされるサラリーマンになるわけです。テストの点数が悪かったときと良かったときの態度を変えるようでは、これからの時代を生き抜く子供には育ちません。テストの点数が悪かったときも良かったときも、変わらず愛しているという姿勢をとらなければなりません。

因縁は弱いものへの虐待という形で出る場合が多いのです。子供を持つ前に因縁は解決しておくべきですが、子供がもう生まれてしまった場合には細心の注意を払って、子供に自分の感情をぶつけないようにしないといけません。残念ながら、子供のためと言いながら、無理矢理子供に勉強さす母親が多いです。母親自身が、子供に勉強する姿勢を示さないうで子供に勉強しなさいというのは、ものすごい自己中心的な愛情という名の暴力であることに気がつきません。世間体などを気にするあまり、学校を休みたいという子供を無理矢理学校に行かせる母

親が多いです。地方の全校生徒三十人の学校には登校拒否をする子供はいないので、そういう地域に引越すればいいのです。夫の不満を言う母親が多くいますが、その多くは夫に対して愛情がありません。愛されたいという夫の欲求を満たしているとは思えない母親が多いです。自分の代で因縁から決別しなくなりません。今の不満や不平は、自分が変わりもしないのに、周りを変えようとする傲慢な気持ちがあることを気がついてください。周りは変えられません。変えられるのは自分自身だけです。自分自身さえ進化していけば、つまり、魂のレベルが上がっていけば、問題は自然になくなっていくのです。自分自身が常に神様から愛される人間であり、その愛を周囲に伝える役目があると思ってください。そうすれば、必ずそうなります。心がそんなふうにならなくても、毎日言葉に出していると心はその言葉に従います。それが、呪文であり、お経なのです。筆者は、宗教組織は嫌いですが、毎日唱えている呪文があります。その呪文は秘密です。日本一のお金持ちの斉藤一人さんの講演では、「ついている、ラッキー、感謝します」と言えば運が良くなると言っていますが、これも本当です。子供は素直にこういう話しを素直に信じますが、大人はなかなか信じられません。筆者は、子供にこういう学校では絶対に教わらないことだけを教えています。こういう家学こそが、子供に残せる最も重要なものです。

受講生からの質問

女性にもてないという質問

(Kさん) 僕は今までもてたことがないです。

(講師) Kさんは、セミナーの時間中に四回以上、「もてない」という言葉を言ったでしょう。何度も何度も日本は言霊の国だといったでしょう。「僕は全然もてない人間です」って、自分で心に命令しているわけ。僕は全然もてませんという言葉が先にあるから、心がそれに従うのです。言葉を変えたほうがいい。心なんてどうでもいいのよ。先に言葉があつて後から心がそれに従うのですよ。心を急に変えなさいって言ったつて無理でしょう。強く思えばお金が降ってくる、思えば何とかなるという成功本が沢山出版されていますが、そんなに簡単に思いが変わるわけありません。成功本は無理を言います。心が簡単に変わるのなら、一瞬でみんなハッピーになるのよ。変わらないから苦労するんですよ。成功法則はウソだから。あんなの信じちゃだめよ。心は言葉に従うんだから。日本人はそうなんです、言霊の国だから。日本は形の国でしょう。剣道にしるお花にしる柔道にしる、すべて形から入りますよね、基本形からです。あの形が基礎なんですよ。日本はそういう国なのです。形を作っていけば自然と心はそれに従うんです。繰り返し繰り返し形を作っていけばいいんです。これは日本人の得意技なので、成功するためにはこれを使わないとだめですよ。だから、「僕はもてます」って言わなきゃだめなの。「今は彼女がいませんが一年以内にできます」って言うのです。そうすると本当にその通りの心になるのだから。今日から「もてません」って言っちゃだめだよ。どこにいつても「僕はもてます」って言うんだよ。

金持ちになりたいという質問

(Mさん) 僕は今まで真理を学習してきたと思っていました。しかし、その宗教に所属する人は皆貧乏でリストラされるサラリーマンばかりです。なぜでしょう。

(講師) キリスト教の組織は本当に人をダメにしますね。真理を追究するはずで宗教に入ったのに、真理というアイデアよりも信仰そのものに価値をおいた結果ですね。実は億万長者になる秘訣もさっき言ったことと同じです。心を無理して作ろうとしてもダメなの。心で願えば何とかなるなんてウソなの。Mさんのいたキリスト教の宗教組織でもさんざんやってきたでしょう。言葉に出すのは、宗教では祈りですよ。私は生まれながらにして原罪のある罪人です、という許しを願う自虐的な祈りを毎日言っているでしょう。だからMさんの所属する宗教組織の人は、全員自虐的で絶対に成功しない貧乏人の集まりなんです。祈りというのはこういうことなのです。言葉に心は従うのです。心は感情だからね。感情が言葉についてくると、行動もそうなってくるのです。成功するために行動しろというのは言葉が変わった後の段階の話です。簡単にはできるわけないんです。今まで行動していなかった人に行動しろと言っても絶対できないですよ。言葉を出し続けて、心の中が入れ替わるまで時間がかかりますよね。多分Mさんは、三年間ぐらいかけてやっと変わってきたのですね。だから、オーラ診断の機械を二百万も出して買ったのでしょうか。心が言葉によって変わってきて、心に火がついたわけでしょう。

(Mさん) はい。なんだか、これしかないと思ってしまいました。

(講師) 心に火がついたんですよ。ということは魂の火が燃えているのだから、購入した機械が真理とか真理じゃないとかは関係ないんですよ。魂に火がついたのだから、Mさんにとっては、その機械は今の時点では真理なんですよ。神様の目から見たら、魂の死んだような人が、やっと四十歳前になって火がついたのだから。Mさんの魂の火が燃えたら、それがMさんだけの真理なんです。他人は関係ないですよ。それから、お金は一元を大切にしましょうね。道路に一元が落ちていたら、なんだ一元かではダメです。一元がかわいそうと思って助けてあげるのです。そしたら、一元のお父さんお母さんがお礼にやってくるのです。筆者の子供にはそういう教育をし

ているので一円を良く拾ってきます。そしたら、百円を拾ってきたり、くじに当たって景品が沢山もらえるようになりました。子供は素直なのでそういうことを通して神の存在とお金の気持ちを実感していくのです。

男と女の愛の質問

(Mさん) 愛の主体は男で、男が女に愛を与えると宗教では教えられてきましたが、これは間違いですか？

(講師) これから話す内容は、信じなくてもいいですよ。自分で好きなほうを選んでくださいね。どれを信じるかは、私の仕事ではなく、Mさんの仕事ですから。女は愛したい動物で、男は愛されたい動物なんです。異性を選ぶ権利は女性にあります。愛の主体は女性なんです。これはMさんの宗教の教えとは逆ですね。もし、Mさんの奥さんがいなくなつて三年間、四歳の子供の面倒をみるつて言つたらどうなりますか？精神が持たないでしょう。女性は二人でも三人でも、忍耐できるんですよ。どちらが愛が大きいかというと、圧倒的に女性のほうが大きいんですよ。例えば、男が女をレイプしたとするよ。男は生殖器がちつとも満足しません。レイプしたあとは寂しい気持ちになつてますます地獄にいくわけです。だから、またレイプするわけ。そしてまた寂しいと落ちていつてまたレイプします。どんどん落ちていくんです。女の人から愛がもらえないから。女の方は、レイプされたら男にどんな思いを持つかという、憎むという気持ちが発生しますが、かわいそうな男ねという同情心も湧いてくるのです。愛情のある女の方はそう思うんですよ。私の肉体を使って多少は男が救われたのなら、仕方がないと思うのです。男は絶対そんな風に思わないでしょう。それぐらい女の人の愛のレベルは高いんですよ。愛の主体は女性なんです。だから女の尻追いかけちゃだめなんです。追いかける権利はないんです。男は女の人から、あなたが好きですって言われると、だいたいは喜んで抱くでしょう。でも、女の立場になると、追いかけた

い男って言うのはそう多くはないんですよ。いい男を見ると沢山の女の人が寄ってくるでしょう。だから一夫多妻制になっちゃうんです。聖書に出てくるようなヤコブの妻レアのようなしつと深い女性にとつては、一夫多妻制は嫌なシステムです。セックスする相手ができないダメな男にとつても、一夫多妻制は嫌なシステムですね。一夫一妻制というのは、セックスできない男と愛の不足した女のためには都合が良いシステムのような気がしません。性欲が強い人は、セックスによって神に近づくように設計されているので無理に抑える必要はありません。

お金持ちになる人は財星がないという質問

(Mさん) 最近、財星がないのに金持ちになっている人が多いような気がします。普通の四柱推命では財星がないとお金持ちにはなれないとありますが変ではありませんか。

(講師) 十年間も普通の四柱推命スクールに通うとそんな方程式が刷り込まれるのですね。現実を見てください。例えば百人の人がいると、そのうち社長になれるのは一人だけです。じゃあ百人中一人しか財星がないの？(Mさん) そうなんです。前からそれは思っています。日本の社長、何人財星をもっているのかって考えると、そんなわけないって考えたんですが。

(講師) じゃあ、社長になれない九十九人と、社長との違いは何？

(Mさん) 自分が責任持つか、それとも人に責任を持たれるか。

(講師) 自分の言葉で言わないと。

(Mさん) 他に先駆けている人。

(講師) Mさんもこれから社長をやるんだから、自分の言葉で言わないと。

(Mさん) 自分でやりたいから。

(講師) その答えが近いですね。自分で作った言葉でしょ。自分で作った言葉のほうが真理に近いんですよ。自分でやりたいってことは、今の仕事では自分が生きていないということでしょう。自分らしくありたいってこと。自分らしくありたいってことは、今は、命式通りの人生じゃないと言ってしまうでしょう。今はゾンビ人間で楽しくないでしょう。霊的には死んでいる状態ですね。具体的には、「庚」らしくない。「食傷」らしくないんですよ。全部星が死んでいるんですよ。サラリーマンはそういう状態の人が多し。星が生きている人は、百人中一人ぐらいしかいないってことよ。日本は世界一キャッシュを溜め込んでいる国です。しかし、国民は元気がない。自信がない。このままキャッシュを使わないで溜め込んでいると、国がダメになってしまいます。どんどん、お金を稼いで、どんどんお金を消費する心臓の役目をする人がいないと、国が腐ってしまう。だから、日本の神様はそういう人がいたら、お金を与えるのですよ。神様が見れば、印星だろうが、官星だろうが、財星だろうが関係ないんですよ。魂が生きてる人にお金を上げるしかないんですよ。生きてる人が日本を引っ張っていくしかないんですよ。魂が死んでいる人には期待できないでしょう。魂が生きてる人だったら、どんな命式だろうと運が来るんですよ。だからどんな命式でも、今は成功するんですよ。もし国民全員の魂が生き生きしていて、皆が元気になると、財星がないとお金持ちになれない時代が来るかもしれないですが…。

父親が十六歳のときに自殺しているのですが

Mさんは、高校生のときにグサツとものすごいショックを受けたわけですね。お父さんから愛されなかったという恨みも悲しみもあるでしょう。しかし、高校生の子供を残して死ぬということは、ものすごいエゴイストな

親、ものすごい未熟な親ということももう分かるでしょう。Mさんの魂よりも、幼いのです。許してあげましょ
うよ。神様の視点では、もうMさんの因果は一番辛い思いをした瞬間にもう終わっているんですよ。しかし、現
実は、引きずっていますね。Mさん自身が今、子供に対してもものすごく自信がないわけですね。Mさんの親と
同じような心情になっているのです。だから、所属している宗教がありながらも今こうやって、変なセミナーに
も来ていっているわけでしょう。因縁とは、親の子供に対する気持ちなんです。今、Mさんは、自分の父親と同じよ
うな事をやってはいけないって思っ、人生を切り替えようとしていますね。現実の生活で、因縁から開放され
ようとして一生懸命なんです。Mさんが、この因縁から開放されると、もう子供は因縁から開放されるわけ
ですよ。脳は癖がつきやすいですから、Mさんは、何十年もかかって刷り込まれた自虐的な思考の癖を今、急激に
直しているところです。知的にはもうその因縁から開放されていますので、あとは感情的にも開放されるのは時
間の問題だと思います。

神様がいるとしたらどうして戦争が続くのですか？

神には二面性があって、破壊と創造という二つの役割があるのです。二千年前は破壊の時代でしたね。これま
でさんざん金融工学を駆使してお金儲けをして、世界を支配してきた連中（ロスチャイルドやロックフェラーな
ど）が見事に自分で崩壊していったわけでしょう。神様は、悪いものでも完璧なパフォーマンスを演出するまで
やらせるのですよ。暴れたい放題やらせるということなのです、コントロールしないのです。さんざんやらせて
勝手に崩壊していくのを待っているのです。ちよつといじくれば全壊するまで放置しておくわけです。と、同時
に創造の神も動き始めていますよ。神様は何を破壊して何を創造したいのかを勉強することです。今まで儲かっ

ていたやつが破壊されているのだから、じゃあこっちななど思ったならそれに乗ればいいのですよ。大きな流れだからどんなに能力がなくても大きな神様の運の流れに乗ると必ず成功しますよ。地球規模でこの運勢が来るのですから、この新しい運のジェット気流を発見した人が勝ちなのですよ。それがMさんの場合はオーラ診断なのかもしれないですね。

ちなみに歴史上の人物でMさんのように食神・傷官が強い人は誰かを教えましょうか。天文学の父、ガリレオ・ガリレイですね。ガリレオ・ガリレイは、教会の権威に盲目的に従うことを拒絶し、キリスト教的哲学やキリスト教神観の百パーセント善なる神といった考え方では科学は発展しないと主張しました。現実には善なるものと悪なるものの混合であるから神もまたそういう存在であるという現実を重視した発想で、「科学の父」と呼ばれることもあります。実験を繰り返した結果、地球が動いているということを発見し、「地動説」をとるなえ、終身刑となりました。当時の宗教では、地球が動くというのは神に対する反逆だとされていたのですね。こういう伝統的なものを打ち破る通変星が、食神・傷官なのですよ。おとなしくしていれば有名な学者として人生を送れたはずなのに、教会から異端視されたことで犯罪人となってしまったのです。

もう一人紹介しましょう。政治家のアドルフ・ヒトラーも食神・傷官が強い人です。ユダヤ人を迫害したことで有名ですが、やがてユダヤ人が世界の金融を支配するだろうという危機感がその根底にあったことはあまり知られていません。普通は気がつかないですね。また、科学の発展により、水や大地が汚染され、人間の健康に害を及ぼすことも予知していました。霊的な能力が優れていて何百年も先を予知して今を生きた人です。ドイツのアウトバーンも自動車産業の発展を見越して開発されたものだと言われています。こういう伝統的なものを打ち破る通変星が食神・傷官なのですよ。もうそろそろ思い切って、行動をスタートさせたほうが良いと思いませんか。